

平成 27 年度三浦版 CCRC 構想検討調査事業

成果報告書

2016 年 3 月 31 日

三 浦 市

目次

1.	はじめに	1
1.1	業務目的	1
1.2	課題認識	1
1.3	総合戦略における CCRC の位置づけ	2
2.	三浦市の現状と課題	3
2.1	三浦市の概要	3
2.2	人口	5
2.3	産業	10
2.4	観光客数	11
3.	三浦市の社会資源の整理	12
3.1	自然環境・立地	12
3.2	産業・観光	13
3.3	医療施設	15
3.4	介護施設	17
3.5	福祉施設	20
3.6	教育施設等	21
3.7	地域活動・コミュニティ	22
4.	居住者ニーズ調査	23
4.1	居住者ニーズ調査の概要	23
4.2	居住者ニーズ調査結果の分析	25
5.	事業者ニーズ調査	30
5.1	事業者ヒアリング項目	30
5.2	ヒアリング対象事業者	30
5.3	ヒアリング結果の概要	31
5.4	ヒアリングを踏まえた CCRC 事業の展開可能性	34
6.	CCRC 展開可能性の検証	36
6.1	CCRC 関連事業の国内事例	36
6.2	三浦版 CCRC 構想のコンセプト	44
6.3	三浦版 CCRC 構想の全体イメージ	47
6.4	三浦版 CCRC 構想の展開モデル	48
7.	運営推進機能の検証	51
7.1	事業主体に期待される運営推進機能	51

7.2	コーディネーターの配置	53
7.3	地域交流拠点の形態	54
8.	求められる制度の検討（特区、都市計画、税制度）	56
9.	CCRCのメリット及びデメリットの整理	57
9.1	定性的影響・効果	58
9.2	定量的影響・効果	59
10.	協議会の設置及び運営支援	67
10.1	協議会の開催内容	67
10.2	協議会での主な指摘事項	68
11.	構想実現に向けたスケジュール及び課題の整理、課題解決の検討	70
11.1	構想実現に向けたスケジュール	70
11.2	三浦版 CCRC 構想の実現性を担保する方策	71
12.	参考資料	72
12.1	居住者ニーズ調査	72
12.2	医療・介護負担や経済波及効果などのシミュレーション	91

1. はじめに

1.1 業務目的

平成 27 年 10 月に三浦市が策定した「三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）では、「三浦市における安定した雇用を創出する」ことを最重要課題として取り組むこととしている。

総合戦略では、雇用創出や人口減少抑制を実現するための基本的方向として、農業・漁業・観光業の連携による観光振興、市内への企業誘致とそれを支援する環境の整備、基幹産業である水産業の活力維持、農業生産性の維持・向上、地元雇用の場としての商業・工業の活力の維持・向上を掲げている。

本業務では、総合戦略において、市内への企業誘致とそれを支援する環境の整備に向けた具体的施策として「日本版 CCRC の三浦市への導入検討」が明確に位置付けられたことを受け、三浦市での活躍を望む首都圏アクティブシニアの移住や、定住の受け皿における地元住民の雇用創出を実現する実行計画の策定支援を行うことを目的とする。

※本業務において「首都圏」とは、東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県の 1 都 3 県を指す。ただし、三浦半島の 4 市 1 町は除く（以下同様）。

1.2 課題認識

三浦市はこれまで人口減少に危機感を持ちながらも抜本的な解決策が見出せていない。このような状況下においては、三浦版 CCRC 構想を策定する一方で、各施策の実現性をどのように担保していくのか検証していくことが極めて重要である。

また、「（仮称）三浦半島魅力最大化プロジェクト素案」に位置付けられた「未病を治す半島宣言の推進」や「個性あふれる地域づくり」を実現していくため、企業間連携の仕組みや地域コミュニティの構築に向けた環境整備も求められている。

さらに、三浦市では、出生率の低下、若い世代の流出にともない、全国と比較しても高齢者が多い自治体となっている。首都圏アクティブシニアの移住・定住により、日常の生活や社会経済活動による消費効果とその経済波及効果が期待される一方で、中長期的には医療・介護保険財政への影響も懸念される。

1.3 総合戦略における CCRC の位置づけ

「三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、本市は4つの基本目標（①安定した雇用の創出、②新しいひとの流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望を叶える、④時代にあった地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する）を掲げている。①安定した雇用を創出する中で、三浦版 CCRC 構想が位置づけられており、事業者が参入しやすい環境づくりを行うことが記述されている。

図表 1-1 総合戦略の整理

基本目標	基本的方向	具体的な施策
三浦市における安定した雇用を創出する	6次経済の構築	<ul style="list-style-type: none"> 観光の産業化・雇用創出 海外の旅行会社に対するトップセールス 「新・観・核推進協議会」への事業実施支援 各種イベント実施 インフラ整備
	事業活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 二町谷地区埋立地への企業誘致 旧三崎中学校跡地などの利活用
	水産物の取扱量の維持・拡大	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な安定供給 三崎漁港の高度衛生管理化 「浜の活力再生プラン」の推進支援
	農業生産性の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> 畑地かんがい施設、農道、排水路の総合的な整備 有害鳥獣被害対策 男女農業者と都市在住者との農業体験型交流イベント
	商業・工業の活力維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> 商工会議所への助成 建築職業訓練校への助成 まちおこし団体への支援
三浦市への新しいひとの流れをつくる	市内への転入促進・転出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 市内の空き物件を利用したお試し居住の実施 市民の行う移住促進イベント 神奈川県の実施する移住セミナー PPPを活用した子育て賃貸住宅の検討 線引き見直しに向けた取り組み 三戸小網代土地区画整理事業の準備事業の支援
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子育て世帯の定住を維持	<ul style="list-style-type: none"> 小児が医療機関を受診した際の自己負担額を全額助成 幼稚園・保育園に対し園児が使用する遊具・教材を購入する費用の助成 保護者向けの子育て支援プログラムの実施 妊婦健診助成の内容充実
	子育て世代のワークライフバランスの実現	<ul style="list-style-type: none"> ファミリーサポートセンター事業及び病後児保育事業の開始 放課後児童クラブの運営に対する補助 男女共同参画社会についての研修・啓発
	若者の結婚の希望を叶える	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県の子育て支援事業と連携した出会いの創出
	地域と連携した教育、授業に対する満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> 東京大学三崎臨海実験所と連携して開発した教材の活用による三浦らしい海洋教育 教員の資質向上や、指導の充実 学校の適正配置についての検討
時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	保健医療にかかる社会コストを抑制	<ul style="list-style-type: none"> がん検診事業、成人歯科健康診査事業、健康診査事業、特定健康診査等事業などによる病気の予防・健康増進策 保険2会計全体の1人あたり給付金の抑制
	施設入所を必要とする要介護者の増加を抑制	<ul style="list-style-type: none"> 介助者支援や認知症高齢者の支援 はり・きゅう・マッサージ助成券及び寝たきり高齢者出張理容・美容サービス利用券の助成 県立保健福祉大学と連携し、高齢者の生活実態の問題点の調査による地域ニーズの把握 社会実装型の製品サービス開発拠点（リビングラボラトリー）での地域課題のニーズ・シーズマッチング 未病を治すための健康指導教室
	市有財産の適切で効率的な管理・運用	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設など総合管理計画の策定及び計画の推進
	空き家についての対策	<ul style="list-style-type: none"> 空家の実態把握のための調査及び適正に管理されていない空き家の対策

2. 三浦市の現状と課題

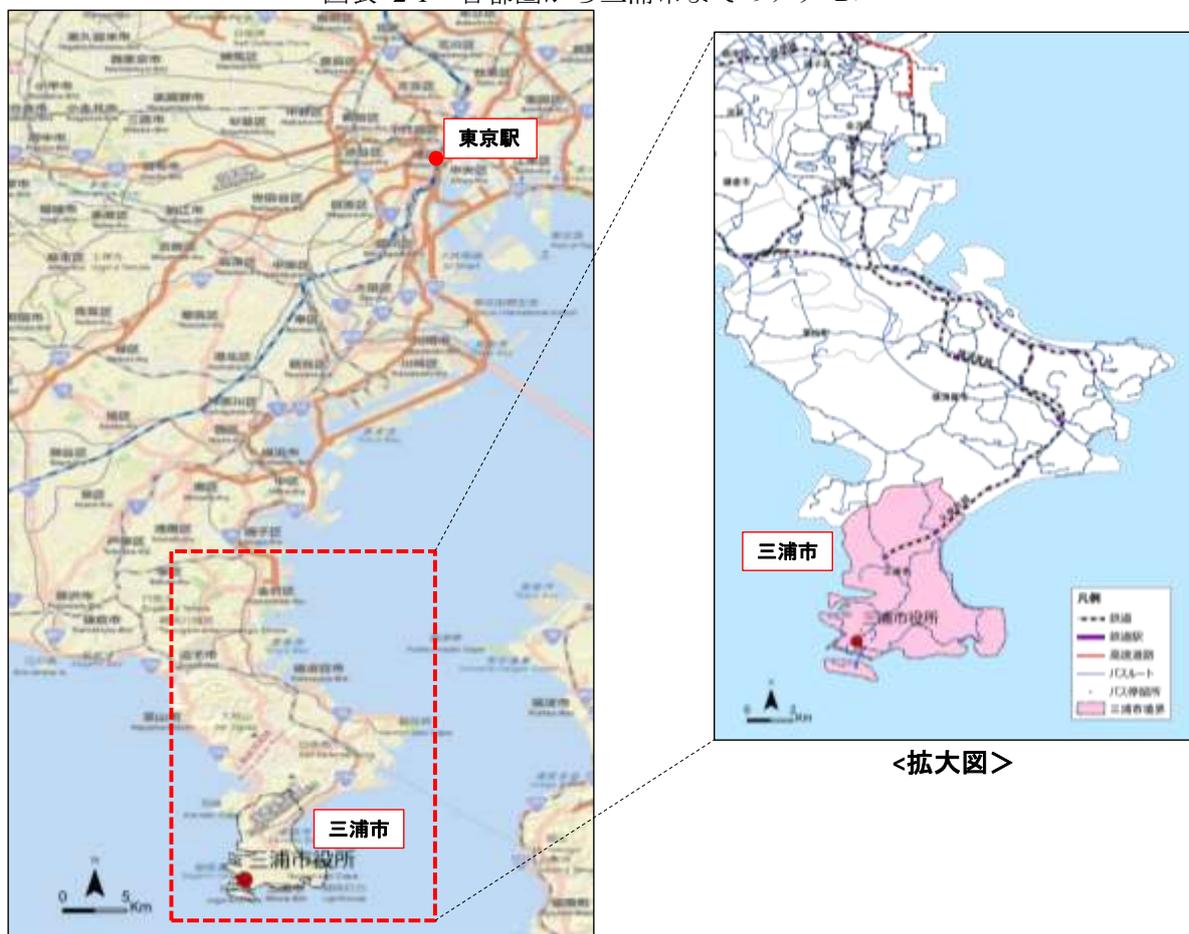
2.1 三浦市の概要

三浦市（以下、本市）は、神奈川県南東部に位置し、直線距離で東京から南に約 60km、県庁所在地の横浜からは南に約 30km の距離にある。東西に約 5km、南北に約 8km の広がりを持ち、平均海拔は 50mほどと台地に位置する。首都圏からのアクセスは、鉄道（京浜急行線）で約 110 分、自動車（横浜横須賀道路）で約 90 分であり、都内からのアクセス性は良い。

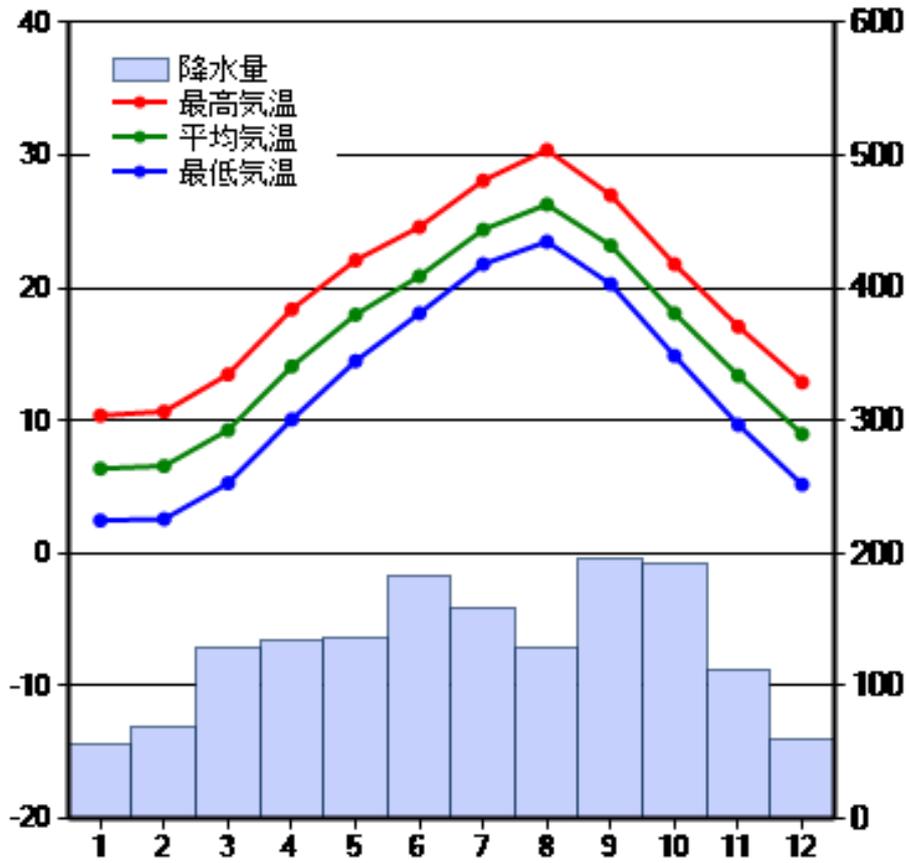
また、本市の気候は、年間平均気温は 16.5 度、年間平均降水量は 1367.5mm であり、比較的温暖な気候であるといえる。

平成 27 年国勢調査の速報によると、2015 年 10 月 1 日現在の本市総人口は 45,302 人である。社人研の推計によると、2060 年には老年人口が総人口の 49.1%にのぼるなど、今後は全国的な少子高齢化の動向と一致すると推計されている。

図表 2-1 首都圏から三浦市までのアクセス



図表 2-2 三浦市の年間気温・年間降水量



出所) 「気温と雨量の統計」 <http://weather.time-j.net/Stations/JP/miura>

2.2 人口

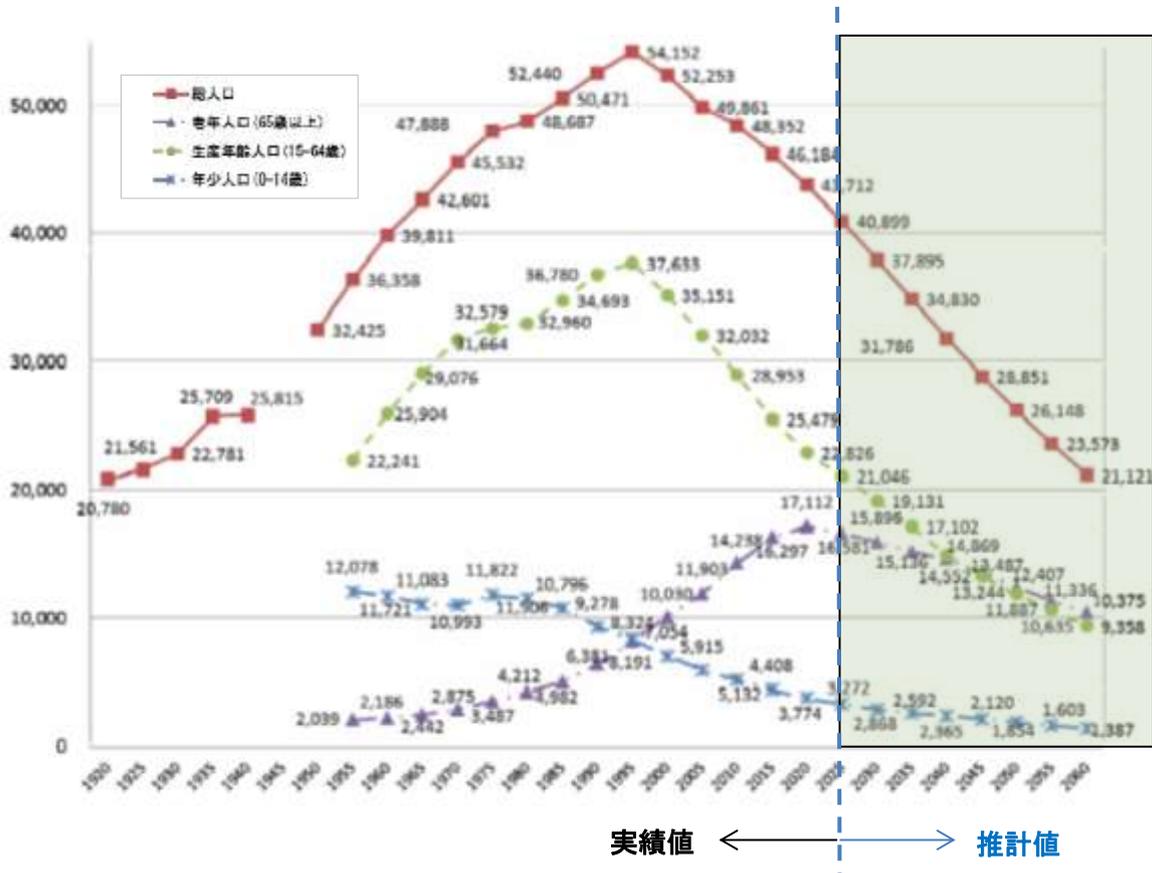
本市の人口については、2015年10月に策定された『三浦市人口ビジョン』を参考に記述する。

2.2.1 人口推移と人口推計、年齢3区分人口の推移

本市人口の全体的な動向は、1995年ごろまでは増加傾向で推移していたが、1995年に人口のピークを迎えて以降、減少に転じている。将来の人口については、2060年には21,000人台に減少する見込みであり、これは1925年頃の水準に等しい。

次に、年齢3区分別の人口割合を見てみると、2010年時点では、14歳以下の年少人口が10.6%、15～64歳の生産年齢人口が59.9%、65歳以上の老年人口が29.4%である。しかし、2060年には年少人口が6.6%、生産年齢人口が44.3%と減少する一方で、老年人口が49.1%と大きく増加するという推計結果となっており、全国的な少子高齢化の動向と一致することが見込まれる。

図表 2-3 三浦市の総人口及び年齢別（3区分）人口の推移と推計



出所)「三浦市人口ビジョン 三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」p. 4

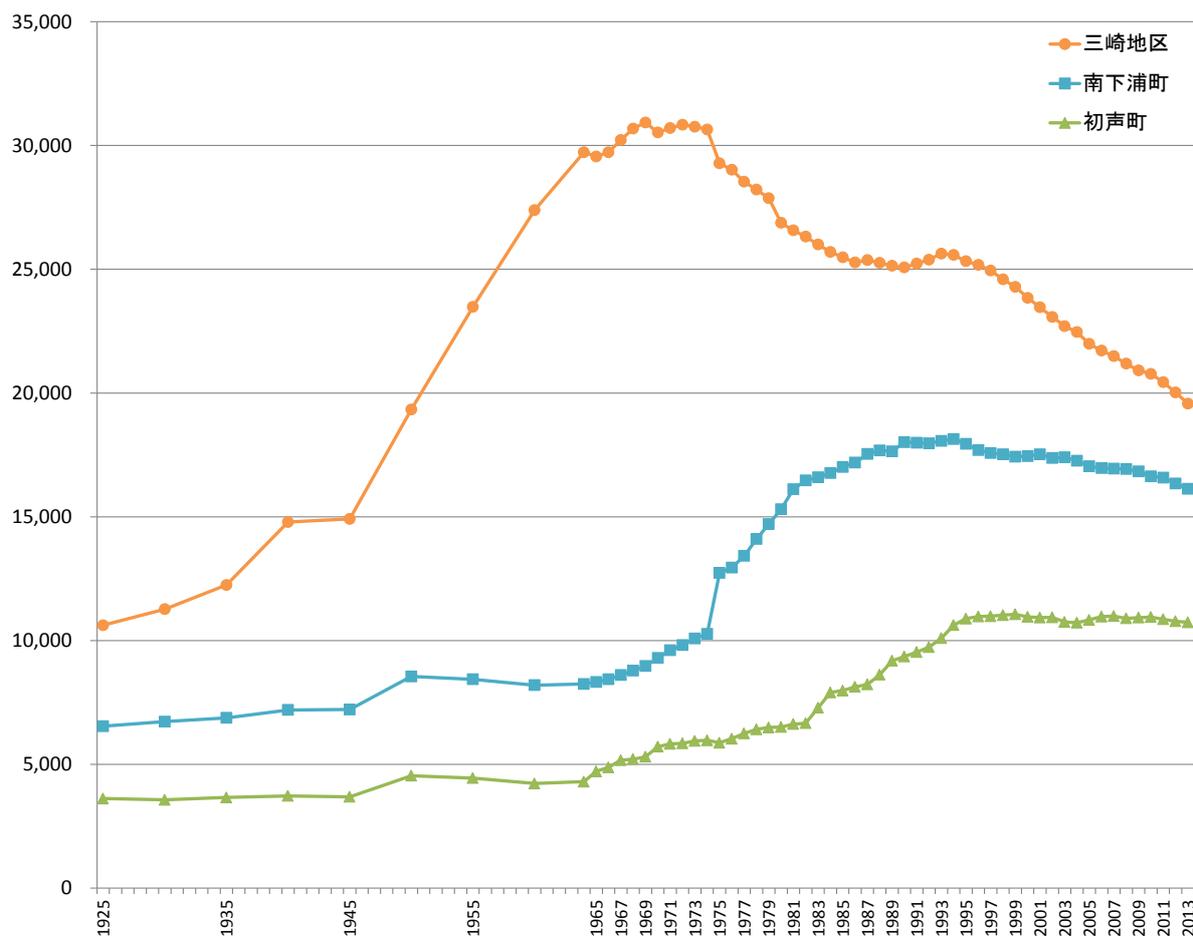
<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/sousei/documents/visionsenryaku.pdf>

2.2.2 地区別人口の推移

本市は、戦後の三崎地区における急激な人口増加により、1970 年前後までは市全体人口の約 70%が三崎地区に集中していた。

しかし、1966 年に三浦海岸駅（京浜急行線）が、1975 年に三崎口駅（京浜急行線）が開設されると、駅周辺に集合住宅や分譲住宅が建設され、3 地区における人口構成比に大きな変化が見られるようになった。2013 年には、三崎地区が市全体人口の約 42%、南下浦町と初声町がそれぞれ約 35%、約 23%と各地区に人口が分散した。

図表 2-4 三浦市の地区別（3 区分）人口の推移と推計



出所) 「三浦市統計書平成 25 年度版」

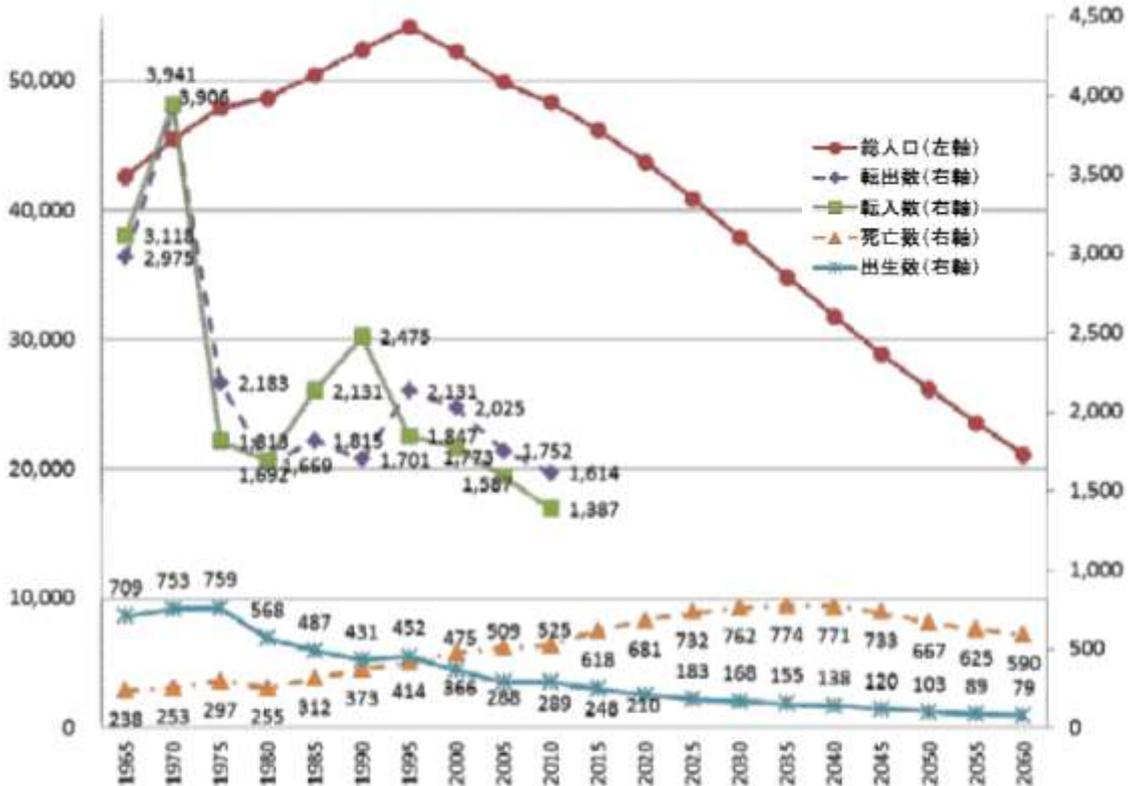
<http://www.city.miura.kanagawa.jp/toukeijyouhou/toukei/25toukeisho.html>

2.2.3 転入・転出数の推移、出生・死亡数の推移

自然増減を見てみると、本市の総人口がピークに達する1995年までは、「自然増（出生数が死亡数を上回る）」が続いていた。しかし、2000年以降になると「自然減（出生数が死亡数を下回る）」となり、2040年まで自然減の傾向は拡大していく見込みである。

また、社会増減を見てみると、1980年から1990年までは大規模開発などの影響により、「社会増（転入数が転出数を大幅に上回る）」であったが、1995年以降は「社会減（転出数が転入数を上回る）」に転じている。

図表 2-5 三浦市の総人口、転入者数、転出者数、出生数、死亡数の推移と推計



出所)「三浦市人口ビジョン 三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」p.5

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/sousei/documents/visionsenryaku.pdf>

2.2.4 人口移動

人口の転出入をしてみると、全体としては「転出超過（転出者数が転入者数を上回る）」であり、転入転出先ともに神奈川県内が6割以上を占めている。

神奈川県、東京都、千葉県、静岡県については転出超過であるが、埼玉県、茨城県、大阪府については転入超過（転入者数が転出者数を上回る）となっている。

図表 2-6 三浦市へ転入した人の前住所（平成 24、25 年計）

転入前の 住所地	総数	%	0～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上
全国	2,206		131	76	50	91	273	312	218	204	148	106	80	91	93	333
神奈川県	1,508	68.4%	101	58	33	68	159	214	140	145	108	72	61	62	63	224
横須賀市	811	36.8%	69	39	27	45	83	102	75	94	48	34	36	32	25	102
横浜市	406	18.4%	17	13	4	19	43	64	34	35	35	21	18	17	17	69
東京都	242	11.0%	11	7	1	3	31	33	34	17	14	12	7	14	13	45
川崎市	93	4.2%	4	1	2	0	5	19	11	2	7	7	2	7	9	17
金沢区	72	3.3%	2	4	1	5	5	13	7	6	4	2	3	2	2	16
千葉県	71	3.2%	6	0	4	2	12	10	7	9	4	4	2	3	2	6
埼玉県	68	3.1%	1	0	3	3	6	10	8	3	4	6	1	4	4	15
南区	40	1.8%	3	3	2	2	3	11	4	3	1	1	0	1	0	6
静岡県	35	1.6%	2	2	0	1	6	5	3	5	1	2	2	0	3	3
鶴見区	33	1.5%	0	0	0	2	6	3	3	2	3	3	2	2	1	6
港北区	31	1.4%	2	1	0	1	4	3	2	3	3	4	1	2	3	2
大田区	30	1.4%	1	1	1	0	4	3	4	1	0	0	1	3	2	9
藤沢市	30	1.4%	2	0	0	2	4	5	5	2	2	4	0	1	1	2
港南区	28	1.3%	3	1	0	1	0	2	2	2	4	1	0	3	3	6
中区	27	1.2%	2	0	0	0	2	2	3	1	4	2	3	1	1	6
茨城県	26	1.2%	0	1	1	1	3	4	2	4	2	1	1	0	0	6
魏子区	25	1.1%	2	0	0	0	1	8	1	1	3	0	1	0	3	5
世田谷区	25	1.1%	3	0	0	0	4	2	1	5	2	2	0	0	1	5
大阪府	24	1.1%	0	1	0	2	5	6	1	1	0	2	1	1	1	3

出所)「三浦市人口ビジョン 三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」p.9

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/sousei/documents/visionsenryaku.pdf>

図表 2-7 三浦市から転出した人の転出先（平成 24、25 年計）

転出後の 住所地	総数	%	0～ 4歳	5～ 9歳	10～ 14歳	15～ 19歳	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上
全国	2,780		147	56	54	131	430	509	321	257	153	121	83	86	114	318
神奈川県	1,991	68.0%	105	43	42	96	264	357	218	184	107	81	58	50	76	210
横須賀市	1,001	36.0%	63	35	35	63	121	149	111	104	66	47	34	25	38	110
横浜市	587	21.1%	28	8	4	21	89	151	66	62	26	23	15	17	18	59
東京都	327	11.8%	12	1	7	12	80	65	40	26	21	7	6	10	6	34
金沢区	93	3.3%	8	1	0	3	11	26	13	8	5	2	0	2	2	12
川崎市	87	3.1%	3	0	1	3	16	21	11	4	6	3	2	4	3	10
千葉県	80	2.9%	5	0	1	7	14	12	10	9	3	4	2	2	2	9
埼玉県	67	2.4%	5	0	0	2	10	12	8	8	4	2	2	3	4	7
南区	84	1.9%	0	0	1	0	13	11	5	3	3	2	4	1	3	8
静岡県	51	1.8%	2	1	0	1	10	5	5	2	2	5	5	2	2	9
港南区	45	1.6%	1	1	0	4	5	13	5	8	1	2	0	1	3	1
魏子区	44	1.6%	2	0	0	2	5	12	5	4	1	3	3	2	0	5
大田区	40	1.4%	1	0	0	0	10	10	8	4	2	0	1	0	0	4
港北区	39	1.4%	2	0	0	0	5	17	4	2	0	1	1	0	1	6
藤沢市	36	1.3%	1	0	1	1	8	8	6	4	1	1	1	0	2	2
鶴見区	35	1.3%	0	0	0	0	6	15	1	2	2	3	1	2	2	1
中区	35	1.3%	2	0	0	1	6	5	3	9	2	1	1	2	1	2
神奈川県	34	1.2%	2	0	2	1	7	11	4	2	4	0	1	0	0	0
西区	33	1.2%	2	1	0	2	3	10	6	4	1	1	1	0	1	1
戸塚区	32	1.2%	2	1	0	0	2	3	10	2	0	0	0	3	2	7

出所)「三浦市人口ビジョン 三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略」p.10

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/sousei/documents/visionsenryaku.pdf>

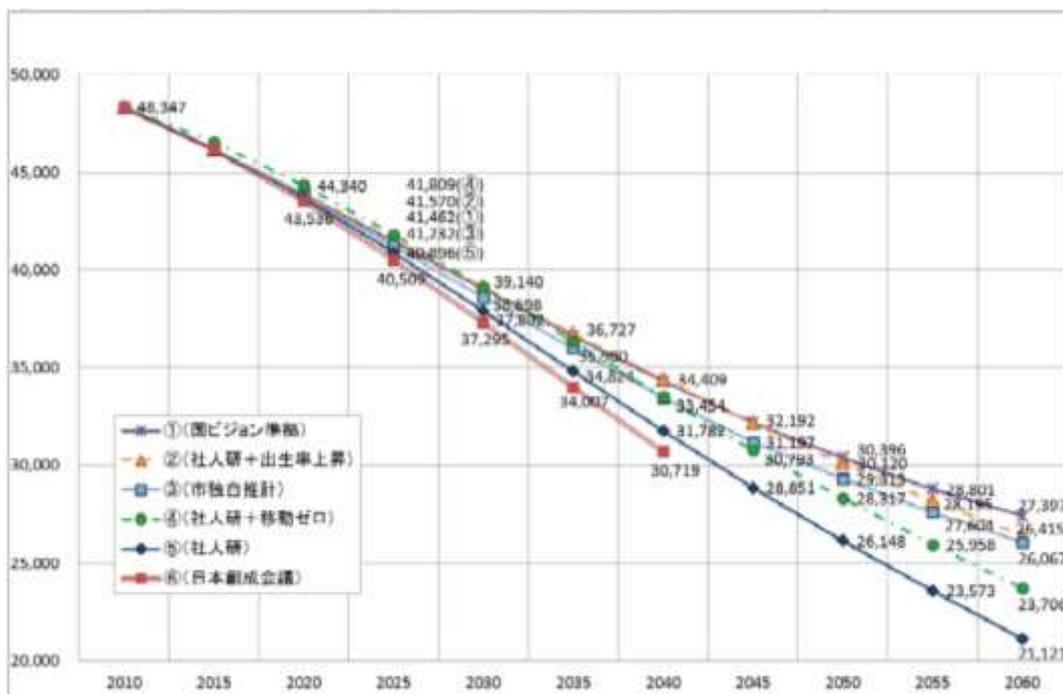
2.2.5 人口推計

「三浦市人口ビジョン」を見てみると、設定された6つの推計パターンいずれにおいても、人口は緩やかに減少していくという結果が出ており、2060年には人口は約25,000人前後になると推計されている。

その中でも、国のビジョンである2030年に合計特殊出生率1.80、2040年に2.07、2040年に移動率がゼロという条件が整えば、人口は6パターンの中でも最も多い27,397人（2060年）と推計されている。

社人研による推計（推計パターン⑤）では、2060年には21,121人と推計されているが、本市で総合戦略の施策を実施した場合（市独自推計（推計パターン③））、2060年には26,067人と推計されており、施策効果により約5,000人の人口増加が見込まれている。

図表 2-8 三浦市の人口の将来展望



推計パターン	推計内容
①国ビジョン準拠	国の長期ビジョンに準拠し、2030年に合計特殊出生率1.80、2040年に2.07になると仮定。移動率は2040年にゼロになると仮定。
②社人研+出生率上昇	社人研（国立社会保障・人口問題研究所）の推計に、パターン1のうち出生率の仮定のみ適用（移動率の仮定は社人研と同じ）。
③市独自推計	市の出生率が国より低いことを勘案し、平成62年までに合計特殊出生率が2.07になると仮定。移動率は2040年にゼロと仮定。
④社人研+移動ゼロ	移動率がただちにゼロになると仮定。
⑤社人研	「収束する」ことを仮定した移動率を設定。
⑥日本創成会議	独自に「収束しない」として移動率を設定。

出所)「三浦市人口ビジョン」p.14,15

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/sousei/documents/visionsenryaku.pdf>

2.3 産業

本市の主要な産業について『三浦市の産業』を参考に記述する。

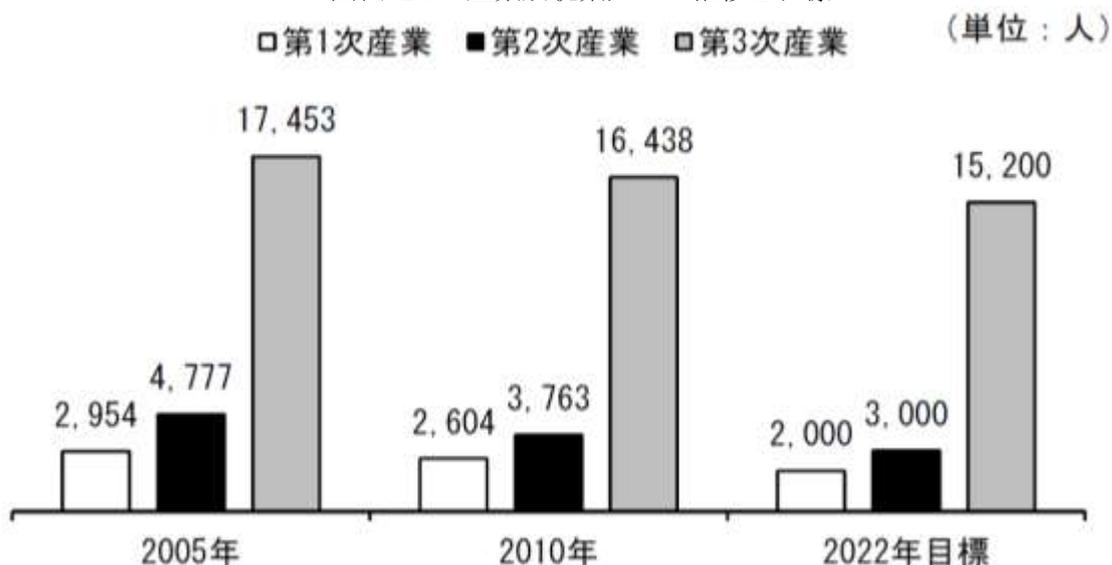
農業は、大都市向けの野菜栽培（近郊農業）が盛んで、スイカ、メロン、キャベツ、青首大根、早春キャベツなどが栽培されている。ダイコン、キャベツが国の主要野菜指定産地、スイカが県の主要野菜指定産地となっている。

漁業は、現在は縮小傾向にあるが、三崎港は遠洋マグロ漁業の中心地として全国的に有名である。工業は、農業、漁業と比べて中心的な産業とはなっていない。漁業と深く結びついた工業が漁業とともに発展し、造船、漁具、製氷、食品加工といった産業が盛んである。

商業は、漁業が栄えるとともに活発になっている。近年では、鉄道（京浜急行線）の延長にともない沿線の駅開発が進められ、駅周辺での商業が活発になっている。

観光業は、美しい海岸線を活かしたハイキングコースが多く作られ、三浦海岸、城ヶ島などが神奈川県内の代表的景勝地として、観光の名所になっている。年間の観光客は約500万人、観光業による収入は約110億円にも達し、本市にとって観光業は重要な産業となっている。

図表 2-9 産業別就業人口の推移と目標



出所「第4次三浦市総合計画(2013年版) 三浦まちづくりダウンロード 基本計画」

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/seisaku/machidukuriplan/documents/machidukuriplan02.pdf>

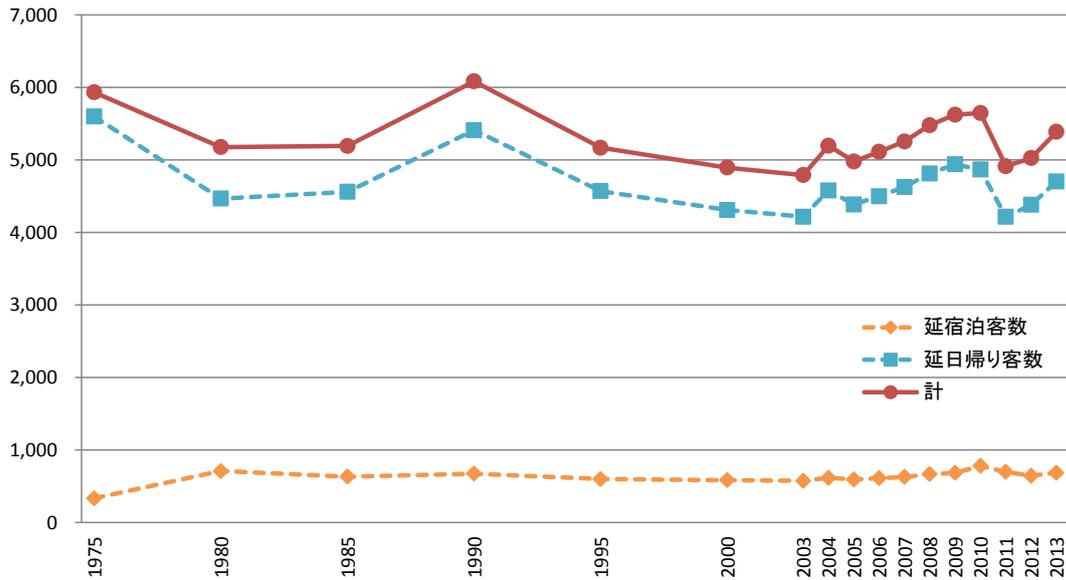
2.4 観光客数

本市への観光客について『三浦市統計書平成 25 年度版』を参考に記述する。

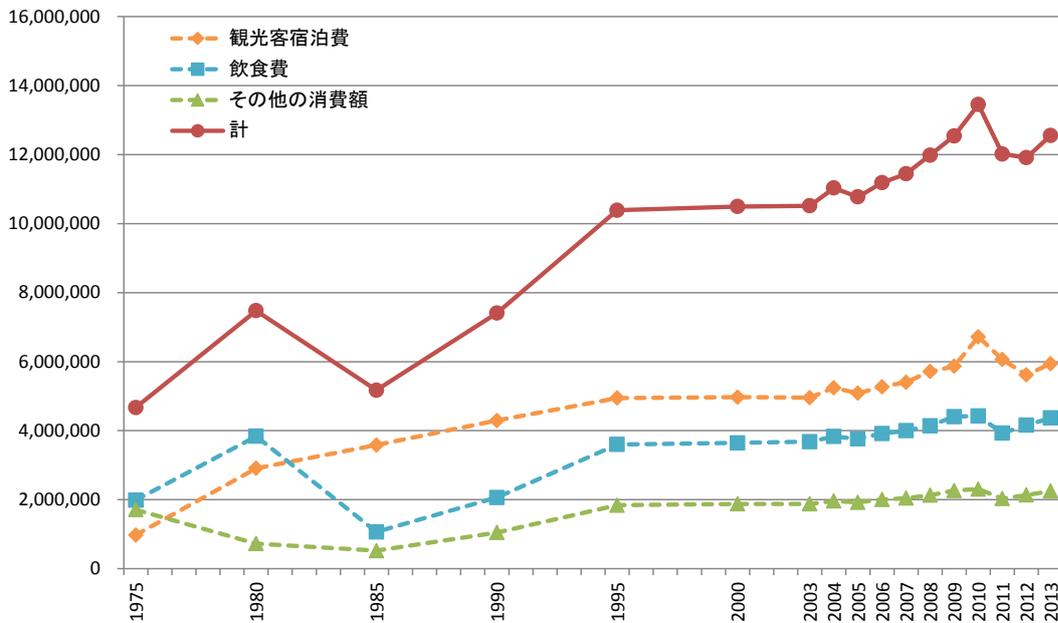
本市への年間観光客数はおよそ 540 万人である。2011 年には東日本大震災の影響で観光客数が大きく減少したものの、現在は増加傾向にある。

観光客による消費額も同様の推移を見せており、現在は増加傾向にある。内訳を見てみると、消費額全体の半分近くを宿泊費が占めており、次いで、飲食費が全体の 3 割程度を占めている。

図表 2-10 観光客数の推移



図表 2-11 観光客による消費額の推移



出所) 「三浦市統計書平成 25 年度版」 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/toukeijyouhou/toukei/25toukeisho.html>

3. 三浦市の社会資源の整理

3.1 自然環境・立地

本市の主要な産業について『三浦市の産業』を参考に記述する。

本市は、三浦半島の先端に位置し、海岸の景観が大変美しい地域であり、海にまつわる名所（海水浴場、灯台、海蝕崖など）が数多くある。特に、「荒井浜海水浴場」は「日本の水浴場 88 選」に選ばれており、「城ヶ島」「劔崎」は「かながわの景勝 50 選」の地に選ばれており、全国的に有名な場所が多い。また、そこに訪れる人の目的には、海水浴、釣り、絵を描くこと、マリナーパーク訪問などさまざまである。

市内の鉄道駅は三崎口、三浦海岸の 2 駅（ともに京浜急行線）であり、市内の移動はバスが中心となる。



県立城ヶ島公園



馬の背洞門

出所) 三浦市観光案内(2016年2月3日取得) <http://www.miura-info.ne.jp/spot/index.html>

図表 3-1 三浦市の自然名所の一覧

分類	施設名	住所
海岸景観	城ヶ島	三浦市三崎町城ヶ島
海岸景観	馬の背洞門	三浦市三崎町城ヶ島
海岸景観	城ヶ島灯台	三浦市三崎町城ヶ島
海岸景観	油壺	三浦市三崎町小網代
海岸景観	劔崎灯台	三浦市南下浦町松輪
海岸景観	劔崎	三浦市南下浦町松輪
海水浴場	三浦海岸海水浴場	三浦市南下浦町上宮田
海水浴場	和田海水浴場	三浦市初声町和田
海水浴場	荒井浜海水浴場	三浦市三崎町小網代
海水浴場	大浦海水浴場	三浦市南下浦町松輪
海水浴場	横堀海水浴場	三浦市三崎町小網代
海水浴場	胴網海水浴場	三浦市三崎町小網代
湖沼	小松ヶ池	三浦市南下浦町上宮田

3.2 産業・観光

本市の産業・観光名所には、海辺という立地を生かした観光施設が多く、例えば、「京急油壺マリパーク」などの水族館や、「三浦市三崎水産物地方卸売市場（三崎魚市場）」などの市場といった施設がある。

市場に隣接する産直センターうらりでは、豊富で新鮮な海産物が販売されているほか、市場や三浦海岸駅の近くには海産物を食べられる店舗が数多く立地しており、多くの観光客が訪れる場所となっている。特に、「マホロバマインズ三浦のバイキング」や「金田湾朝市」は有名である。さらに、海鮮食材を使った浜辺でのビーチバーベキューや、三浦半島の地形や海岸を楽しむサイクリングなどのアクティビティも充実している。

その他の本市の産業・観光に関する特徴をあげると、第一次産業が主体の地域であり、その多くが専業農家であることに大きな特色がある。「かながわの名産 100 選」に 20 品目（工芸品 1、加工食品 7、農林水産品 12）選ばれている。



三浦市三崎水産物地方卸売市場
(三崎魚市場)



マホロバマインズ三浦

出所) 三浦市ホームページ(2016年2月3日取得)

<http://www.city.miura.kanagawa.jp/ichiba/kenngakutuurokaramierunyuusatufuukei.html>

マホロバマインズ三浦ホームページ(2016年2月3日取得)

<http://www.maholoba-minds.com/restaurant/viking.php>

図表 3-2 三浦市のイベント・アクティビティの一覧

分類	地域活動名	実施月	主な開催場所(住所)
自然・イベント	三浦海岸桜まつり	2～3月	三浦海岸駅～三崎口駅
マラソン	三浦国際市民マラソン	3月	三浦海岸
祭り	三浦海岸納涼まつり	8月	三浦海岸海水浴場
祭り	お精霊流し	8月	三戸浜
自然	みかん狩り	10月	三浦市内
自然	ウミウ・ヒメウの飛来	10～3月	城ヶ島
将棋	マグロ争奪将棋大会	12月	三浦市南下浦市民センター
アクティビティ	三浦うみかぜレンタバイクでのサイクリング	—	三浦海岸

図表 3-3 三浦市の観光名所の一覧

分類	施設名	住所
産業観光施設	三浦市三崎水産物地方卸売市場(三崎魚市場)	三浦市三崎 5-245-7
水族館	京急油壺マリンパーク	三浦市三崎町小網代 1082
公園	県立城ヶ島公園	三浦市三崎町城ヶ島
公園	城ヶ島灯台公園	三浦市三崎町城ヶ島
灯台	劔崎灯台	三浦市南下浦町松輪
バイキング	マホロバマインズ三浦	三浦市南下浦町上宮田 3231
ショッピング	産直センター うらり	三浦市三崎 5-3-1
自然景観	城ヶ島灯台	三浦市三崎町城ヶ島
郷土景観	油壺	三浦市三崎町小網代
神社	白髭神社	三浦市三崎町小網代 1516
イベント	金田漁港海業センター	三浦市南下浦町金田 2280-2

図表 3-4 三浦市の自然名所及び観光名所の配置図



出所) 国土交通省「国土数値情報」を元に作成

3.3 医療施設

本市には、病院が2施設、診療所が20施設整備されている。

その中で、三浦市立病院が医療・介護連携のセンター機能を担っているが、「三方が海」「急性期病院が市外」という現状を踏まえ、予防医療重視の健康づくりに地域ぐるみで取り組んでいる。神奈川県立保健福祉大学等7団体連携で三浦を元気にする「リビングラボラトリー」を運営し、生活支援サービスを開発している。

図表 3-5 三浦市の病院施設の一覧

	医療機関名	所在地	診療科目	許可病床数
病院	三浦市立病院	三浦市岬陽町 4-33	内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科など	136
病院	医療法人財団青山会 福井記念病院	三浦市初声町高円 坊 1040-2	内科、精神科、神経科、歯科など	464

図表 3-6 三浦市の診療所の一覧

	医療機関名	所在地
診療所	神奈川みなみ医療生活協同組合 三浦診療所	三浦市南下浦町上宮田 3263-1
診療所	中江整形外科	三浦市南下浦町上宮田 3124-8
診療所	医療法人英和会徳山診療所	三浦市南下浦町上宮田 2785-1
診療所	三浦中央医院	三浦市南下浦町上宮田 1738-1
診療所	油壺エデンの園附属診療所	三浦市三崎町諸磯 1500
診療所	にしやま小児科	三浦市三崎町六合 315-1
診療所	医療法人社団杏会みなみ湘南医院	三浦市南下浦町上宮田 1528-102
診療所	桜井眼科医院	三浦市南下浦町上宮田 3291-3
診療所	三浦海岸つばさクリニック	三浦市南下浦町上宮田 3230-3
診療所	医療法人金丸皮膚泌尿器科医院	三浦市三崎町諸磯 14
診療所	田中内科医院	三浦市栄町 7-11
診療所	矢島内科医院	三浦市天神町 9-16
診療所	あさい内科クリニック	三浦市初声町入江 76-1 佐藤ビル
診療所	飯島医院	三浦市東岡町 10-1
診療所	斉田皮フ科	三浦市南下浦町上宮田 3125-1
診療所	クリニック油壺	三浦市尾上町 18
診療所	三崎クリニック	三浦市三崎町諸磯 17-2
診療所	栗原耳鼻咽喉科医院	三浦市南下浦町上宮田 3111-2
診療所	せりかわ内科クリニック	三浦市南下浦町上宮田 3257-5

図表 3-7 三浦市の病院・診療所の配置図



出所) 国土交通省「国土数値情報」を元に作成

3.4 介護施設

本市では、介護サービスを実施している事業所が数多くある。高齢者を受け入れてサービスを提供する施設は5施設あり、居宅系サービスを提供する事業所は73施設、介護予防支援を行う事業所が2施設あり、幅広い介護サービスを提供する基盤が整っている。

図表 3-8 三浦市の介護施設の一覧

施設名	サービス概要
はまゆう地域包括支援センター	介護予防支援（要支援1・2）
地域包括支援センター おまかせ	介護予防支援（要支援1・2）
居宅介護支援事業所アンド	介護予防支援（要支援1～5）
介護支援オフィス三浦	介護予防支援（要支援1～5）
介護老人保健施設 なぎさ	介護予防支援（要支援1～5）、通所リハビリテーション、短期入所療養介護、介護老人保健施設
キムラ介護支援サービス	介護予防支援（要支援1～5）、訪問介護
キムラ介護デイサービス	通所介護
居宅介護支援事業所なのはな	介護予防支援（要支援1～5）
介護老人保健施設 なのはな苑	通所リハビリテーション、短期入所療養介護、介護老人保健施設
ケアセンター南下浦羊の家けあまね	介護予防支援（要支援1～5）
ケアセンター南下浦羊の家	通所介護
さくらんぼ三浦海岸	訪問介護
チームケアプロジェクト	介護予防支援（要支援1～5）
特定非営利活動法人三浦市介護サービスセンター	介護予防支援（要支援1～5）、訪問介護
はまゆう高齢者ケアプラザ介護保険相談室	介護予防支援（要支援1～5）
はまゆう訪問介護ステーション	訪問介護
はまゆう高齢者ケアプラザデイサービスセンター	通所介護
はまゆう高齢者ケアプラザ短期入所事業部	短期入所生活介護
特別養護老人ホーム はまゆう	介護老人福祉施設
たんぼぼ	短期入所生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
ピア介護福祉サービスセンター	介護予防支援（要支援1～5）
訪問看護ステーション そよ風	介護予防支援（要支援1～5）、訪問入浴介護
みうら訪問看護ステーション	介護予防支援（要支援1～5）、訪問入浴介護
みうらヘルパーステーション	訪問介護
デイサービス みうら	通所介護
美山居宅支援センター	介護予防支援（要支援1～5）
美山通所介護サービスセンター	通所介護
美山短期入所サービスセンター	短期入所生活介護
美山短期ユニットサービスセンター	短期入所生活介護
美山ユニット特養ホーム	介護老人福祉施設
美山特養ホーム	介護老人福祉施設
居宅介護支援事業所 ルナランド	介護予防支援（要支援1～5）
ルナランド介護センター三浦海岸	訪問介護
ルナランド デイサービス	通所介護
アースサポート三浦	訪問介護

施設名	サービス概要
サポート歩	訪問介護
ヒューマンヘルパー三浦	訪問介護
訪問介護ステーション三浦ダン・ダン	訪問介護
訪問介護 ロード	訪問介護
マイホーム 訪問介護センター	訪問介護
ルナランド 介護センター	訪問介護
せいいい訪問看護ステーション油壺	訪問看護
訪問看護ステーション 湊	訪問看護
風の谷リハビリデイサービス	通所介護
コスモスの家 デイサービス	通所介護
デイサービス本舗 三崎	通所介護
特定非営利活動法人 成樹会サロンハナミズキ	通所介護
高齢者デイサービス湯ごころ	通所介護
リハビリデイセンター悠みうら	通所介護
リフレ油壺	短期入所生活介護、特定施設入居者生活介護
油壺マリーナヒルズ	特定施設入居者生活介護
Sアミーユ三浦	特定施設入居者生活介護
高齢者世話ホーム 油壺エデンの園	特定施設入居者生活介護
ソノラス・コート油壺	特定施設入居者生活介護
ツクイ・サンシャイン三浦	特定施設入居者生活介護
はなことば三浦	特定施設入居者生活介護
ベストライフ油壺	特定施設入居者生活介護
有料老人ホームアール・ヴェール	特定施設入居者生活介護
機能訓練特化型デイサービスアール・ヴェール	通所介護
有料老人ホーム サニーライフ三浦	特定施設入居者生活介護
あおぞら倶楽部	認知症対応型通所介護
認知症高齢者対応型通所介護事業所ぶらい庵	認知症対応型通所介護
小規模多機能型居宅介護みうらうみ	小規模多機能型居宅介護
豊夢 三浦海岸	小規模多機能型居宅介護
小規模多機能型居宅介護事業所はつらつ	小規模多機能型居宅介護
グループホームチェリーホーム油壺	認知症対応型共同生活介護
グループホーム はまゆう	認知症対応型共同生活介護
グループホーム ひなたぼっこ菊名	認知症対応型共同生活介護
グループホーム 真心の家	認知症対応型共同生活介護
グループホーム真心の家 三崎	認知症対応型共同生活介護
グループホーム みづき	認知症対応型共同生活介護
グループホーム三浦こもれび	認知症対応型共同生活介護
ツクイ三浦グループホーム	認知症対応型共同生活介護
ツクイ三浦	通所介護
グループホーム宮川	認知症対応型共同生活介護
スマイル住まいる三浦	通所介護、認知症対応型共同生活介護
三浦市総合福祉センターグループホーム	認知症対応型共同生活介護
三浦市総合福祉センターグループホーム第2	認知症対応型共同生活介護



真心の家



油壺エデンの園

出所) NPO 法人青空の会 (2016年2月3日取得) http://aozora.e-yokosuka.jp/magokoro_no_ie.htm

油壺エデンの園 (2016年2月3日取得) <http://www.seirei.or.jp/eden/aburatsubo/feature/index.html>

図表 3-9 三浦市の介護施設の配置図



Sources: Esri, HERE, DeLorme, USGS, Intermap, incrementP Corp., NRCAN, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), Esri (Thailand), TomTom, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community

出所) 国土交通省「国土数値情報」を元に作成

3.5 福祉施設

本市には、医療・介護以外のサービスとして、福祉サービスを提供する施設がある。

その他にも、「相談支援事業所「エール」」をはじめとして障がい者へのサービスを提供する施設も存在する。「相談支援事業所「エール」」では、障がい者の悩み相談を行い、中には、障がい者を対象とした就労に向けた人材育成を行う施設もある。

図表 3-10 三浦市の福祉施設の一覧

施設名	住所	事業主体	提供サービス
ボランティアセンター	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	人材の需給調整、関係機関との連携による地域福祉の推進
三浦市総合相談支援センター「安心館」	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	高齢者、障害者などへのさまざまな支援
相談支援事業所「エール」	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	障害のある方やその家族、介護をする方の悩み相談
自立相談支援センター いっしょ	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	生活困窮者の生活の建て直し支援
介護職従事者等人材育成・研修センター	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	介護職に就きたい人材へのサポート
多機能型デイサービスはつらつ	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	デイサービスやショートステイの受け入れ
児童発達支援事業所 HUG くみ	三浦市南下浦町菊名 1258-3	三浦市総合福祉センター	障害児が日常生活、集団生活に適應できるように、指導・訓練
ゆずりハ障害者のリハビリデイサービス	三浦市栄町 23-13	地域福祉センター	一般就労困難な市民の機能回復
あんじゅ三浦海岸	三浦市南下浦町上宮田 3368-1	(株)ルナランド	フロント、緊急時・警備・健康支援、生活相談、食事提供サービス
あんじゅ三崎口	三浦市初声町下宮田 601-5	(株)ルナランド	フロント、緊急時・警備・健康支援、生活相談、食事提供サービス
グループホーム三浦ふれあいの家	三浦市三崎町諸磯 858-1	(株)ツクイ	入居



あんじゅ三浦海岸

出所) あんじゅ三浦海岸(2016年2月3日取得) あんじゅ三崎口(2016年2月3日取得)



あんじゅ三崎口

http://lunaland.co.jp/anju_miura/service2.html
http://lunaland.co.jp/anju_misakiguchi/service.html

3.6 教育施設等

本市には、保育園 4 園、幼稚園 3 園、小学校 8 校、中学校 3 校、高等学校が 2 校ある。

図表 3-11 本市の教育施設の一覧

分類	施設名	住所名
保育園	三崎二葉保育園	三浦市城山町 4-4
保育園	城ヶ島保育園	三浦市三崎町城ヶ島 429
保育園	初声保育園	三浦市初声町高円坊 395-1
保育園	上宮田小羊保育園	三浦市南下浦町上宮田 3190-1
幼稚園	油壺幼稚園	三浦市三崎町諸磯 79-1
幼稚園	椿の御所幼稚園	三浦市向ヶ崎町 11-1
幼稚園	三浦幼稚園	三浦市南下浦町上宮田 479
小学校	三崎小学校	三浦市三崎 1-20-32
小学校	岬陽小学校	三浦市岬陽町 10-1
小学校	名向小学校	三浦市三崎町諸磯 65
小学校	南下浦小学校	三浦市南下浦町菊名 1096
小学校	上宮田小学校	三浦市南下浦町上宮田 3040
小学校	旭小学校	三浦市南下浦町上宮田 950
小学校	剣崎小学校	三浦市南下浦町松輪 1710
小学校	初声小学校	三浦市初声町下宮田 3728
中学校	三崎中学校	三浦市三崎町六合 45-1
中学校	南下浦中学校	三浦市南下浦町金田 206
中学校	初声中学校	三浦市初声町下宮田 3622
高等学校	神奈川県立平塚農業高等学校初声分校	三浦市初声町和田 3023-1
高等学校	神奈川県立三浦臨海高等学校	三浦市初声町入江 274-2

3.7 地域活動・コミュニティ

本市における、地域活動の取り組みとしては、市が主体となってイベントを開催する形態のものが多く、「三崎開港祭」では、三浦の体験プログラムやツアーなどのイベントを通して、三浦の魅力を生かして市内の住民が、再確認することが趣旨となっており、三浦市内外の人の交流を促すイベントとなっている。他にも、社会福祉協議会が主体となり陶器の展示やバザーなどを行う「福祉センター祭り」、区長会が主体となりもちつきを行う「新年もちつき大会」など多くの地域活動が行われている。

さらに、映像作品団体やイベント企画団体の支援のほかに、三浦市の地域文化の魅力向上、市内外における広報宣伝活動も行う「NPO 法人みうら映画舎」、知的障がい者が地域の中で交流する場を設定する「NPO 法人ハーベストきくな」など非営利団体による活動も盛んである。

市内清掃や緑化活動などの社会奉仕活動を行う「三浦市老人クラブ連合会(ゆめクラブ三浦)」、編み物、手芸、バザーの手作りを行う「三浦市老人いきがい活動連絡会」など、高齢者団体による地域活動も盛んである。

図表 3-12 本市の地域活動・コミュニティの一覧

分類	地域活動名	実施回	主な開催場所	参加者数
イベント	福祉センターまつり	年1回	—	300名
イベント	三崎開港祭	年1回	三崎下町商店街など	—
イベント	新年もちつき大会	年1回	南下浦市民センター	—
NPO 法人	ハーベストきくな	—	—	会員数 16名
NPO 法人	みうら映画舎	—	—	—
高齢者団体	三浦市老人クラブ連合会	毎月	市内一帯	会員数 1535名
高齢者団体	三浦市老人いきがい活動連絡会	隔週	さかえ手芸教室	会員数 7名
高齢者団体	ふるさと会	月3回	勤労市民センター	会員数 12名
高齢者団体	城山吟詠会 福祉民謡	週2回	勤労市民センター	会員数 15名



福祉センターまつり



三崎開港祭

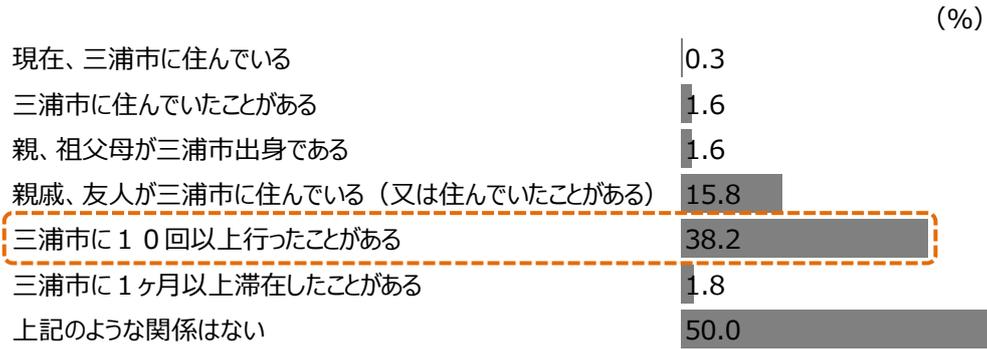
出所) 三浦市社会福祉協議会アーカイブ(2016年2月5日取得)

<http://www.shakyo-miura.com/wordpress/archive/2013/10/28/>

三浦市(2016年2月5日取得)

http://www.city.miura.kanagawa.jp/kyoudo/newpublic/newpublic_event_kaikosai3rd.html

図表 4-4 三浦市との関わり（回答者数：1,800名）



4.2 居住者ニーズ調査結果の分析

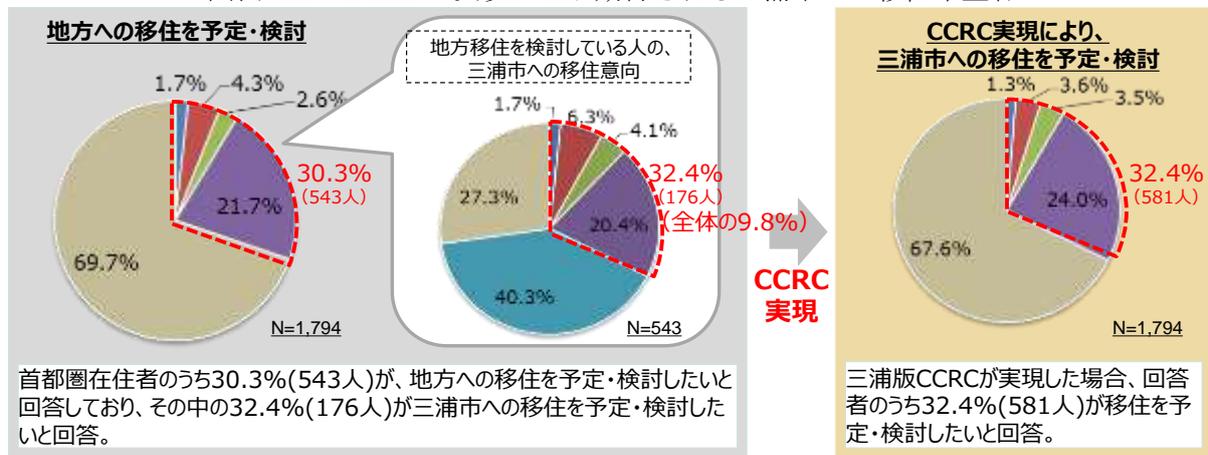
4.2.1 三浦版 CCRC が実現した場合の居住意向

対象地や移住する時期を問わず、地方に移住を予定・検討したいと思っている回答者は 543 人（首都圏居住者の 30.3%）であった。

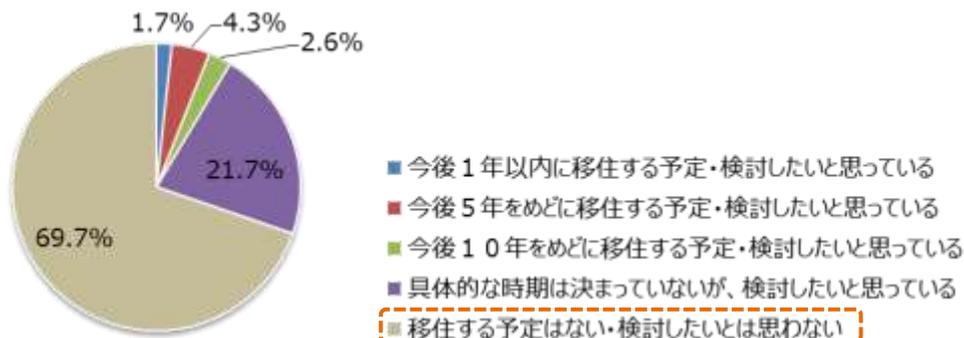
三浦市に移住する予定・検討したいと思っている（今後 1 年以内～具体的な時期は決まっていないまで含める）首都圏居住者は 176 人（市外在住回答者の 9.8%）であった。

もし、三浦市に日本版 CCRC が実現した場合には、581 人（市外在住回答者の 32.4%）が「移住する予定・検討したいと思っている（今後 1 年以内～具体的な時期は決まっていないまで含める）」と回答しており、CCRC の実現により移住希望者が 405 人（市外在住回答者の 22.6%）増加している。

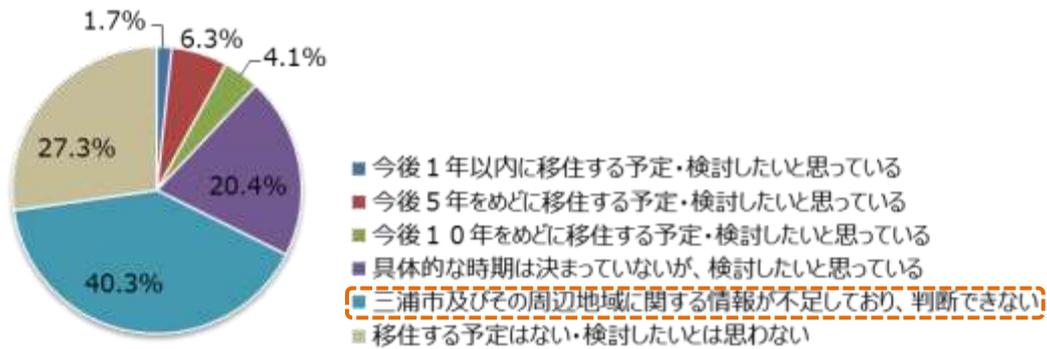
図表 4-5 CCRC の実現により期待される三浦市への移住希望者



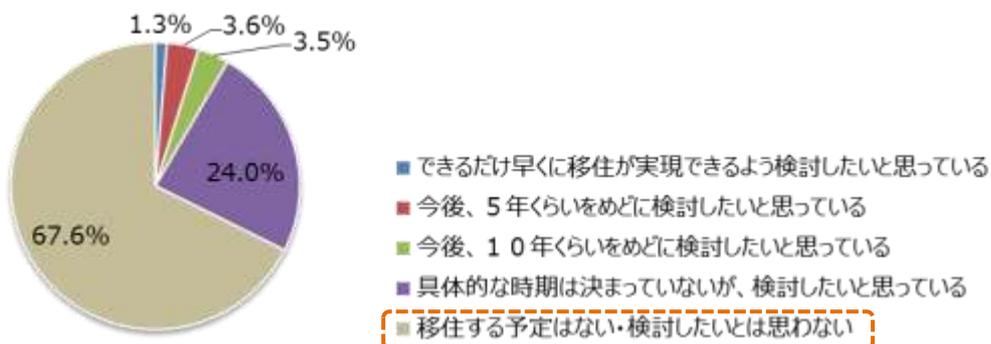
図表 4-6 地方移住に関する希望（首都圏居住の高齢者 1,794 名）



図表 4-7 三浦市への移住に関する希望（地方への移住を希望する回答者 543 名）



図表 4-8 三浦市に CCRC が実現した場合の移住希望（三浦市外在住の回答者 1,794 名）

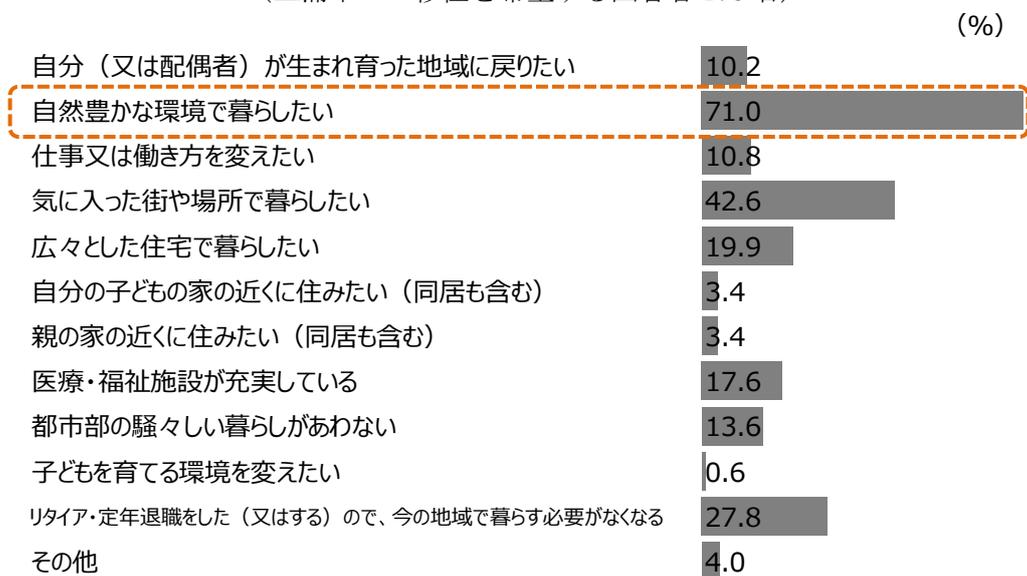


4.2.2 三浦版 CCRC を実現する上での潜在的ニーズ

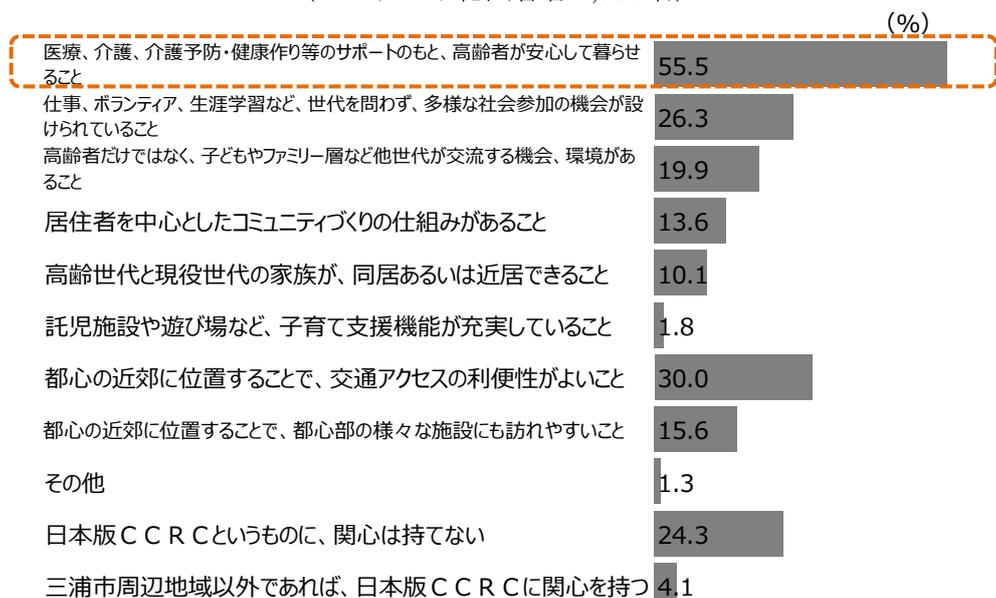
三浦市に移住する上で重視される要素は、「自然豊かな環境で暮らしたい」という回答が7割以上で最も多い。一方、三浦市に CCRC が実現した場合には、「医療、介護、介護予防・健康づくり等のサポートのもと、高齢者が安心して暮らせること」が重視されている。

また、CCRC を実現する上で望ましい居住形態として、具体的な選択肢では「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」とする回答が最も多い。しかし、70代では「施設に入居する利用権を購入するが、利用権は相続しない」とする回答が最も多く、多様な居住形態へのニーズがあることが確認された。一方で、「特にない」「わからない」という回答が49.5%に上っていて、具体的な検討をしていない・イメージが湧いていない回答者も多く、周知が必要である。

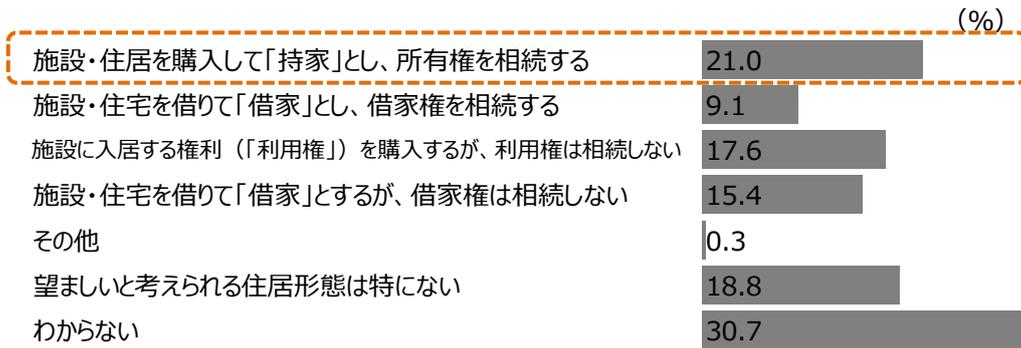
図表 4-9 移住を検討する理由（複数回答）
（三浦市への移住を希望する回答者 176 名）



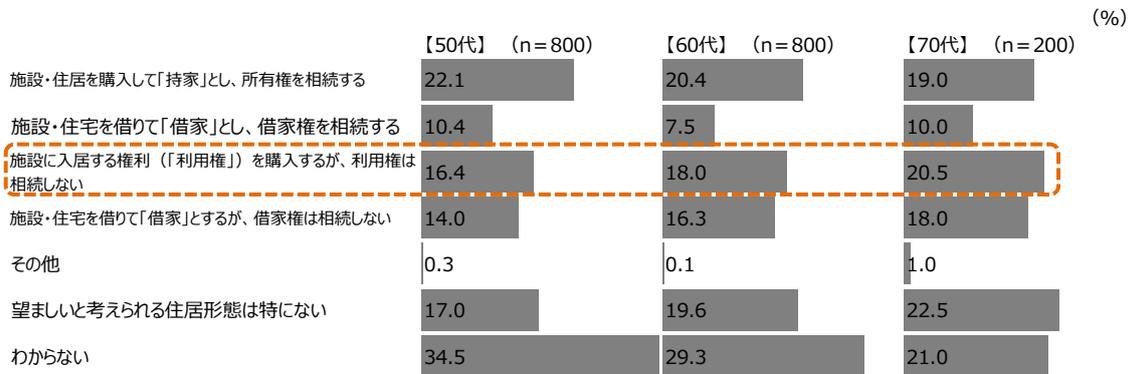
図表 4-10 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと
（アンケート総回答者 1,800 名）



図表 4-11 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態
(アンケート総回答者 1,800 名)



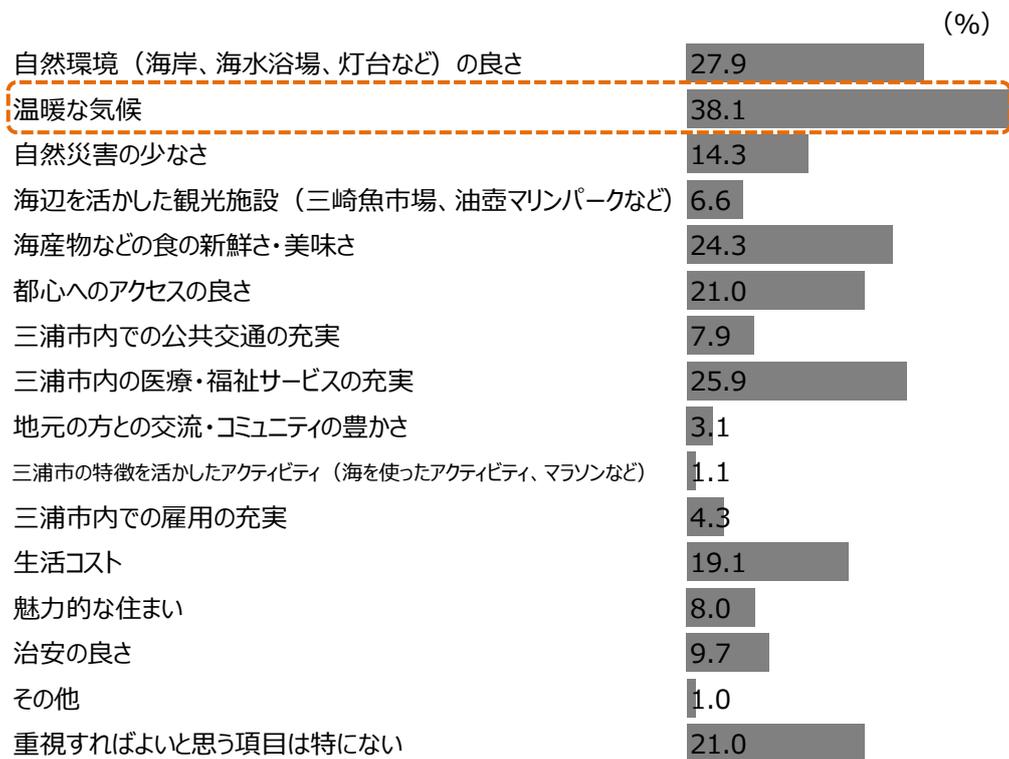
図表 4-12 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（年代別）
(アンケート総回答者 1,800 名)



4.2.3 ターゲットに対する情報提供

三浦市で CCRC を実現する上で、関心の対象となりうることや PR ポイントとなりうる項目には、「温暖な気候」が最も多く回答され、次いで「自然環境（海岸、海水浴場、灯台など）の良さ」というように、自然環境・気候が PR ポイントとなりうることが確認された。

図表 4-13 三浦市における CCRC のまちづくりにおいて、何を重視するか（複数回答）
（アンケート総回答者 1,800 名）



5. 事業者ニーズ調査

5.1 事業者ヒアリング項目

下記4点の項目について、ご意見を伺った。

1. 三浦市の地域特性（地域の魅力、移住者を呼び込む上での訴求ポイント）
2. 三浦市において CCRC を展開していくうえでの連携内容
3. CCRC 展開モデルとして想定される事業内容、事業規模等
4. CCRC 展開に向けて行政に期待すること（事業者進出を促すための規制緩和等）

5.2 ヒアリング対象事業者

ヒアリング対象者は次の3者である。

図表 5-1 事業者ヒアリング対象者

	立場	所属	実施方法
①地元医療機関	CCRC の介護の連携先	三浦市立病院 総病院長	訪問
②地元有力事業者	CCRC 運営の担い手・投資家	京浜急行電鉄株式会社 グループ戦略室部長	訪問
③地元商工関係	CCRC とのアクティビティ にかかるとの連携先	三浦商工会議所専務理事	訪問

5.3 ヒアリング結果の概要

5.3.1 三浦市立病院

公立病院である同院は、「地域医療」を確立することを使命として、これまでに各種の取組を積極的に展開してきている。第一に、予防医療を推進するため、地元の診療所などと連携し、特定健診のデータの一元化を進めている。

第二に、データを一元化することで、市内の診療所や市立病院などが情報を共有できるようにした。一般健診のデータも含め、少しずつ蓄積データを増やしてきている。

第三に、リハビリテーションを充実させることで回復期の患者を支援するため、神奈川県立保健福祉大学と連携し、リハビリテーションの職員（PT、OT など）の充実を図っている。

第四に、地域住民、企業、行政、大学等が参画し、テーマや課題に応じた検討・開発・評価を繰り返しながら製品やサービス等を開発する地域創生型オープンプラットホームとなる「リビングラボラトリー」の運営を開始した。リハビリデイサービスを提供すると同時に、健康増進事業、転倒予防、介護予防事業、介護・リハビリロボットの研究開発にも取り組んでおり、地域活性の拠点としての位置づけも有している。

さらに、同院では神奈川県立保健福祉大学等と連携し、「市民健康大学」を立ち上げている。

このような地域包括ケアの実現に向けた多様な取組を、CCRC を取り巻く有用な地域資源として活用する観点が重要と思われる。

また、今後整備する CCRC では、従来型の介護施設の延長ではなく、元気な高齢者も要介護の高齢者も入居し、入居者同士がお互いに助け合うという仕組み（コミュニティ）を作ることが大切であり、施設も長続きするし、サービス内容も充実するとの指摘があった。

その他、CCRC 内へのリビングラボラトリーの第二拠点の設置や、運営体制への県立保健福祉大学栄養学科の学生の関与、県立保健福祉大学の公開講座を活用した入居者を対象とした健康管理や介護予防の知識習得支援などのアイデアも提起された。

【主な指摘】

- ・地域内に医療のインフラを張り巡らせること、地域包括ケアの環境を整備する役割が市立病院にあると考えている。
- ・半島で三方向が海で囲まれており、患者の移動が制約されていることが、地域包括ケアの環境を整備する上で強みとなっている。地域内で医療資源がほぼ完結するため、情報を共有させ連携するメリットを発揮しやすい。
- ・平成 23 年頃、神奈川県立保健福祉大学にリハビリを中心に地域医療に共同で取り組む提案を行った。この働きかけの結果、県立保健福祉大学もこれに賛同し、現在、リハビリテーションの職員（PT、OT など）が 15 人と、充実することになった。
- ・さらに、地域住民、企業、行政、大学等が参画し、テーマや課題に応じた検討・開発・評価を繰り返しながら製品やサービス等を開発する地域創生型オープンプラットホームとなる「リビングラボラトリー」の運営を開始している。
- ・リハビリデイサービスを提供すると同時に、健康増進事業、転倒予防、介護予防事業、介護・リハビリロボットの研究開発にも取り組んでおり、地域活性の拠点としての位置づけも有している。
- ・今後は、外出が困難な高齢者への外出支援のための製品開発、食品や生活用品など日常生活必需品の販売を支援するための ICT を活用した双方向性コミュニケーションツールの開発やサービス実施体制の構築、高齢者へのきめ細かい生活支援サービスの提供、健康管理を行うシス

テムの構築などを推進することを想定している。これが実現すれば、日常生活と健康管理を一体的に支える体制が出来上がる。

- また、これとは別に当院は神奈川県立保健福祉大学や(株)風の谷プロジェクトと連携し、「市民健康大学」を立ち上げた。
- 従来型の介護施設ではなく、元気な高齢者も要介護の高齢者も入居し、入居者同士がお互いに助け合うという仕組み（コミュニティ）を作ることが、施設も長続きするし、サービス内容も充実するのではないか。
- 介護する人もされる人も楽しくなる仕組みがないと、人は集まらないし継続しない。お金だけではない人間関係を構築しうる仕組みづくりが重要。構想を作るには、そうした理念からスタートする必要がある。
- あるいは、CCRC 内にリビングラボラトリーの第二拠点を設置することや県立保健福祉大学の栄養学科の学生を引き入れる考え方もありうる。
- 入居者が県立保健福祉大学の公開講座で健康管理や介護予防の知識を身につけるといった、大学との連携の在り方もあるだろう。県立の大学なので地域活性を担う学びの場として、尽力いただける可能性は大いにある。

5.3.2 京浜急行電鉄株式会社

同社に対するヒアリングの中からは、まず、本市の地域特性として「都心に近いながらも自然が豊かである」ことが指摘された。自然環境、豊かな食、景観等良い条件はそろっているため、これらをどのように活用していくかが問われているといえる。

また、CCRC はアミューズメント施設のような非日常の場ではなく、あくまでも日常の場であるため、継続的に生活を楽しめるような仕掛けが重要との指摘も見られた。

一方、同社としての CCRC への関わりについては、入居者の移動支援、施設管理など、CCRC の運営を側面的にサポートする役割の可能性が示唆された。

その他としては、都心に近いとはいえ、日々、行き来するには移動負担が大きいと、市内および近郊を活動拠点とする層が、入居者のターゲットになるとの指摘が見られた。

一方、都心及びその近郊の都市では、一戸建てに住む一人暮らしの女性高齢者が増えてきていることから、このような層をターゲットに、CCRC で集住し、一つのコミュニティを形成していく考え方も提起された。

【主な指摘】

- 三浦市は都心に近いけれどもあれだけの自然がある立地はあまりない。海もあり山もあるので、これは競争力につなげられると思う。このあたりはうまく活用する必要がある。
- （一時的に楽しいだけでなく）継続的に楽しく過ごせるようフォローすることを考えなければならぬ。移住者が CCRC を選択する際には、その点がポイントとなるだろう。
- 交通事業者としてアクセス面でコミュニティバスの運行受託などや、警備や施設管理等で関与することは想定される。
- （都心回帰の傾向があるため）通勤しなくても良い人、地元で仕事があり働ける方向けに（入居の働きかけを）工夫していくということがあり得る。
- 横浜の既存の住宅街も空いている。問題はそのような一戸建てで一人になるような方に来て頂くということも良いが、自分の地域で生きていける術があると良い。

5.3.3 三浦商工会議所

本市の産業上の特徴は、「一次産業主体の地域である」ことにあり、近隣で一次産業主体の地域は他にないので、独自性を打ち出しやすいとの指摘があった。ただし、現状では、農業も漁業も付加価値づけが十分になされていないため、10年ほど前から、同組織ではブランド化の取り組みを始めている。その際に、地域産品を生み出すための商品開発に携わる人材が求められるが、三浦市では内需を中心とした生活に身近な産業が多く、生活者視点での商品開発が重要となってくるため、市外からの視点を持つCCRCの入居者が商品の付加価値化に関与しうるだろう、との産業活性化にかかる入居者の関与の可能性が示唆された。

一方、一次産品が地域の魅力であるが、今後は観光面も力を入れることの必要性の指摘もあり、大規模なイベントが多いため、開催時の人出は不足しがちであることなどから、CCRC入居者には、地域おこしや情報発信、PRの部分で何らかの関わりを持ってほしいとの期待が寄せられた。

なお、本市の産業を高次化していくためには、農協や漁協と商工会議所が連携していく必要があり、関係団体を巻き込んでいく市のコーディネート力が求められ、さらにCCRCの運営を関係組織が支えていく上でも、各主体同士の連携に際して、主体間の繋ぎ役を果たす際に市の役割が重要となるとの指摘があった。

CCRCの機能としては、医療・介護が必要となったときの在り方を明確にする必要があることが示唆された。

【主な指摘】

- ・（三浦市は）一次産業主体の地域である。近隣で一次産業主体の地域は他にないので、独自性を打ち出しやすい。地場産品（特産品）が多い。今後それをどう活かしていくかが鍵。
- ・現状では、本市の農業、漁業（マグロ）は「生産」のみで、地元で付加価値（加工、選別等）が付かないまま都心に商品が出ていっている。そのため関連産業が伸びない。そこで、10年ほど前から、ブランド化の（地元で付加価値を付けてから外に商品を出していく）取り組みを始めた。
- ・一次産品が地域の魅力であるが、今後は観光面も力を入れていかないといけない。
- ・他の都市では一次産業が少ないため商工会議所が産業の大部分を仕切れているが、三浦市の場合は産業全体を仕切るところがない。農協や漁協と商工会議所が連携していく必要がある。
- ・三浦市では内需を中心とした生活に身近な産業が多いので、生活者視点での商品開発が重要となってくる。地域産品を生み出すための商品開発に携わる方が求められる。
- ・様々な場所で様々な経験を積んだ方が入ってきて、外からの視点でアイデアを提供してくれることが望ましい。
- ・イベント開催時の人出が不足しているため、移住者には地域おこしや情報発信、PRの部分で何らかの関わりを持ってほしい。
- ・関係団体を巻き込んでいく市のコーディネート力が求められる。各主体同士の連携に際して、主体間の繋ぎ役を果たすのは市である。どれだけコントロールして繋いでいけるかが重要である。
- ・医療・介護が必要となったときに、CCRCとしてどういう機能を果たしていくのがイメージするのが難しい。独自のケアを提供できるのか。

5.4 ヒアリングを踏まえた CCRC 事業の展開可能性

5.4.1 三浦市の地域特性（地域の魅力、移住者を呼び込む上での訴求ポイント）

CCRC を考えていく際に重要な本市の地域特性としては、第一に「第一次産業中心の地域」であるという点があげられる。都心近郊でありながら、漁業及び農業が盛んであるという地域特性は、周辺の地域（横須賀市、逗子市、鎌倉市など）と比較しても、際立った特徴を生み出している。都心に近いことから、鮮度の良さが大切となる食材（生鮮野菜、まぐろなど）が本市のブランドにもなっている。

第二に観光資源があげられる。第一の特徴とも関連するが、“食”を通じたフードツーリズムに適した地域であり、「みさきまぐろきっぷ」はこの強みを生かした商品の代表例と言える。

第三に市立病院を中核とした「地域医療」の取組がある。予防医療を推進するための基盤となる健診データの一元化、企業、大学、病院が連携してリハビリデイサービスを提供する拠点づくりなどを進めている。

また、想定される移住者の属性としては「都心ないし都心近郊居住者」、「（市内の職場は必ずしも多くないため、自営業で働けたり、リタイア層などの）通勤が不要な人」などがあげられた。これらの層に対し、上記のような三浦市の特性を活用して CCRC の差別化・魅力付けを図り、訴求することが望まれる。

5.4.2 三浦市において CCRC を展開していくうえでの連携内容

市立病院と CCRC との連携可能性としては、まず、地域包括ケア実現に向けた当該病院の重要な取り組みとの連携が考えられる。

京浜急行電鉄株式会社との連携可能性としては、同社が行っている分譲開発事業との連携（分譲地の CCRC 化）、CCRC 入居者向けのコミュニティバスの運行受託、警備や施設管理等の受託などが考えられる。

商工会議所では地場製品の付加価値化を進めている。本市の産業は内需を中心とした生活密着型であるため、商品開発には生活者の視点が重要となる。外部の目を持つ都心から移住してきた感度の高い生活者が商品開発に関与することで、より付加価値の高い商品を生み出せる可能性がある。マーケティングの面でも入居者と連携することで、新たなアイデアが得られる可能性もある。

また、本市は年間を通じて数多くのイベントを実施しており、その中で商工会議所では「主催」、「後援」など 20 件以上関与しているという。大規模なイベントが多いため、当日の開催・運営や市外へのイベントのプロモーションなどにおいても、入居者の力を借りることができれば、円滑かつ充実したイベントを実施できる可能性がある。

ところで、後述の「福祉的なコミュニティ」を CCRC 内で創出する一つの方策として、これから開始される「介護予防・日常生活支援総合事業」の活用が考えられる。入居者向けの介護予防や日常生活支援サービスに関して、入居者自身が組織を形作り、供給するという案である。商工会議所では、介護事業者の創業支援の実績とノウハウを有することから、このような場合に事業構築のアドバイスを行うことが考えられる。

5.4.3 CCRC 展開モデルとして想定される方向性

上述の本市の地域特性を踏まえて想定される CCRC 展開の方向性としては、まず「安心」と「生きがい」を両立しうる仕組みづくりが考えられる。

安心の面では、医療や介護が必要になった際に、CCRC がどのような機能を果たしうるのかを明確に示すことの大切さの指摘があった。生きがいの面では、上述のような産業振興、観光振興、さらにいえばまちづくり全般に入居者が積極的に関わられるような仕組みを構築することが考えられる。

ところで、ヒアリングでは、市内や本市近郊の都市では分譲住宅地の売れ残りが出てきているとの指摘があり、また、これらの住宅への入居者の中には一人世帯の女性も増えているとのことであった。「住」のみでは通常の住宅分譲との差別化は図ることが難しいため、CCRC の中でいかに新しいコミュニティを創り、高齢の一人世帯が精神的な満足を得られるかが成功の鍵を握ると考えられる。

一方、元気な高齢者も要介護の高齢者も入居し、入居者同士がお互いに助け合う仕組み（コミュニティ）を作ることが、継続的な入居につながるし、サービス内容も充実するのではないかとの指摘もあった。趣味でつながるコミュニティのみならず、福祉的なコミュニティの可能性が示唆される。

5.4.4 CCRC 展開に向けて行政に期待すること（事業者進出を促すための規制緩和等）

CCRC と関わる事が考えられる産業関係の団体としては、今回ヒアリングを行った商工会議所の他、農協、漁協があり、これらの団体が協業することで、初めて「食を通じたフードツーリズム」に代表されるような効果的な産業振興の活動を行うことが可能となる。CCRC に産業団体が発関する際でもこれらの団体の連携・協業が大切であり、そのためには市行政のコーディネート力が不可欠であるとの指摘があった。CCRC と連携が求められる団体・組織・機関・事業所としては、上記に限らず、市立病院などの医療機関、地域包括支援センター、介護保険事業者などの医療・福祉分野の組織、県立保健福祉大学などの教育分野の組織と多様であることから、これらをつなげる行政の役割と期待は大きい。

6. CCRC 展開可能性の検証

6.1 CCRC 関連事業の国内事例

6.1.1 ゆいまーる那須

(1) 概要

栃木県那須町にある高齢者向け住宅であり、地方へ移住した健常シニアによるコミュニティを実現している。建設前から、入居者が施設計画や運営に参加した「居住前参加」を実現している。ゆいまーる那須（以下、ゆいまーる）では、施設のことを「ハウス」と呼んでおり、居住者が現役時代の職業を活かして昼食時のそば打ちやヘアカット等、ハウス運営に参加している。

(2) 施設規模

- 敷地面積：9,978.05 m²
- 建築面積：3,561.04 m²
- 延床面積：3,528.26 m²
- 構造規模木造：A 棟 1 階建、B 棟 2 階建、C 棟 1 階建、D 棟 2 階建、E 棟 2 階建、食堂棟、介護棟、共用棟
- 総戸数：70 戸（5 棟合計） サービス付き高齢者向け住宅
- 間取り：1R～2LDK（住戸専用面積 33.12 m²～66.25 m²）

(3) 提供サービス

- 生活、介護・医療サービス等
生活：生活相談、送迎車（1 日 4 便、週 5 回運行）
介護・医療：協力医療機関あり（健康チェック、在宅ケア、看取りまで）敷地内にデイサービスを併設

(4) 利用料金、費用

- 入居費用（一括、月々のいずれかを選択）
家賃一括前払い：1,175 万円～2,489 万円
月々払い：59,000 円～139,000 円（入居時敷金 2 ヶ月分要）
- 月々の費用
共益費 8,000 円、サポート費 30,850 円（2 人の場合 50,400 円）、食費 40,000 円／人（昼食、夕食を 30 日食堂利用の場合）

(5) 移住の実績

- 入居状況
 - ・ 総居室数：70 戸

- ・ 入居者数：78名（一人入居：58名、二人入居：10組20名）
- ・ 入居者男女比：男19名（25%）、女56名（75%）
- ・ 入居者平均年齢：男69.6歳、女71.7歳、平均年齢70.7歳

● 従前住所及び出身地

- ・ 関東圏：54名（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉等）
- ・ 関西圏：7名（大阪府、神戸市等）
- ・ 福島県：8名
- ・ 那須町：2名
- ・ その他：7名（北海道、新潟県、静岡県、岩手県、佐賀県）

（2015年3月末）

出所）「日本版 CCRC 構想に関する地方自治体との意見交換会 資料6 株式会社コミュニティネット資料「日本版 CCRC の具現化と「ゆいま〜る」の事例紹介」、
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/meeting/ccrc/h27-07-22.html>、2016年1月25日取得

図表 6-1 施設の様子（ゆいまーる那須）



出所）ゆいまーる那須 web サイト、<http://c-net.jp/nasu>、2016年1月20日取得

6.1.2 スマートコミュニティ稲毛

(1) 概要

千葉県千葉市にある、高齢者を対象とした分譲マンションである。「元気なうちに移り住む」というアクティブシニアタウンの視点を有する。500世帯を超える規模であり、集住によって、提供サービスの調達コストの低減を図っている。

撤退した大規模商業施設や健保グラウンドを施設の一部として再利用しており、多様なプログラムによる居住者のアクティブシニアライフを提供している。

- 開設年次：2010年4月
- 事業主体：株式会社スマートコミュニティ
- 所在地：千葉県千葉市稲毛区長沼町93-1
- アクセス：JR稲毛駅からバスで約18分／東京駅から高速バスで約50分

(2) 施設規模

- 敷地面積：22,767.09 m²、(グラウンド) 74,184 m²
- 建築面積：(A～E棟) 7,216.31 m²
- 延床面積：(A～E棟) 53,126.57 m²、(クラブハウス) 34,421 m²
- 構造規模：鉄筋コンクリート造
A棟14階建、B棟14階建、C棟5階建、D棟6階建
- 総戸数：771戸
- 間取り：1K～2LDK (住戸専用面積33～82 m²)

(3) 提供サービス

- 生活、介護・医療サービス等
生活：住空間及びクラブハウスにコンシェルジュが常駐
(宅配便の取次、掃除サービス依頼、アクティビティやセミナー企画、ビジネス支援等)
医療・介護：日中は看護師が常駐(救急処置、相談対応等)。デンタルクリニックあり。
近隣医療機関と連携、自社の訪問介護サービス開業予定。重度の介護が必要な場合、提携施設への入所を優先的に紹介

(4) 利用料金、費用

- 入居時：入会金＋施設利用権利金 190万円 (2人の場合285万円)
- 入居後：コミュニティサービス費42,858円 (2人の場合76,192円)、朝・夕食費41,905円
／人
- 分譲マンション価格
- 主要タイプ 33 m²：1,500万円台 70 m²：2,900万円台

(5) 移住の実績

会員数 600 人

出所) <http://sumai.nikkei.co.jp/edit/rba/modelroom/detail/MMSUa5000026022015/>、2016 年 1 月 25 日取得

図表 6-2 施設の様子 (スマートコミュニティ稲毛)



出所) スマートコミュニティ稲毛 web サイト、<http://www.smartcommunity.co.jp/>、2016 年 1 月 20 日取得

6.1.3 シェア金沢

(1) 概要

石川県金沢市にある、高齢者施設、大学生住宅、児童入所施設が共存する多世代型コミュニティである。居住者が共同で店舗を運営し、自分たちが必要なものを仕入れ、販売を担当するという「担い手」になる仕組みがある。学生は入居後のボランティア活動を条件として低価格の家賃となっており、コミュニティへの参加を促す仕掛けづくりがなされている。

- 開設年次：2013年9月
- 事業主体：社会福祉法人佛子園
- 所在地：金沢市若松町セ104番地1
- アクセス：香林坊まで車で約12分

(2) 施設規模

- 敷地面積：約33,000㎡（サービス付き高齢者向け住宅【32戸】、学生向け住宅【8戸】、児童入所施設、児童発達支援センター、各種飲食・サービス）

<サービス付き高齢者向け住宅>

- 総戸数：32戸
平屋（4戸）4棟
2階建て（8戸）2棟
- 間取り：42.08㎡（12.72坪）～43.74㎡（13.23坪）

(3) 提供サービス

- 生活、介護・医療サービス等
食事の提供：事前予約／朝500円・夕800円、昼は相談
入浴、排泄、食事等の介護（介護保険適用）
調理、洗濯、清掃等の家事（介護保険適用）
健康管理サービス（健康相談、血圧等の測定）
無料サービス：敷地内の温浴施設利用、敷地内インフォメーション利用、宅配便預かり
有料サービス：敷地内レストラン利用、菜園貸与、各種カルチャー講座特別料金にて利用可、クリーニング、コインランドリー、買い物代行

(4) 利用料金、費用

- 家賃：月額85,000円（2階建て1階部分）、90,000円（2階建て2階部分）、95,000円（平屋）
- 共益費：20,000円（水道・電気・光熱費含む）2人入居の場合は25,000円/月（ケーブルテレビ、インターネット使用料は別途）

- 状況把握・生活相談：15,000 円/月（2 人の場合は、30,000 円/月）
- 敷金：家賃の2ヵ月分※入居一時金、礼金等はありません。
- 駐車料：3,000 円/月

(5) 移住の実績

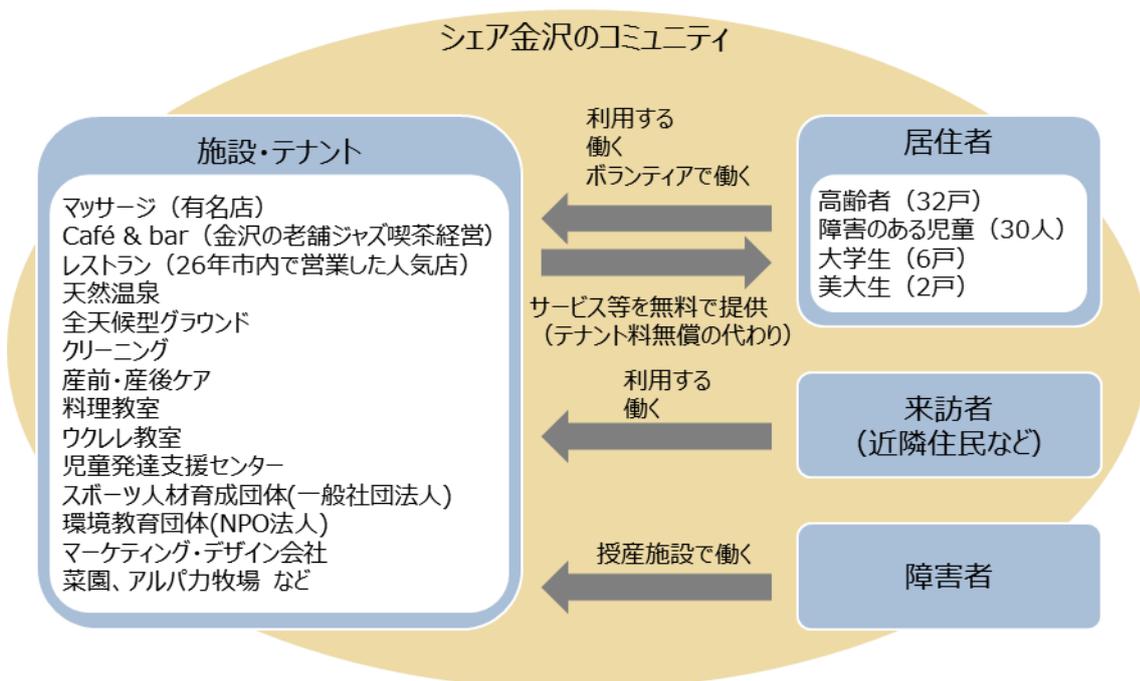
公表資料からは確認できなかった。

図表 6-3 施設の様子（シェア金沢）



出所) シェア金沢 web サイト、<http://share-kanazawa.com/>、2016 年 1 月 25 日取得

図表 6-4 シェア金沢の仕組み



出所) 公開資料、ヒアリング調査をもとに三菱総合研究所が作成

6.1.4 岐阜シティタワー43（ラシュールメゾン岐阜）

(1) 概要

岐阜県岐阜市にある、サービス付き高齢者向け住宅である。県住宅供給公社からの委託により、社会福祉法人が居住者に対して、見守り・相談対応等のサービスを提供している。

JR 岐阜駅前立地による利便性が魅力となり、郊外部・中山間地より高齢者が転居している。3階フロアに「住宅」、「介護・医療」、「賑わい・交流」要素のある「街」を形成している。

- 開設年次：2007年9月
- 所在地：岐阜県岐阜市橋本町2丁目52番地
- アクセス：JR 岐阜駅徒歩3分
- 事業主体：県住宅供給公社

(2) 施設規模

- 専有面積：22,767.09 m²（6～14階）
- 総戸数：108戸
- 間取り：1LDK、2LDK（住戸専用面積44～57 m²）

(3) 提供サービス

- 基本サービス
緊急通報・安否確認：各部屋からの緊急通報ならびに各部屋に設置された安否確認装置からの異常信号に対し、電話・インターホン・訪問で対応。（365日24時間）
生活相談・健康相談
- 選択サービス（併設の社会福祉法人新生会と契約し別途料金）
食事サービス
家事支援サービス
調剤薬局等の訪問サービス等

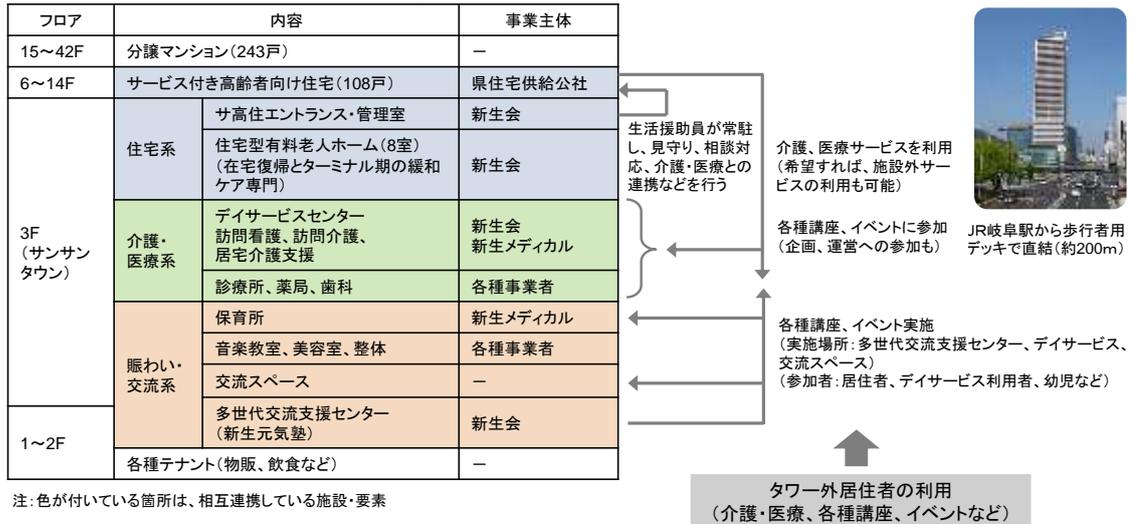
(4) 利用料金、費用

- 家賃：月額95,000円～135,000円（敷金：家賃の3ヶ月分）
- 共益費：月額12,500円／戸
- 状況把握・生活相談サービス費：月額9,560円／戸

(5) 移住の実績

公表資料からは確認できなかった。

図表 6-5 岐阜シティタワー43の仕組み



出所) 岐阜シティタワーweb サイト (<http://www.gifucity-tower43.jp/>) をもとに三菱総合研究所が作成

図表 6-6 施設の様子 (岐阜シティタワー43)



住民が先生役 クラフト教室



住民同士で話し合う場を設定



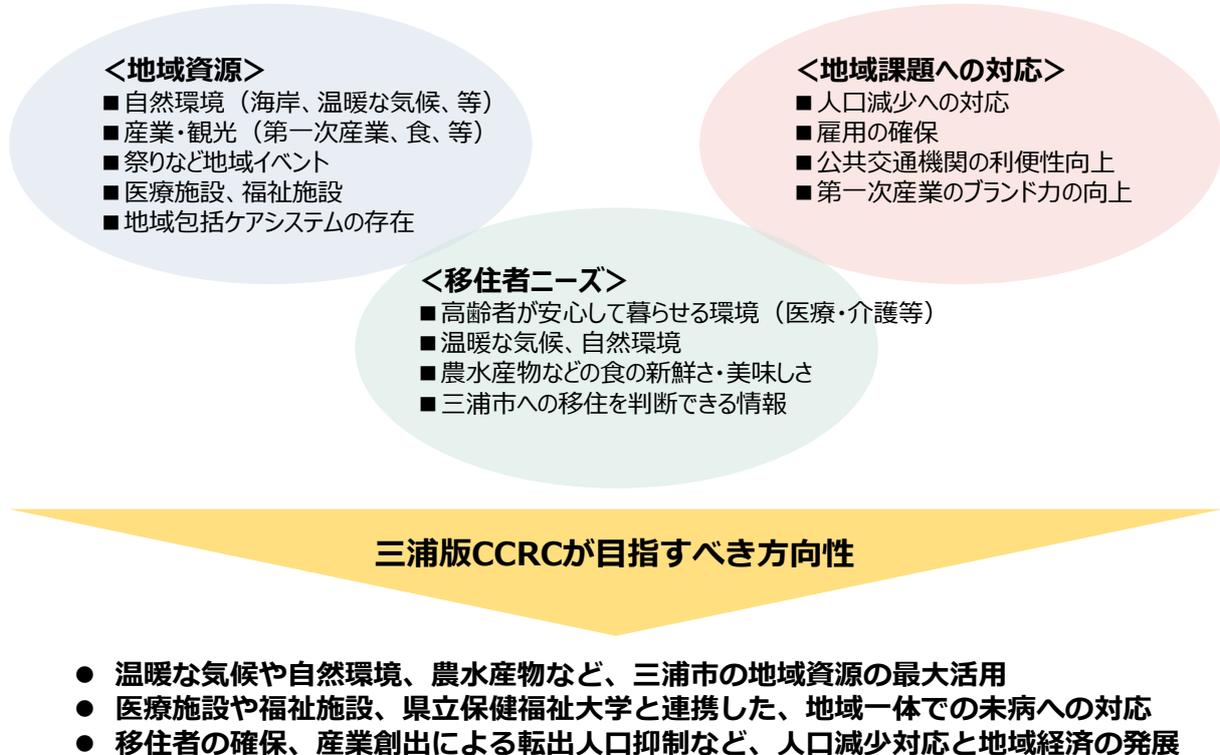
保育の子供と住民の交流

出所) 新生会サンビレッジ岐阜 web サイト、<http://www.sun-village.jp/publics/index/162/>、2016年1月25日取得

6.2 三浦版 CCRC 構想のコンセプト

本市の地域資源を活用することに加えて、移住者のニーズ及び地域課題への対応を踏まえ、三浦版 CCRC 構想のコンセプトとして下図に示す3点を設定した。

図表 6-7 CCRC 構想のコンセプト



6.2.1 温暖な気候や自然環境、農水産物など、三浦市の地域資源の最大活用

(1) 三浦市のこれまでの取組み

『三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において、「三浦市への新しいひとの流れをつくる」ことを基本目標として設定し、豊かな農水産物、過ごしやすい気候、半島を囲む海や関東唯一の完結した流域生態系とされる小網代の森をはじめとした自然があることに加え、都心までのアクセスに優れた本市ならではのライフスタイルを発信することにより転入者増加を図ることとしている。

(2) コンセプトの考え方

居住者ニーズ調査結果では、本市への移住を検討する理由として「自然豊かな環境で暮らしたい」という回答が最も多く、また、本市における CCRC のまちづくりにおいて重視したい事項として「温暖な気候」を挙げる方が多かった。

また、本市は第一次産業主体の地域であり、例えば三崎港は遠洋マグロ漁業の中心地として全国的に有名であり、観光面での地域資源の活かし方として京急の「みさきまぐろきっぷ」のような“食”を通じた観光（フードツーリズム）の振興が盛んに行われている。

このように本市の大きな魅力となっている温暖な気候や自然環境、農水産物といった地域資源

を最大限活用し、本市ならではのライフスタイルを提供していくことで、アクティブシニアにとって魅力的な移住地としていくことを目指す。

6.2.2 医療施設や福祉施設、県立保健福祉大学と連携した、地域一体での未病への対応

(1) 三浦市のこれまでの取組み

『三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において、施設入所を必要とする要介護者の増加の抑制を基本的方向として位置づけ、その具体的な施策として、下記を挙げている。

- ・県立保健福祉大学と連携し、高齢者の生活実態の問題点の調査による地域ニーズの把握
- ・社会実装型の製品サービス開発拠点（リビングラボラトリー）での地域課題のニーズ・シーズマッチング
- ・未病を治すための健康指導教室

三浦市立病院では回復期の患者を支援するためリハビリテーション体制の充実を図っている。具体的には神奈川県立保健福祉大学と連携し、リハビリテーションの職員の充実を図っている。

地域住民、企業、行政、大学等が参画し、地域創生型オープンプラットホームとなる「リビングラボラトリー」の運営を開始している。リハビリデイサービスを提供すると同時に、健康増進事業、転倒予防、介護予防事業、介護・リハビリロボットの研究開発にも取り組んでいる。

『三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において、がん検診事業、成人歯科健康診査事業、健康診査事業、特定健康診査等事業などによる病気の予防・健康増進策を具体的な施策として位置づけている。

予防医療重視の健康づくりに地域ぐるみで取り組んでいる。具体的には、三浦市立病院では予防医療を推進するため、地元の診療所などと連携し、特定健診のデータの一元化を進めている。また、企業、大学、病院が連携してリハビリデイサービスを提供する拠点づくりなどを進めている。

三浦市立病院と神奈川県立保健福祉大学等が連携し、「市民健康大学」を立ち上げている。

(2) コンセプトの考え方

これまでの本市での地域包括ケアに向けた取り組みを踏まえ、三浦版 CCRC は地域の三浦市立病院をはじめとする病院等との連携を図り、アクティブシニアが要介護時にも安心できる継続的なケアを受けられるような仕組みづくりを目指す。

さらに三浦版 CCRC では、元気な高齢者と要介護高齢者が同じ施設に入居し、入居者同士がお互いに助け合う仕組み（コミュニティ）づくりを目指す。

予防医療重視の健康づくりへの取り組みを踏まえ、三浦版 CCRC は三浦市立病院をはじめとする地域の病院、診療所、企業、大学との連携を図り、アクティブシニアの病気予防、健康増進を図れるような仕組み作りを目指す。

6.2.3 移住者の確保、産業創出による転出人口抑制など、人口減少対応と地域経済の発展

(1) 三浦市のこれまでの取り組み

『三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において、「三浦市への新しいひとの流れをつくる」という基本目標に対して、市内の空き物件を利用したお試し居住の実施や、市民の行う移住促進イベントの支援等を実施することとしている。

また、『三浦市人口ビジョン・三浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略』において、「三浦市における安定した雇用を創出する」という基本目標に対して、「農業生産性の維持・向上」を基本的方向として位置づけ、その具体的な施策として、「男女農業者と都市在住者との農業体験型交流イベント」を実施することとしている。

(2) コンセプトの考え方

元気な移住高齢者が地域に溶け込み、地元の高齢者や若者、子育て世代と積極的に交流・協働し、地域の担い手として活躍できるような仕組みづくりを目指す。

元気な移住高齢者が地域社会との交流・協働の方法としては、例えば、地場産業の加工・ブランド化に向けた商品開発を行う「産業の担い手」、小中学校で、社会人経験の語り部となる「人材育成の担い手」、あるいは、まぐろ文化研究委員会等の「地域資源発掘の担い手」等が考えられる。

地域社会との交流・協働の仕組みを構築するためには、移住者、地元の方が共同で利用できる拠点や場を設けることが望ましい。CCRC の施設内に移住者、地元の方が利用できる共同スペースを設ける、あるいは既存の施設を共同スペースとして利用することが考えられる。前者としては、CCRC 内にコミュニティスペースを設けるだけでなく、CCRC 内のレストランやプログラムの一部を地元の方も利用・参加できるようにすることが考えられる。後者としては、例えば三崎高校跡地に計画されている市民交流センターの利用等が考えられる。

また、地域社会との交流・協働の仕組みを構築するためには、各種プログラムを構築する地域のコーディネーターも必要である。

6.3 三浦版 CCRC 構想の全体イメージ

三浦版 CCRC 構想のコンセプトを踏まえ、三浦版 CCRC の特長及び目指すべき方向性として下記の通り設定した。

(1) 予防医療重視の健康づくり

三浦市立病院をはじめとする地域の病院、診療所、企業、大学との連携を図り、アクティブシニアの病気予防、健康増進を図れるような仕組み作りを目指す。

(2) 地域社会との交流・協働

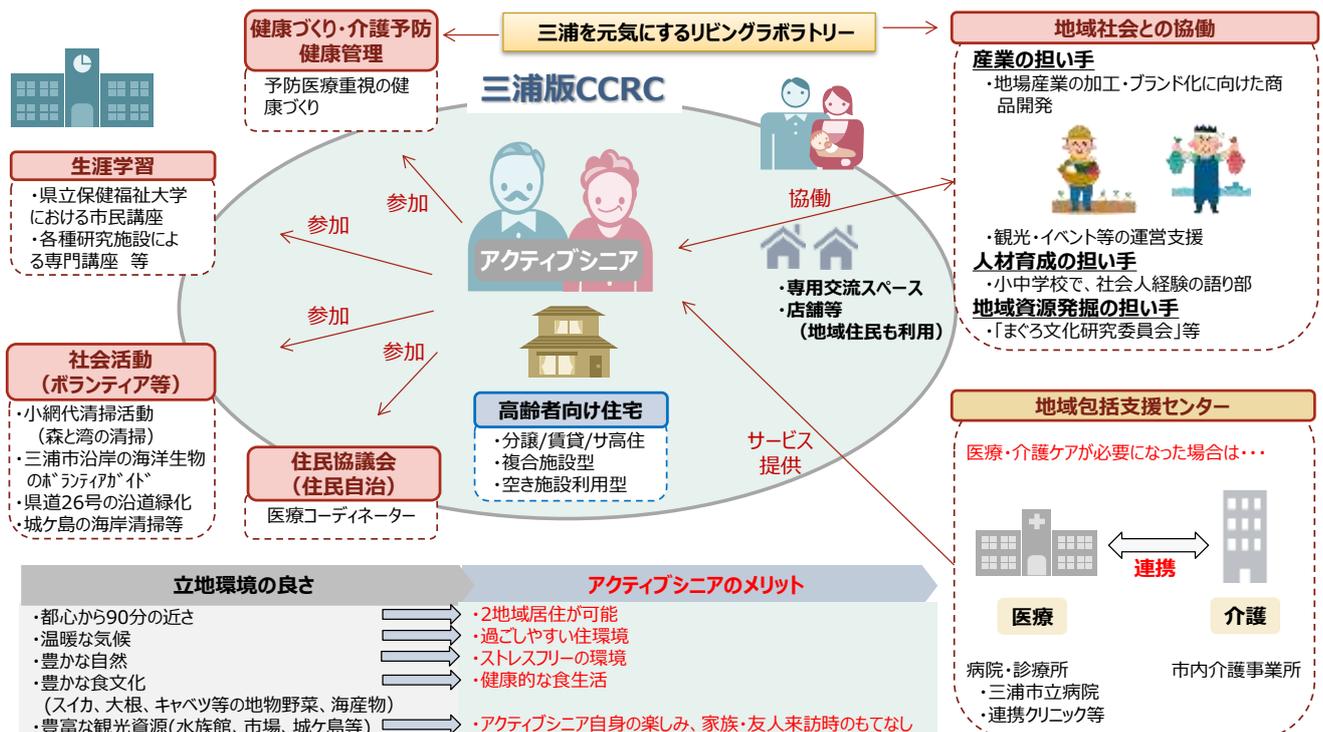
元気な移住高齢者が地域に溶け込み、地元の高齢者や若者、子育て世代と積極的に交流・協働し、地域の担い手として活躍できるような仕組みづくりを目指す。

また、豊かな自然、温暖な気候に恵まれ、海産物・地物野菜等の豊かな食を楽しむことができる特徴や、都心から 90 分というアクセスの良さを活かして週末だけ三浦で過ごす 2 地域居住も可能な立地環境であり、これらの特徴を活かした CCRC を実現していくことを目指す。

(3) 要介護時にも安心できる継続的なケア

地域の病院等との連携を図り、アクティブシニアが要介護時にも安心して継続的なケアを受けられるような仕組みづくりを目指す。さらに、アクティブシニアと要介護高齢者が同じ施設に入居し、入居者同士がお互いに助け合う仕組み（コミュニティ）づくりを目指す。また、高齢者の買い物支援サービス、高齢者へのきめ細かい生活支援サービス、健康管理システムなどについて、企業、大学、行政等が共同で検討し、高齢者にやさしい街づくりを目指す。

図表 6-8 三浦版 CCRC 構想 全体イメージ



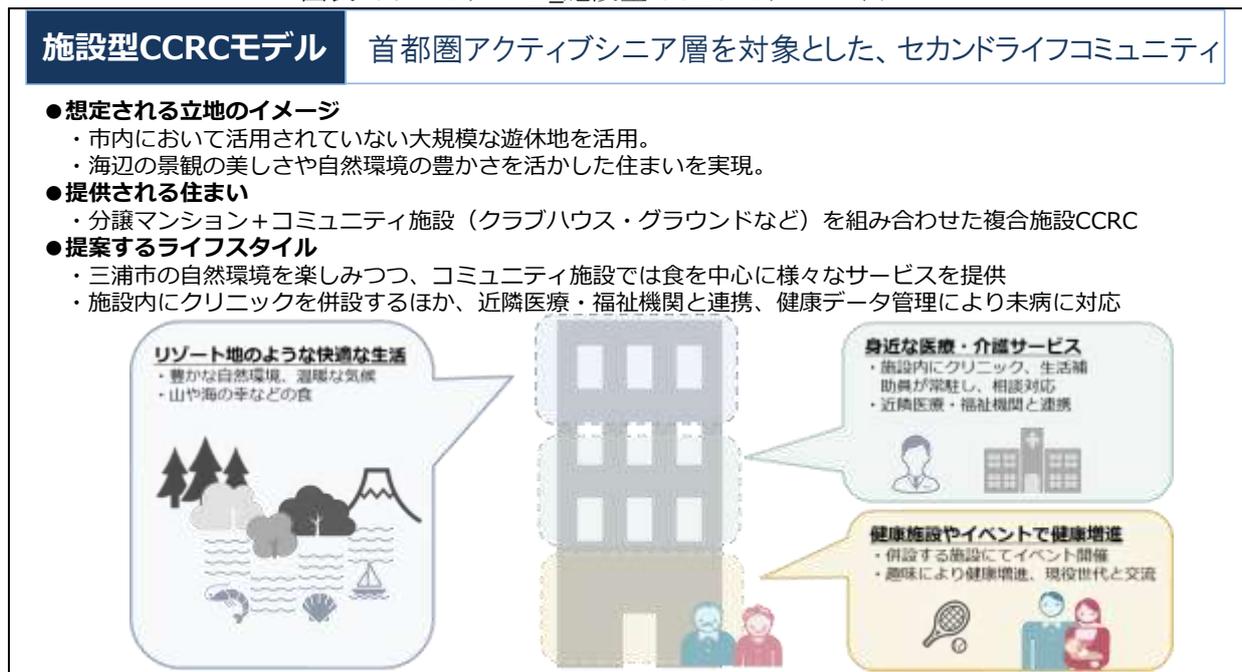
6.4 三浦版 CCRC 構想の展開モデル

三浦版 CCRC 構想のコンセプト及び全体イメージの実現に向けた展開モデルとして、①モデル 1_施設型 CCRC モデル、②モデル 2_エリア型 CCRC モデルを整理した。整理に当たっては、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が平成 27 年 12 月に公表した「生涯活躍のまち」構想に関する手引き（第 2 版）」に基づき、「入居者」「立地・居住環境」「サービスの提供」「事業運営」の観点から、想定される要件を設定した。

6.4.1 モデル 1_施設型 CCRC モデル

4つの観点	施設型 CCRC モデルの具体像
入居者	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態：健康な段階からの移住・入居を基本とする。 ● 年齢層：中高年齢期における早めの住み替えや、入居する地域での活躍を念頭に、50 代及び 60 代の方を中心とする。なお、比較的若い世代への情報発信・「お試し居住」・「二地域居住」なども検討する。 ● 住み替え形態：首都圏全体からの広域移住型のほか、比較的近隣の地域からの近隣転居型を想定する。 ● 所得等：一般的な退職者（厚生年金の標準的な年金額 21.8 万円の高齢者夫婦世帯）が入居できる費用モデルを基本としつつ、<u>首都圏のアップーミドルクラスの高齢者を想定する。</u> ● 属性：三浦市に縁のある方を基本とするほか、<u>三浦市の自然環境や農水産物に魅力を感じて移住を検討する可能性のある方をターゲットとして想定する。</u>
立地・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地：<u>市内において活用されていない大規模な遊休地を活用する。海辺の景観の美しさや自然環境の豊かさを活かした住まいを実現する。</u> ● 地域的広がり：<u>分譲マンション及びコミュニティ施設（クラブハウス・グラウンドなど）を組み合わせた複合施設を想定する。</u>
サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの提供：<u>三浦市の自然環境を楽しみつつ、コミュニティ施設では食を中心に様々なサービスが提供される。</u> ● 継続的なケアの提供：<u>施設内にクリニックを併設するほか、近隣医療・福祉機関と連携、健康データ管理により未病に対応する。</u>
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 入居者の事業への参画：入居する高齢者自身がそれまでのキャリアや趣味・嗜好を活かして、コミュニティの形成・運営に参画することを想定する。 ● 多様な主体による事業実施：民間企業、医療法人、社会福祉法人、県立保健福祉大学、NPO など多様な事業主体と連携し、地域の実情を踏まえた事業実施体制を整える。

図表 6-9 モデル1_施設型 CCRC モデルのイメージ



6.4.2 モデル2_エリア型 CCRC モデル

4つの観点	エリア型 CCRC モデルの具体像
入居者	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態：健康な段階からの移住・入居を基本とする。 ● 年齢層：中高年齢期における早めの住み替えや、入居する地域での活躍を念頭に、50代及び60代の方を中心とする。なお、比較的若い世代への情報発信・「お試し居住」・「二地域居住」なども検討する。 ● 住み替え形態：首都圏全体からの広域移住型のほか、比較的近隣の地域からの近隣転居型を想定する。 ● 所得等：一般的な退職者（厚生年金の標準的な年金月額 21.8 万円の高齢者夫婦世帯）が入居できる費用モデルを基本とする。 ● 属性：三浦市に縁のある方を基本とするほか、<u>三浦市における地場産業の振興や地域との関わりに魅力を感じて移住を検討する可能性のある方をターゲットとして想定する。</u>
立地・居住環境	<ul style="list-style-type: none"> ● 立地：<u>市街地において活用されていない施設や空き家を活用する。空き施設等を活用して移住者の住まいとしてリノベーションし、エリアの特徴に応じて地域社会と交流する。</u> ● 地域的広がり：<u>既存の集落や市街地など、地場産業等（主に第一次産業）と連携したコミュニティを構築する。</u>
サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ● プログラムの提供：<u>地場産業の加工・ブランド化に向けた外部の視点からの関与により、生き甲斐を創出する。地域イベントへの企画、地域おこしやPRなどでの関与により、地域住民や多世代交流を促進する。</u> ● 継続的なケアの提供：近隣医療・福祉機関と連携、健康データ管理により未病に対応する。

事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ● 入居者の事業への参画：入居する高齢者自身がそれまでのキャリアや趣味・嗜好を活かして、コミュニティの形成・運営に参画することを想定する。 ● 多様な主体による事業実施：民間企業、医療法人、社会福祉法人、県立保健福祉大学、NPO など多様な事業主体と連携し、地域の実情を踏まえた事業実施体制を整える。
------	---

図表 6-10 モデル2_エリア型 CCRC モデルのイメージ

エリア型CCRCモデル 地域資源・観光産業連携型コミュニティ

- **想定される立地のイメージ**
 - ・市街地において活用されていない施設や空き家を活用。
 - ・既存の集落や市街地など、地場産業等（主に第一次産業）と連携したコミュニティを構築。
- **提供される住まい**
 - ・空き施設等を利用して移住者の住まいとしてリノベーションし、エリアの特徴に応じて地域社会と交流
- **提案するライフスタイル**
 - ・地場産業の加工・ブランド化に向けた外部の視点からの関与により、生き甲斐を創出
 - ・地域イベントへの企画、地域おこしやPRなどでの関与により、地域住民や多世代交流を促進

立地環境の良さ（生涯学習）

- ・豊かな自然環境、温暖な気候
- ・地場産業の充実（第一次産業）





高齢者
三浦版CCRC

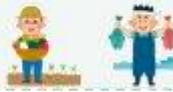
イベント開催時の手伝いにより交流（地域社会との共働）

- ・市内にはイベントが数多くあり、それらの手伝いにより住民や多世代交流



産業の担い手（社会活動）

- ・地場産業の加工・ブランド化に向けた商品開発



7. 運営推進機能の検証

7.1 事業主体に期待される運営推進機能

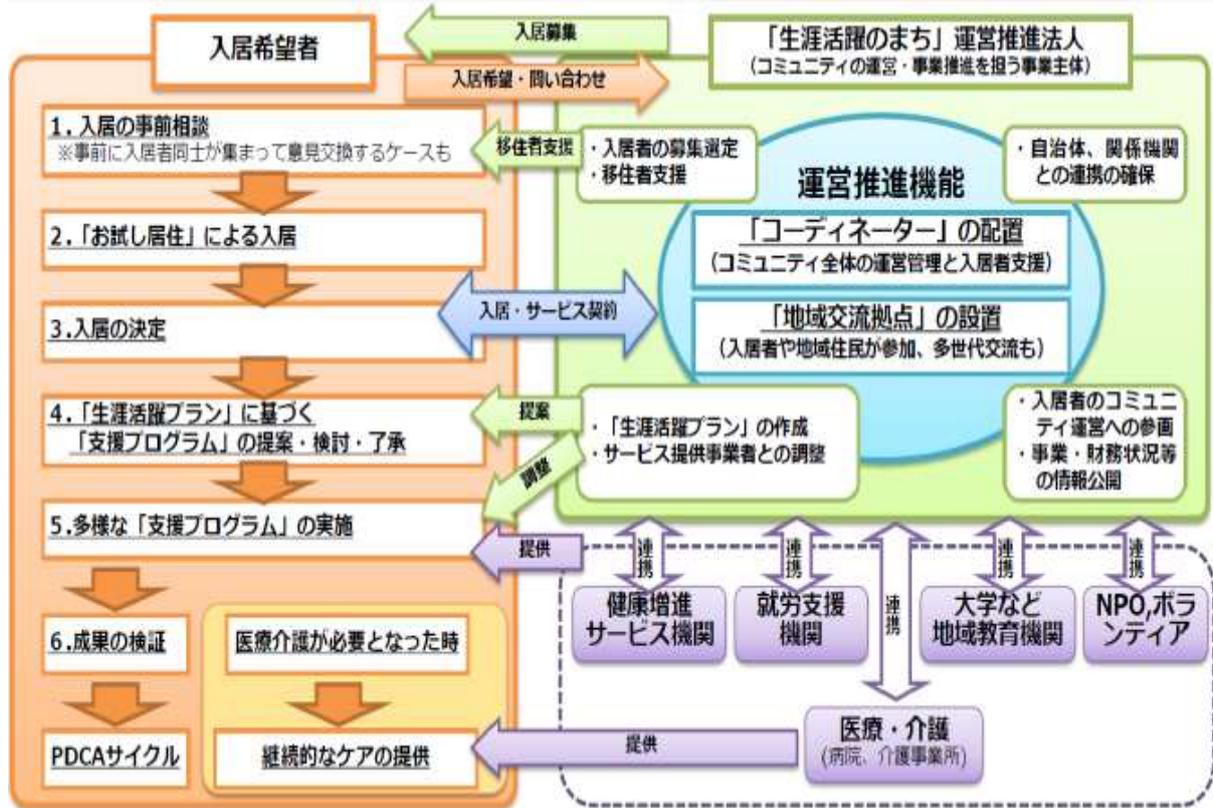
事業主体は、「三浦版 CCRC 構想」の実現にむけて、三浦市内及び近隣に立地する多数の関係機関と連携を図りつつ、多様なサービスの提供を安定的に実施することが求められる。

図表 7-1 三浦版 CCRC 構想に期待される運営推進機能と、想定される連携機関（イメージ）

機能	具体的事項	連携が想定できる 市内及び近隣機関等
▽入居希望者の募集・選定	募集・選定	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市政策部 地元産業団体
▽移住者支援	事前相談	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市移住対策窓口
	お試し居住	<ul style="list-style-type: none"> 「CCRC お試しサポート」(通いでお試し)
	ニーズのマッチング等	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市移住対策窓口
▽健康でアクティブな生活を実現するための支援プログラムの作成		<ul style="list-style-type: none"> 介護予防支援総合事業実施主体 (三浦市社会福祉協議会等の仲介)
▽サービス提供機関との調整	健康増進サービス	<ul style="list-style-type: none"> 地元ヘルスケア事業者 (三浦商工会議所の仲介)
	就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ハローワーク横須賀
	NPO、ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> NPO 機関、ボランティア組織 (三浦市社会福祉協議会等の仲介)
	シルバー人材センター	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市シルバー人材センター
	教育機関	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県立保健福祉大学 東京大学三崎臨海実験所
	医療・介護	<ul style="list-style-type: none"> 三浦市医師会、三浦市立病院 地元介護事業所 (三浦市社会福祉協議会の仲介)
▽三浦市、関係機関との連携確保	三浦市	<ul style="list-style-type: none"> 政策部 (移住) 市民部 (ボランティア等) 保健福祉部 (介護) 三浦市立病院 (医療)
	関係機関	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川県 (NPO、等) 三浦市社会福祉協議会 三浦市農業協同組合 三浦商工会議所 地元漁協 神奈川県警三崎警察署 (防犯) 三浦市消防本部 (救急)
▽入居者・地域住民のコミュニティ運営への参画		<ul style="list-style-type: none"> 地元町会・自治会 民生委員
▽情報公開・情報発信		<ul style="list-style-type: none"> 三浦市政策部・市民部

事業主体は、地元の関連機関との適切な連携を図りつつ、入居希望者への適切な対応と入居者への良質なサービスの提供を継続するため、運営管理や入居者支援等を行う「コーディネーター」の配置と、入居者や地域住民などが訪れる「地域交流拠点」を設置することが求められている。

図表 7-2 運営推進機能として期待される役割と入居者等が得られるサービスの利用の流れ



出所)「生涯活躍のまち」構想に関する手引き(第2版) 平成 27 年 12 月(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)

7.2 コーディネーターの配置

国の「生涯活躍のまち」構想におけるコーディネーターは、入居者の活躍と健康の維持に最大限の支援を図り、いわば地域コミュニティの幸福を最大化する役割を担う。具体的には、「運営推進機能」を発揮するため、地域ニーズの収集、入居者と必要なサービスの提供のマッチング、イベント・セミナー等開催、コミュニティビジネス・生きがい創出、地域を担う人材の育成等に取り組む必要がある。

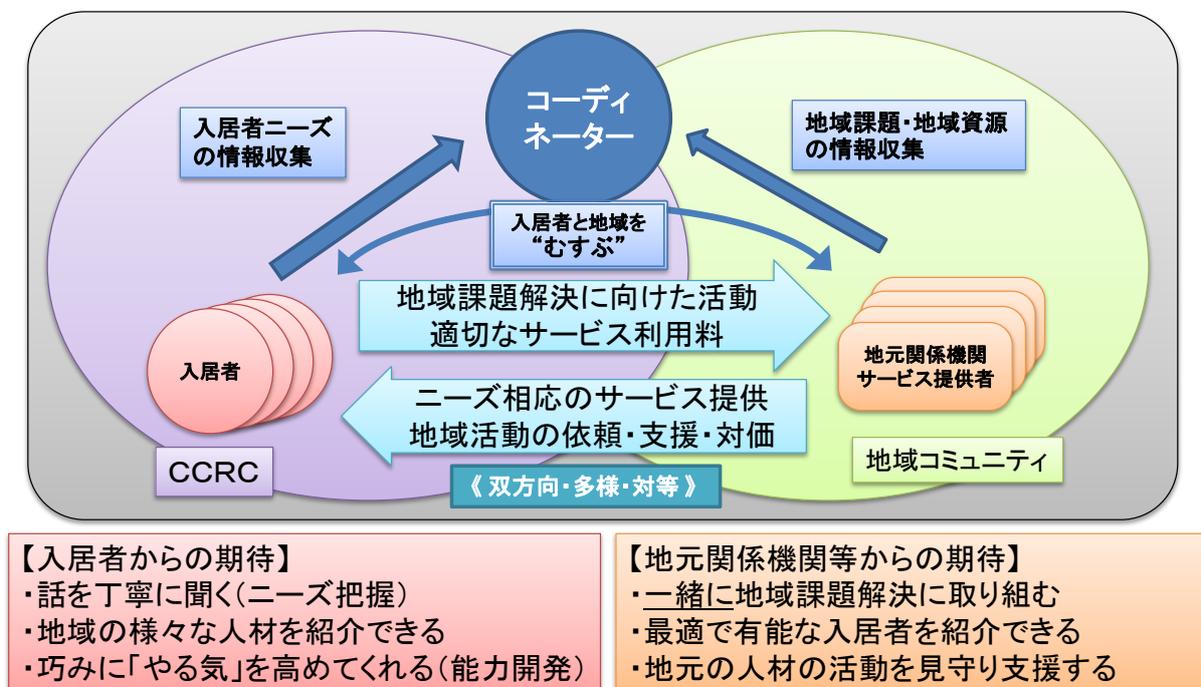
まず、こうした取組を行うにあたっては、当該地域で利用できる資源を把握・整理することが重要となる。地方自治体が実施している公的サービスや支援メニュー、民間のサービス提供主体の有無、NPOやボランティア団体の活動等も含めた事業を幅広く把握し、既に存在する資源については有効活用を図るとともに、不足しているサービスについては、既存の組織に活動を働きかけたり、新たな組織の設立を支援したりすることなどが考えられる。

また、このコーディネーターの役割は、入居者や地域住民自身が連携して担ったり、地域で生活支援等サービスを提供する団体や住民活動を支援する組織などで経験・実績のある人材が担ったりするほか、複数人で役割分担をしたり、新たに法人を創設して担わせるなど多様な形態が考えられる。

「地域包括ケア」との連携の観点から、介護保険制度の地域支援事業における「生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）」と兼任又は連携し、地域の生活支援等サービスの体制整備に取り組むことも考えられる。

特に三浦市では、入居者と地域コミュニティを結び付け、両者が相互に頼り・頼られる関係を構築することを支援する働きが求められる。

図表 7-3 コーディネーターの役割（イメージ）

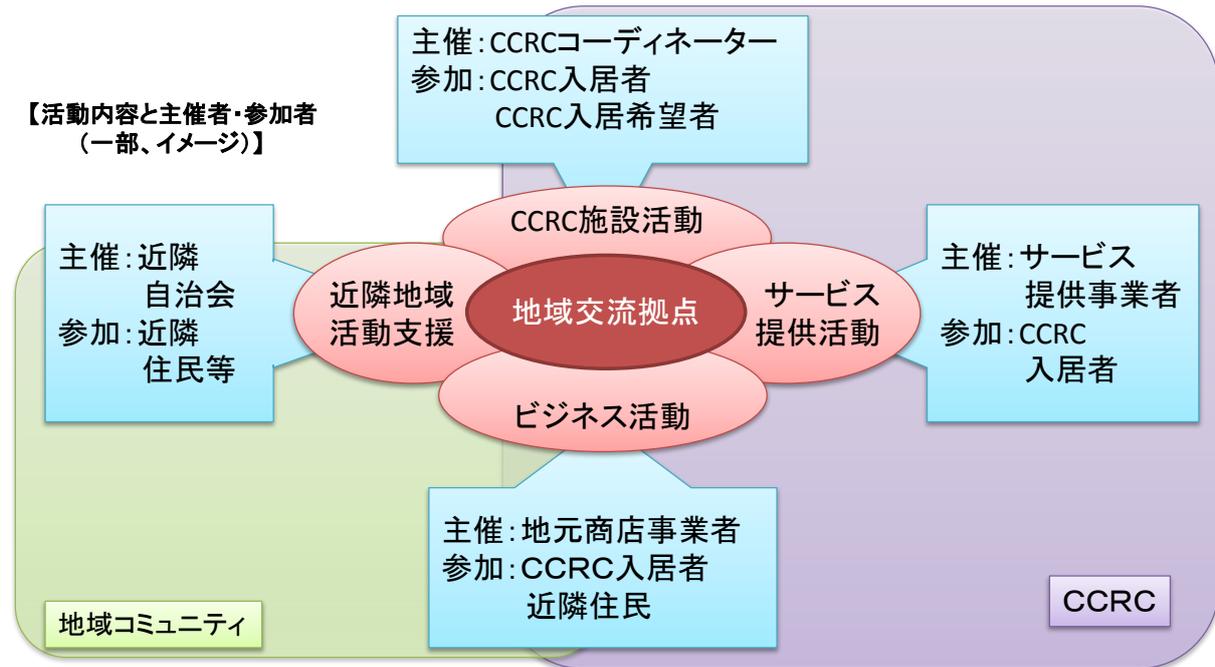


7.3 地域交流拠点の形態

現在別々に行われている種々の取組を一体的に実施するためには、高齢者をはじめ、コーディネーター、地域住民、若者や障害者等が協働し、多世代が交流できる環境を整備する必要がある。

「地域交流拠点」については、新規で整備することも考えられるが、地域になじみやすい場を初期費用を抑えて整備する観点から、地域の複合的福祉施設（高齢者、児童、障害者等の種々の福祉サービスを提供する施設）や学校等の空き教室、公民館等の公共施設、空き家や廃校になった学校などの既存資源の活用が望まれる。

図表 7-4 地域交流拠点の形態（イメージ）



特に、「地域包括ケア」との連携の観点から、既存の福祉拠点のスペースを入居者や近隣住民の集いの場として活用することも考えられ、これにより入居者と地域社会との交流が一層促進され、コミュニティの継続性が高まることが期待できる。

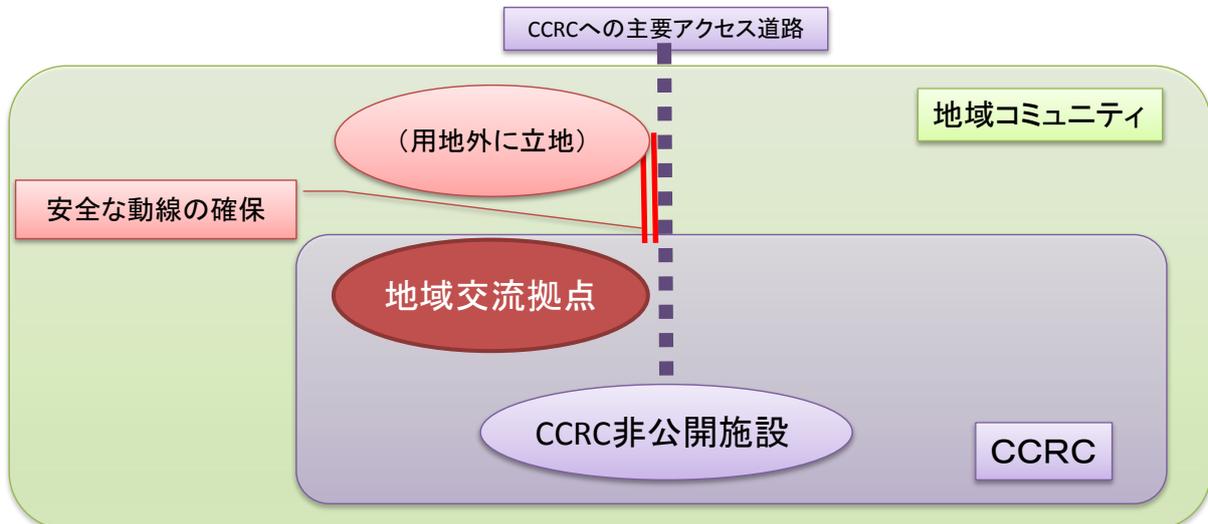
地域交流拠点の設置は、上記の観点に相応しい立地が求められる。いずれの場合も、来訪者が迷うことなく訪問可能な動線設計が必要となる。

例)

- ①外部アクセスしやすい立地
- ②用地内で景観が美しい立地
- ③防災面で安全な立地。

なお、施設型 CCRC において、地域コミュニティの交流拠点と併用する等の理由で事業用地外に地域交流拠点を設置することは、入居者の移動時の安全確保の観点から、避けることが望ましい。やむをえず用地外に立地させる場合は、歩車分離路の整備をはじめ、事業用地内とほぼ同等の通路を整備し、十分な安全を確保することが必要である。

図表 7-5 地域交流拠点の立地（イメージ）



8. 求められる制度の検討（特区、都市計画、税制度）

三浦版 CCRC 構想の実現に向けた取組として、CCRC 事業主体の発掘・誘致に向けて、事業主体向けのインセンティブ方策や、CCRC 入居者に向けての医療・介護の充実方策についての検討が求められる。本市において検討すべき課題のほか、各種関係事業者（医療・介護事業者、漁業・農業関係者等）との調整が必要となる課題が想定され、今後、具体的な方策や実現可能性について検討を進めていくことが求められる。

三浦版 CCRC 構想を推進していくために、特に、CCRC 事業主体から市に対して求められる施策・制度等について、CCRC 事業について検討実績を有する民間事業者に対してインタビュー調査を実施した。インタビュー調査結果の中から、今後、市において検討すべき課題、各種関係事業者との調整が必要となる課題について、下表に整理した。

図表 8-1 三浦版 CCRC の実現にあたり求められる施策・制度（案）

項目	求められる施策・制度	検討課題
事業主体に対するインセンティブ方策	固定資産税優遇	共有部にかかる固定資産税の減免可能性について検討する。
CCRC 入居者向け医療・介護の充実	地域の介護事業者との連携	CCRC 事業者と連携した対応が可能な介護事業者の発掘や、CCRC 事業者との調整支援を行う。
	「切れ目のないケア」の実現	三浦市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画など、市が策定する各種計画において、CCRC の推進を位置づける。
	「かかりつけ医」制度	三浦市医師会と連携して、CCRC 事業者と連携した「かかりつけ医」の発掘や、CCRC 事業者との調整支援を行う。
	市立病院との提携	予防医療の一環として、CCRC 入居者向け人間ドックなど、CCRC 事業者と市立病院との提携サービスに向けた調整支援を行う。
	地産地消 （三浦製品の採用）	CCRC 事業者の食堂において提供する食材等への三浦製品の採用に向けて、漁業・農業関係者とのマッチングを支援する。
	リビングラボラトリーとの連携	CCRC 入居者の協力のもと、予防医療重視の健康づくりへの取組に向けた、社会実装型の製品サービス開発拠点（リビングラボラトリー）との連携を支援する。（第二拠点の設置など）

9. CCRC のメリット及びデメリットの整理

本市における三浦版 CCRC 導入による中長期的な効果・影響について、定性的影響・効果、定量的影響・効果に分けて把握する。

定性的影響・効果については、首都圏等に居住する高齢者が三浦市に移住することに伴う多様な効果・影響を主体ごとに体系的に整理する。

定量的影響・効果については、消費増加に伴う経済効果、移住者増加に伴う各種サービス提供に伴う雇用促進効果、本市にとっての税収増効果、医療・介護関係の財政影響（基本的に負担減を想定）等の試算（シミュレーション）を実施する。

図表 9-1 三浦版 CCRC 導入による影響・効果の把握手順

	検討項目	検討内容
定性的影響・効果	①高齢者の移住・定住に伴う影響・効果の定性的整理	「三浦版CCRC」を通じて、首都圏等に居住する高齢者が三浦市に移住することに伴う多様な効果・影響を体系化し、定性的に整理する。
定量的影響・効果	②移住シナリオの設定	①のうち、定量的な試算が可能な影響・効果の項目について、試算に必要な移住シナリオとこれを表す各種パラメータ値を設定する（試算期間、年間移住者数、住所地特例対象施設への移住者割合、移住者の夫婦・単身割合、男女比、年齢分布、年間消費額、医療・介護コストの設定など）
	③三浦市の医療・介護保険財政への影響の試算	②で設定した将来シナリオに基づき、高齢者の移住、定住に伴う中長期的な三浦市への医療・介護費負担の影響・変化について試算する。
	④経済効果の試算	②で設定したパラメータ値、将来シナリオに基づき、高齢者の移住、定住に伴う消費効果などの経済的な効果を産業連関分析によって試算する。

9.1 定性的影響・効果

本市における CCRC 導入による、高齢者の移住・定住に伴う定性的な効果・影響は以下が考えられる。

現時点で想定される課題として、移住者と既存住民との間で地域コミュニティが形成されにくいという指摘が挙げられる。CCRC 導入のメリットや意義について、早い段階から移住者や既存住民に対して啓発していくことが重要である。

また、高齢の移住者が増加することにより、既存住民の医療・介護の受け皿が不足するのではないかと懸念があるものと想定される。これについては、限られた医療・介護資源を前提とした上で、医療・介護サービスの受け方や考え方に対する意識を、移住者や既存住民を含めて地域一体で変えていく必要があると考えられる。地域にない医療機能を望んでも現実的には実現は難しいことから、例えば、健康な人はできるだけ医療・介護の世話にならないという気構えをつくっていくことが重要である。

なお、高齢化率が高まることにより、市の財政負担が増えるという懸念があるが、高齢者が元気な状態で活躍できる環境をつくるのが CCRC の理念であり、これを念頭に置いた CCRC づくりを進めていくことが重要である。

図表 9-2 三浦版 CCRC 導入による定性的影響・効果の体系

	移住者家族	移住者	既存住民	地域
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ■ 豊かな自然や食文化に触れる機会の増加 ■ 安心感の向上 ■ 介護負担の軽減 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 健康寿命の延伸 ■ 楽しみや、生きがい・やりがい活動への参画 ■ 自然や食など豊かな環境 ■ 将来の医療・介護の安心 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新産業創出による就業機会の増加 ■ 社会参加機会の増加 ■ 楽しみや、生きがい・やりがい活動への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人口減少への対応 ■ 雇用誘発効果 ■ 経済波及効果 ■ 市税収入増・社会保険料収入増効果 ■ 遊休地の有効活用
課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 家族関係の希薄化 ■ 距離が離れることに伴う緊急時対応等への不安 ■ 子育てへの協力者としての高齢家族の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域コミュニティとの融和 ■ 就業機会や活躍の場の確保 ■ 移住に伴う生活費の不安 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新しい移住者との融和 ■ 医療・介護の受け皿の不足に対する懸念 ■ CCRC導入に対する理解の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 継続的な移住者の受け入れ ■ 高齢化率の高まり ■ 将来の医療・介護保険財政への負担増

9.2 定量的影響・効果

三浦版 CCRC 構想の推進により、首都圏等からアクティブシニアが三浦市内に移住することの効果・影響として、将来の医療・介護負担（財政負担、人材）、経済波及効果、公租・公課収入等について試算した（シミュレーション結果の詳細は参考資料を参照）。

9.2.1 試算の手順

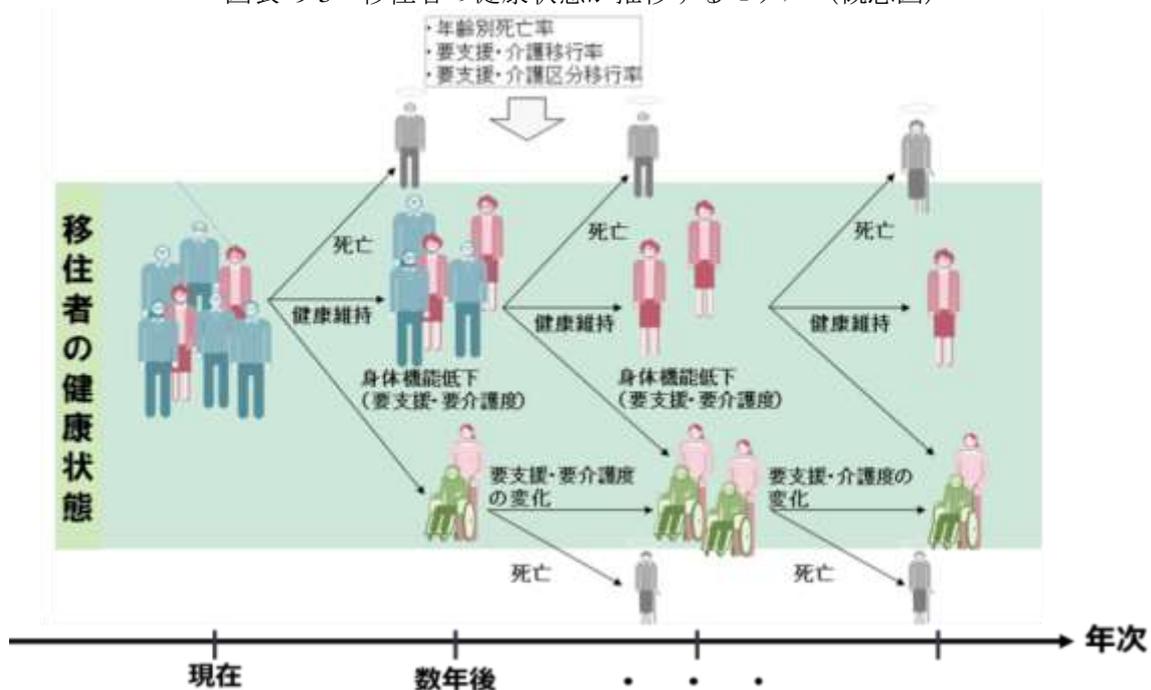
- ① 公的統計に基づき、年次ごとに確率的に移住者の健康状態（健常、要支援・介護度、死亡）が推移するモデルの構築
- ② 三浦版 CCRC のターゲットとなる移住者の受入れケース（時期、人数、年齢層、所得など）の設定
- ③ 三浦版 CCRC が実現した場合の、地域の将来医療・介護負担（財政負担や医療・介護人材の必要数）や経済波及効果などのシミュレーション

(1) 移住者の健康状態（健常、要支援・介護度、死亡）が推移するモデルの構築

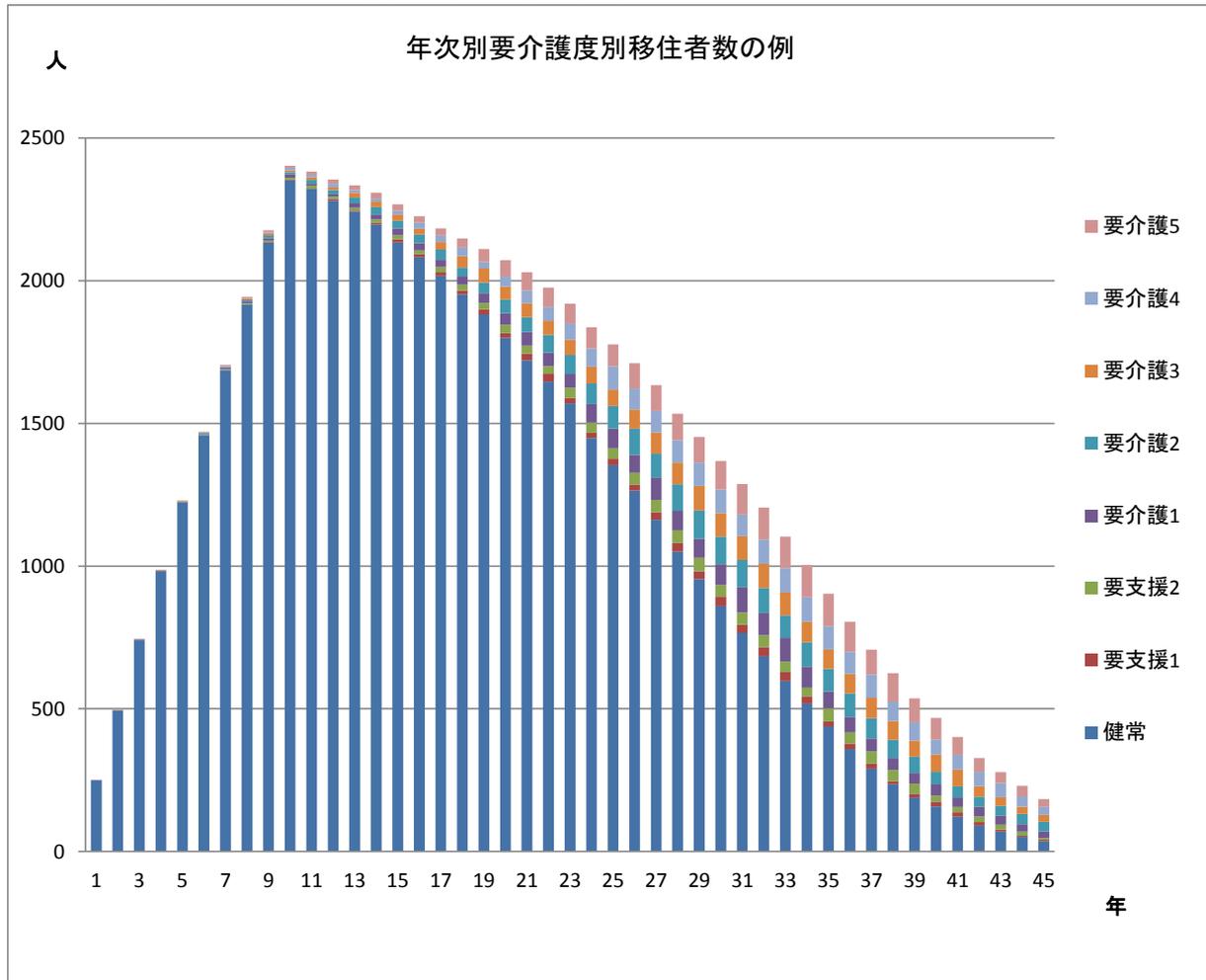
公的統計に基づき、年次ごとに確率的に移住者の健康状態が推移するモデルを構築した。

三浦版 CCRC に移住者が移住してから、移住者ひとりひとりの健康状態（健常、要支援・要介護、死亡）が毎年どのように移り変わるのか、移住者ひとりにつきコンピューター上で 100 回シミュレーションを行い、同様の計算を移住者全員分行うことにより、移住者全員の毎年の健康状態別人数を推計した。

図表 9-3 移住者の健康状態が推移するモデル（概念図）



図表 9-4 健康状態別の移住者数の推移（シミュレーション結果イメージ）



(2) 三浦版 CCRC のターゲットとなる移住者の受入れケースの設定

三浦版 CCRC のターゲットとなる移住者の受入ケース（シミュレーションの前提条件）を、ターゲットとする移住者の特性や三浦版 CCRC の構想を踏まえて、以下の3つのパターンのシナリオ（インプット条件）を設定した。

なお、CCRC 構想について検討している全国13箇所の地方公共団体においても、同様のシミュレーションモデルを用いて、CCRC 導入に伴う効果影響分析を実施している。

シナリオ①：三浦版 CCRC 構想において想定する CCRC 展開モデル（施設型）を対象として、最大の開発規模、開発スピードを勘案して設定。

シナリオ②：シナリオ①と同様の開発スピードで、半分の開発規模を勘案して設定。

シナリオ③：「まち・ひと・しごと総合戦略」に準拠した、政策実施期間、施策効果による人口増加を見込んで設定。

いずれのシナリオ設定においても、移住者として想定される方の条件として下記の前提を置いて試算していることに留意が必要である。

- 三浦版 CCRC 構想ではアクティブシニア層の移住を想定していることから、移住時点の健康状態は全員が健常者であり、要介護認定者は居ないことを前提として試算した。
- 実際の移住者は1世帯あたり複数人数となることも想定されるが、本シミュレーションにおいては、全て1人世帯であることを前提として試算した。また、アッパーミドルクラスのアクティブシニア層をターゲットとする想定で、1人あたりの年間消費可能額を240万円と設定した。

図表 9-5 3 パターンのシナリオ設定（インプット条件）

項目	内容	シナリオ① 最大開発規模	シナリオ② 最大開発規模 の半分	シナリオ③ 人口ビジョン 準拠	設定の考え方
移住政策	政策実施期間	10年間	5年間	5年間	三浦市が目標とするCCRC実現に向け各種施設・環境を整備する期間 ①想定するCCRCモデル（施設型）を対象として、最大の開発規模・開発スピードを勘案した場合 ②①と同様の開発スピードで、半分の開発規模を勘案した場合 ③まち・ひと・しごと総合戦略に準拠した場合（政策実施期間、人口増加人数）
	年次移住者数	合計2,500人 (250人×10年間)	合計1,250人 (250人×5年間)	合計500人 (100人×5年間)	
	政策効果計算期間	50年間			・60歳の高齢者が移住してきた場合に、最も長寿命の方も死亡するとされる期間 ➢ 60歳の方が移住した場合、要介護となる割合が最も高い時期が25年後と想定されるため、政策効果計算期間を25年以上を前提した。
移住者 プロフィール	性別の分布	1:1			三浦版CCRC構想で想定するターゲット
	移住者の対象年齢幅	50～69歳			三浦版CCRC構想のターゲット層として、アクティブシニアを対象として設定
	移住者の最大ボリューム層の年齢	60歳			三浦版CCRC構想で想定するターゲット層の中間層
	移住時の健康状態	健常者=10割 / 要介護認定=0割			三浦版CCRC構想で想定するターゲット（アクティブシニアを対象）
	住所地特例適用割合 (サ高住入居者の割合で算出)	一般住宅居住者=10割 / サ高住入居者=0割			住所地特例適用割合をゼロとし、三浦市財政にとって最も厳しい条件として設定した。
	年間消費可能額	240万円/年			想定するアッパーミドルのアクティブシニアが月20万円消費すると仮定
	自市内消費割合	全国値77%（既定）			全国消費実態調査（品目及び購入先・購入地域に関する結果_単身世帯_表150_男性、年齢階級、購入地域、購入先、品目別1世帯当たり1か月間の支出）
	年齢別受診率、1人あたり医療費・介護費	全国値を使用（既定）			・「国民健康保険実態調査」第1表-1 都道府県別、保険者数、年齢階級別被保険者等数、所得（旧ただし書き方式による課税標準額）の状況 ・「後期高齢者医療事業状況報告」第1表 都道府県別被保険者の状況 ・「医療給付実態調査」第7表-1 都道府県別、年齢階級別、診療種別、件数、日数（回数）、点数（金額） 市町村国保・計、第7表-2 都道府県別、年齢階級別、診療種別、件数、日数（回数）、点数（金額） 後期高齢者医療制度・計 ・「介護給付費実態調査」閲覧第2表 費用額、介護予防サービス種類・要支援状態区分・都道府県別（累計）、閲覧第2表 費用額、介護サービス種類・要介護状態区分・都道府県別（累計）
医療費・介護費の自己負担比率、市町村負担比率	全国値8.33%（既定）			公費約5割×市町村負担1/6（国：都道府県：市町村=4：1：1）	

(3) 地域の将来医療・介護負担や経済波及効果などのシミュレーション

三浦版 CCRC が実現した場合の、地域の将来医療・介護負担（財政負担や医療・介護人材の必要数）や経済波及効果などを、シナリオ①～③までの3パターンをシミュレーションした。

1) 三浦市の医療・介護費負担

- 政策効果計算期間（50年間）の健康状態別（健常、要支援・介護度、死亡）の移住者数の推移をシミュレーションで算定した。
- その上で、毎年、三浦市が負担する医療費及び介護費（下記3項目）を算定し、50年間の累計額を算定した。
 - ①75歳未満の移住者に係る医療費（入院、入院外、歯科および薬剤。食事・療養費は含まない。以下同様）（市町村国保における医療費のうち三浦市負担分）
 - ②75歳以上の移住者に係る医療費（後期高齢者医療広域連合における医療費のうち三浦市負担分）
 - ③移住者に係る介護費のうち三浦市負担分

2) 経済波及効果

- 政策効果計算期間（50年間）の移住者数の推移をシミュレーションで算定した。1人当たり年間消費可能額を、240万円と設定した。
- その上で、毎年、移住者の消費（①物品・サービスの消費、②医療サービスの消費、③介護サービスの消費）がもたらす経済波及効果を算定し、50年間の累計額を算定した。
- 経済波及効果には、直接効果、一次間接波及効果、二次間接波及効果が含まれる。
 - 新たに発生した消費（移住者の消費）により、その需要を満たすため誘発された生産活動による生産額のうち、三浦市内の産業部門に誘発された生産額（直接効果）
 - 直接効果（三浦市内の産業部門に誘発された生産）にともなう原材料等の購入により誘発された生産額（一次間接波及効果）
 - 直接効果及び一次間接波及効果が、雇用者の所得増をもたらし、その雇用者は所得の一定割合を消費する。この消費により誘発された生産額（二次間接波及効果）
- なお、本シミュレーションには、住宅及び施設等の建設投資がもたらす経済波及効果は含まない。

3) 社会保険料収入及び市民税収入

- 政策効果計算期間（50年間）の年齢別（64歳以下、65歳～74歳、75歳以上）の移住者数の推移をシミュレーションで算定した。
- その上で、移住者1人当たりの年間消費可能額が240万円になるように、移住者が支払う国民健康保険税（医療保険分、後期高齢者支援金分、介護納付金分）、介護保険料、後期高齢者医療制度保険料及び市民税を算定した。
- 移住者が支払うこれらの費用のうち、三浦市に支払われる、国民健康保険税、介護保険料及び市民税について、50年間の累計額を算定した。

図表 9-6 移住者 1 人が三浦市に支払う社会保険料及び市民税（1 年間当たり）

移住者の年齢層	国民健康保険税	介護保険料	市民税	合計
64 歳以下	313,641 円	—	135,851 円	449,492 円
65 歳～74 歳	260,455 円	106,310 円	135,851 円	502,616 円
75 歳以上	—	106,310 円	135,851 円	242,161 円

9.2.2 シミュレーション結果

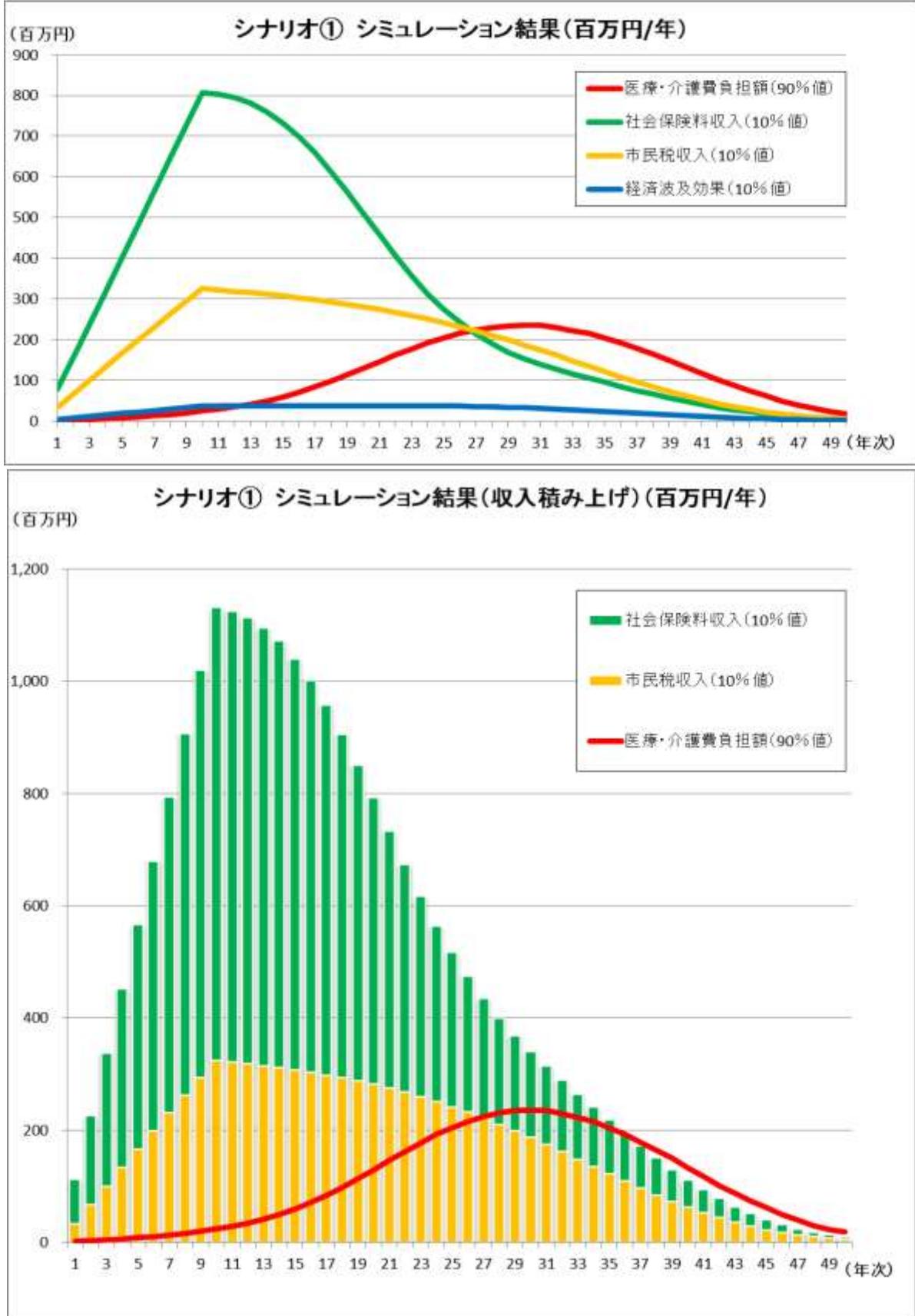
- 要介護 3 以上の割合のピーク（90%値）は、どのシナリオでも 30 年前後に訪れ、シナリオ①で 310 人（平均移住者数の 12%）、シナリオ②で 166 人（平均移住者数の 13%）、シナリオ③で 69 人（平均移住者数の 14%）となる。
 ▶ 最も多いシナリオ③でも、ピークとなる 28~30 年目でも 14%であり、三浦市に移住してきたアクティブシニアの多くが早期に要介護状態になるとは言えない。
- 介護人材必要人員数は、どのシナリオでも平均移住者数の 6~7%程度となる。
- 経済波及効果は、シナリオ①で 12.4 億円、シナリオ②で 6.2 億円、シナリオ③で 2.4 億円にのぼる。
- 三浦市の医療・介護費負担累積額は、シナリオ①で 52.7 億円、シナリオ②で 26.8 億円、シナリオ③で 10.8 億円である。一方、社会保険料収入+市民税収入累積額は、シナリオ①で 239.7 億円、シナリオ②で 119.3 億円、シナリオ③で 47.1 億円となり、いずれのシナリオでも、移住者にかかる市の医療・介護費負担は、移住者が市に支払う社会保険料収入及び市民税収入により賄うことができる。
- なお、単年度あたりの三浦市の医療・介護費負担額の 50 年間の金額推移は、当初、社会保険料収入+市民税収入を下回っているものの、32 年～37 年後には医療・介護費用が社会保険料・市民税収入を上回ることが想定されるが、それまでに累積してきた社会保険料・市民税収入で十分にカバーできるものと考えられる。
- また、医療・介護費にかかる将来の本市の負担増に備えて、健康寿命を延伸していくための取り組みが求められる。

図表 9-7 シナリオ 3 パターンのシミュレーション結果（50 年間の累積額）

	シナリオ① 最大開発規模	シナリオ② 最大開発規模 の半分	シナリオ③ 人口ビジョン 準拠
平均移住者数のピーク(のべ)	2,424(2,500)	1,237(1,250)	498(500)
要介護 3 以上のピーク (90%値)	310人 [12%] (32年目)	166人 [13%] (30年目)	69人 [14%] (28-30年目)
三浦市の医療・介護費負担 累積額(50年間) (90%値)	52.7億円 (ピーク：30年目)	26.8億円 (ピーク：27年目)	10.8億円 (ピーク：28年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値)	152人 (31年目)	81人 (28-29年目)	34人 (28、30年目)
経済波及効果累積額(50年間) (10%値)	12.4億円 (ピーク19年目)	6.2億円 (ピーク17年目)	2.4億円 (ピーク5年目)
社会保険料収入+市民税収入 累積額 (50年間) (10%値)	239.7億 (ピーク10年目)	119.3億円 (ピーク5、9年目)	47.1億円 (ピーク5、9年目)

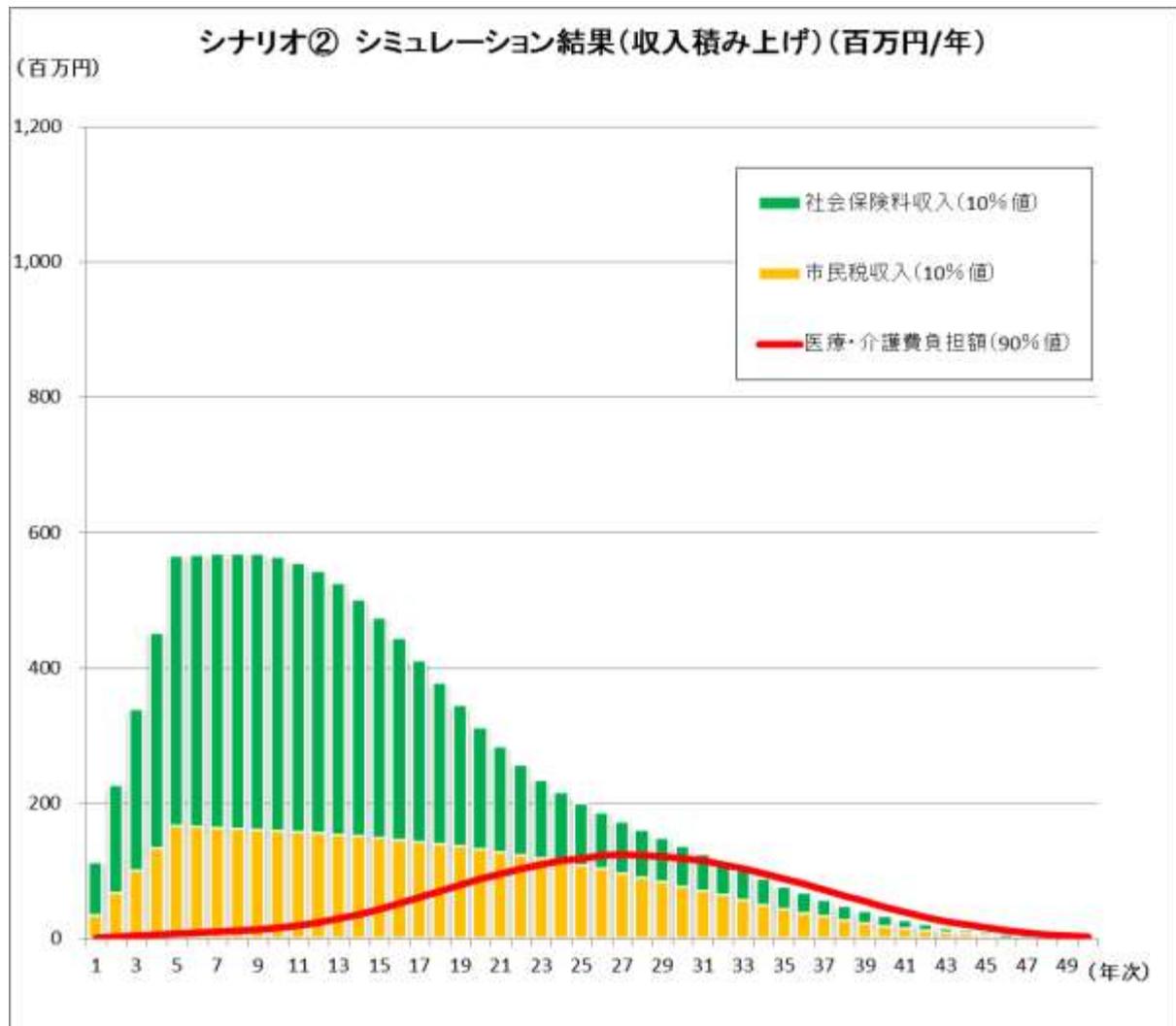
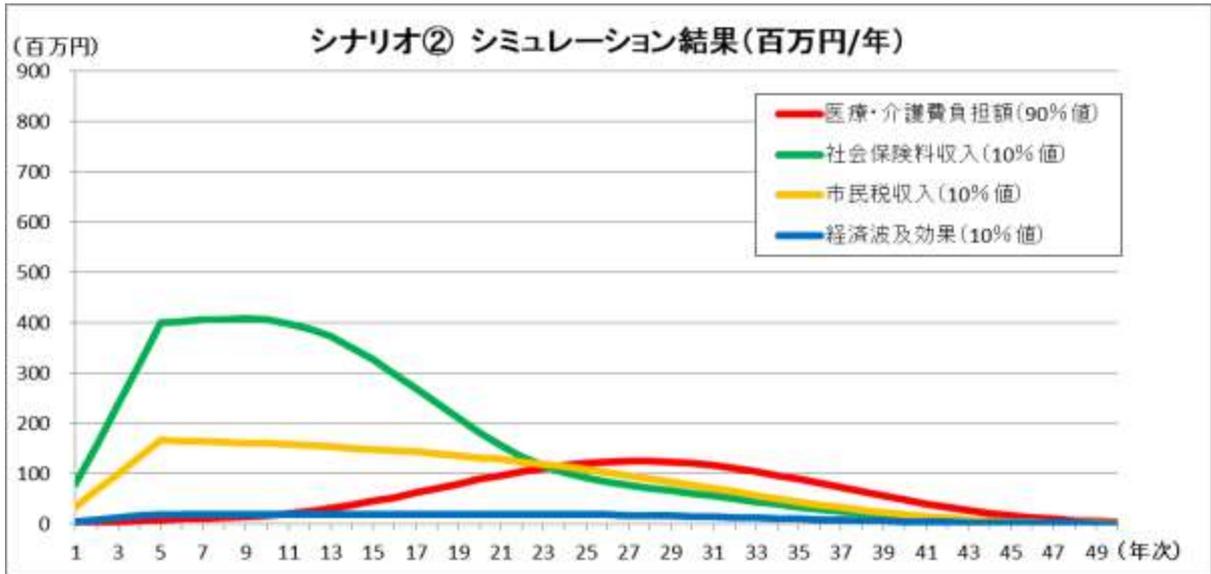
注) 90%値：100 回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10 番目に大きい値
 10%値：100 回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10 番目に小さい値

図表 9-8 シナリオ①のシミュレーション結果 (50年間の金額推移)



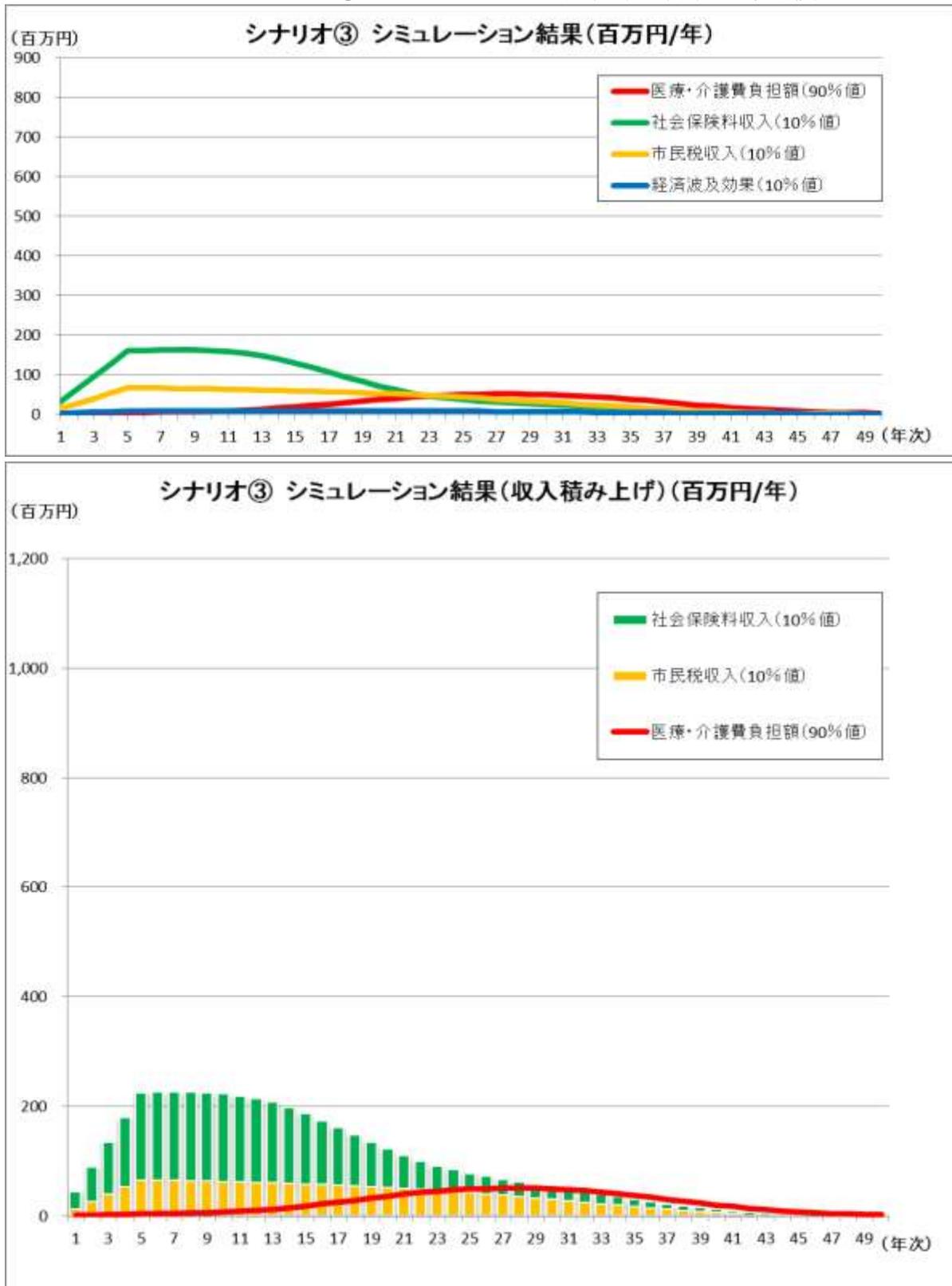
注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値
10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

図表 9-9 シナリオ②のシミュレーション結果 (50年間の金額推移)



注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値
 10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

図表 9-10 シナリオ③のシミュレーション結果 (50年間の金額推移)



注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値
10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

10. 協議会の設置及び運営支援

10.1 協議会の開催内容

各協議会での議題及び協議会委員は以下のとおりとした。協議会の設置目的は、三浦版 CCRC 構想をオーソライズする機関では無く、CCRC 展開モデルの内容に対して参考意見を伺うことを目的とした機関として位置づけ、協議会には座長は設置せず、事務局主導型により運営した。

図表 10-1 協議会の開催内容

回	開催日程	開催内容
第1回	平成28年 3月4日	協議会の設置目的 話題提供：ピンチをチャンスに変える地方創生 ～生涯活躍のまち構想について～ 三浦市における CCRC 導入の方向性（案）
第2回	平成28年 3月29日	三浦版 CCRC 構想（案）について 三浦版 CCRC PR 動画のご紹介

図表 10-2 協議会委員の構成

職種／業種	役割
有識者	CCRC に関する専門的知見の提供
地元医療機関	CCRC との連携可能性・地元資源に関する知見
地元社会福祉関係	CCRC との連携可能性・地元資源に関する知見
地元商工関係	CCRC との連携可能性・地元資源に関する知見
地元金融関係	CCRC との連携可能性・地元資源に関する知見
地元有力事業者	CCRC 運営の担い手や投資家
CCRC 先行事業者	CCRC 運営事業者からの要望確認
本市職員	三浦版 CCRC 構想の検討主体

10.2 協議会での主な指摘事項

10.2.1 第1回協議会

◆三浦の特徴・魅力

【長所】

- ・三浦市の魅力は、首都圏に近接している立地。
- ・鎌倉時代～江戸時代に地域が輝く時代があった。歴史遺産も市内に残っている。
- ・気候が温暖。
- ・市立病院では、この10年間、市民の健康データを蓄積することに取り組んできた。
- ・専業農家は耕作を放棄していない。
- ・3つの海に囲まれた釣り人天国も地域の魅力。
- ・犯罪発生率が比較的低い。

【短所】

- ・商店、漁業、農業、いずれも担い手の高齢化によって事業を放棄する事業主がみられるようになってきている。
- ・お稽古ごと等「学び（文化面での活動）」を手軽に実践できる環境に乏しい。
- ・主要な産業は観光。シーズンのオン／オフ、平日休日で雇用ニーズが大きく変動する。
- ・三浦市内に空き店舗が多い。稲毛と同様の活用方法が可能だろうか。空き店舗を活用してプロモーション効果は大きかったが経費面でのメリットは薄かった。

◆CCRCの実現に向けて

- ・事業者と行政が密着して高齢者の将来への不安を解消することにより、魅力的な街を作ることができる。
- ・第2の人生をゆったり過ごすというCCRCの暮らし方が日本人の高齢者に好まれるのか疑問。むしろ老後も体力相応の仕事続けることで人生を楽しめるのではないか。
- ・アクティブシニアには、アドバイザーなどの「プチ就労」は重要。
- ・高齢者の将来への不安はお金の面も重要。
- ・CCRCでは、地元のハローワークやシルバー人材センターに相談して「プチ就労」ニーズに対応している。地元の事業者が「プチ就労」を求める高齢者を受け入れてくれれば良いと思う。
- ・大きく変動する雇用ニーズを高齢者のフレキシブルな就労で対応してもらえらるならニーズが高いのではないか。
- ・農業・漁業など「体力が必要な仕事」に高齢者が従事して成功するために、例えば、体力の不足はロボットスーツで補う、といった先端技術との融合を考えていくべきであろう。
- ・神奈川県立保健福祉大学との連携が活用できる。
- ・公有資産を活用して事業費を抑える方法があればよい。
- ・観光で来ている人に、気軽に三浦市での生活をトライアルしてもらえばよい。
- ・日本の中で目立つPRが必要。

10.2.2 第2回協議会

◆三浦版 CCRC 構想（案）について

【三浦版 CCRC の事業展開モデル】

- ・身体が衰えたときも首都圏からそう遠くないという立地は長所。そこに他地域と違う魅力が示せれば良い。県立保健福祉大学やリビングラボラトリーと連携した健康づくりを CCRC と連携すると個性になるのではないか。
- ・利用者ニーズを地域住民からも収集すべき。施設型モデルでは、施設の中に地域住民が自由に入出りできる仕組みが必要。エリア型では、移住者が地域をきめ細かく理解できる活動を計画的に展開する組織の整備が必要。
- ・ターゲットがアクティブシニアであることをより鮮明に打ち出すべき。アクティブシニアへの期待は、既存の産業の働き手ではなく、課題とされる分野への新規参加（教育、小規模漁業の支援、等）施設型モデルが有力であり、地域との融合は難しくないと予想している。
- ・CCRC の転入者については、地域住民と交流できる方を選別する仕組みを考えても良いのではないか。
- ・CCRC は女性の就業機会を創出する。交流の難しさは、性質の違い（サラリーマンと、自営業者、等）が一因なので、そこに留意した交流機会の創出が大切である。
- ・主要産業が 1 次産業の三浦市では、未経験者でも参加する余地があると思う。ただ、就労意識が良く見えないのでどれだけ期待できるかもわからない。
- ・地域に働き口は余っていない。自らやりたい仕事を起業するイメージだと考える。

【地域住民との交流について】

- ・入居者が健常者中心の既存の老人ホームをみると、地域との交流もある程度うまくできている。ただ、新興住宅地を含む地区で、個人レベルの交流はうまくできても、町会活動などでの既存住民との意識合せがスムーズとは言い難く、町会が細分化されているケースがある。だが、交流するための努力が継続しているので将来の改善に期待している。
- ・なかには、既存住民との交流を頑なに拒否する人もいるのは事実。

【その他】

- ・観光産業に役立つ機会を設ける等を構想に盛り込んでほしい。
- ・高齢化・人口減少の課題は、学校を出た若者が就職口を求めて都心方面に転出することが課題。
- ・経済波及効果シミュレーションについては、事業者の肌感覚に合った数字であったほうが良い。

◆CCRC の PR 動画について

- ・CCRC の具体的な内容が示されたほうが良い。
- ・地域として移住して欲しい入居者像を明確にして、その方々に集中して PR すべき。
- ・移住・入居を決心し行動に移すのは社交的な方々がほとんど。受入側は、その思いを活気づければよいと思う。
- ・お試し居住参加者、ふるさと納税者の属性を分析し、ターゲットとすべき。
- ・対象として、「三浦市を本宅、都心は仮住まい」という暮らし方も想定してはどうか。

11. 構想実現に向けたスケジュール及び課題の整理、課題解決の検討

11.1 構想実現に向けたスケジュール

三浦版 CCRC 構想の実現に向けた取組として、今後、本市としては、庁内検討組織の設置、事業主体発掘、事業主体の誘致に向けた環境整備を行っていくことが求められる。

また、事業主体の候補となる事業者は、地域や移住希望者のニーズを踏まえ、本市の特性に応じた具体的なサービス内容を含んだ事業計画を策定していくことになる。

図表 11-1 今後のスケジュール



11.2 三浦版 CCRC 構想の実現性を担保する方策

三浦版 CCRC 構想の実現性を担保するためには、CCRC 事業者の誘致に向けた環境整備に加えて、首都圏のアクティブシニア層が、本市に移住したいと思う仕掛けを取り入れていくことが重要である。そのため、三浦に居住する価値を向上させるための取り組みとして、首都圏との2地域居住を実現しやすい立地環境、健康的な食生活、アクティブシニア自身の楽しみなど、三浦版 CCRC に移住することのメリットを適切にアナウンスしていくことで、移住者を呼び寄せる方策を取り入れることが重要である。

今後、三浦版 CCRC 構想の実現に向けて、検討すべき方策について、以下に整理した。

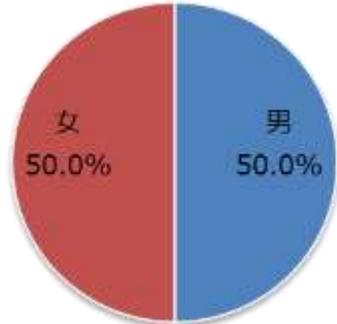
図表 11-2 三浦版 CCRC 構想の実現に向け検討すべき方策

項目	検討すべき方策
首都圏アクティブシニアへの訴求	<ul style="list-style-type: none"> ●三浦版 CCRC を PR する資料の活用 三浦版 CCRC の特徴や三浦市に居住することの魅力などを伝える動画や、三浦版 CCRC 構想の概要を示したリーフレット、本報告書に記載されている各種資料などを活用して、移住候補者や事業者候補者に対して PR 活動を推進していくことが考えられる。 ●三浦サポーターズクラブ（仮称）の組織化 三浦市に何度も足を運んでいる首都圏のコアなファン層を組織化することで、さらに首都圏高齢層に対して連鎖的に三浦市のファンになって頂く。丸の内プラチナ大学（事務局：三菱総合研究所／エコツェリア協会（三菱地所））における地方創生講座などの活用も考えられる。 ●三浦版 CCRC に関連するシンポジウムの開催 三浦版 CCRC 構想に関する取組みを全国的に PR することで、CCRC 事業主体の候補企業や、移住候補者を対象として、三浦版 CCRC に対する関心を高めていく。三浦半島魅力最大化プロジェクトに取り組む神奈川県を巻き込むことも考えられる。CCRC 先進事業者が登壇することでより具体的に CCRC の特徴を打ち出して行くことも考えられる。 ●トライアルステイの実施 三浦市内の施設を活用して短期間でのトライアルステイを実施し、三浦市の魅力を味わい健康になって帰って頂くことで、将来の移住候補者の掘り起しを行う。
国内の先進事例となる取組の具体化	<ul style="list-style-type: none"> ●健康寿命延伸に向けた仕組みの構築 予防医療を推進するための基盤となる健診データや受診データの一元化を推進し、CCRC 事業主体、県立保健福祉大学、市立病院、介護機関等が連携して健康寿命を延伸していく仕組みを構築する。例えば、CCRC 移住者の健康データ管理と健康プログラムを実証実験として試行することも想定される。 ●アクティブシニアが活躍できる場との連携強化 今後の検討にあたっては、首都圏から移住するアクティブシニアに活躍の場を提供する事業者との連携が求められる。地元の協力事業者の掘り起しや、これらの協力事業者との連携をさらに強化するとともに、移住者に対して提供するサービスプログラムについて、具体化を図っていくことが必要である。

12.1.2 回答者の属性

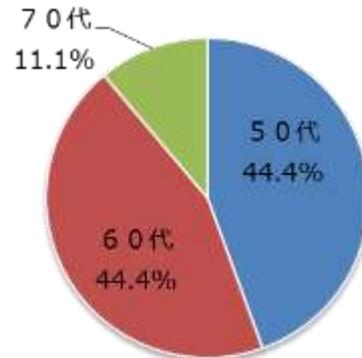
問1 性別 (単回答)	問2 年齢 (単回答)
-------------	-------------

図表 12-1 性別



(アンケート総回答者 1,800 名)

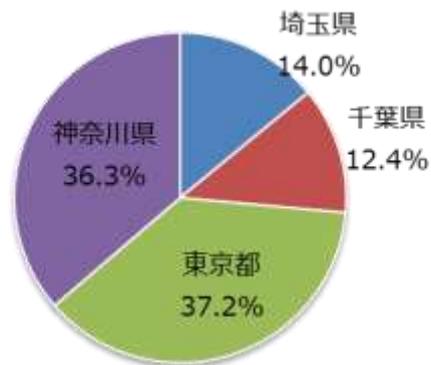
図表 12-2 年齢



(アンケート総回答者 1,800 名)

問3 現在の居住地 (単回答)

図表 12-3 現在の居住地



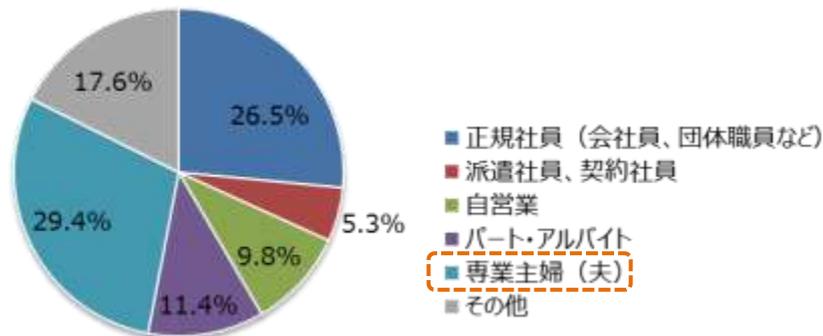
(アンケート総回答者 1,800 名)

問4 あなたの現在のおつとめ等の状況について教えてください。

おつとめ先などが複数ある場合は、主たるものを選んでください。(単回答)

- 現在の職業を見ると、**専業主婦(夫)が最も多く**、29.4%となっている。
- 正規社員(会社員、団体職員など)、派遣社員・契約社員、自営業、パート・アルバイトを合わせると、**回答者の53%が現在仕事に就いている**。

図表 12-4 現在の職業

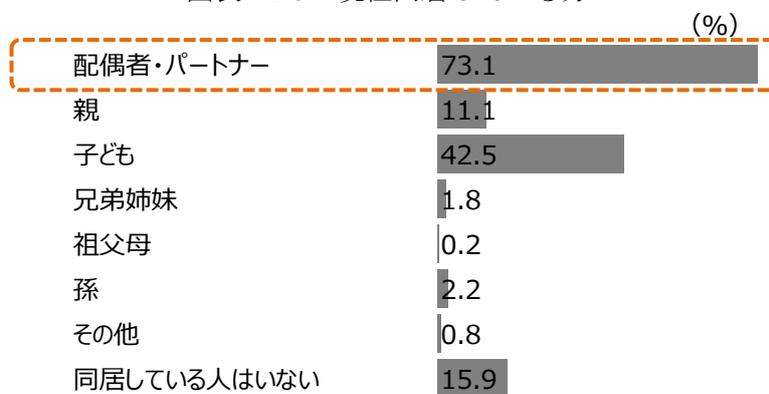


(アンケート総回答者 1,800 名)

問5 現在、同居している方を教えてください。(複数回答)

- 現在同居している方を見ると、配偶者・パートナーと同居している方が最も多く、回答者の73.1%を占めた。同居している人はいないという回答は15.9%であった。

図表 12-5 現在同居している方

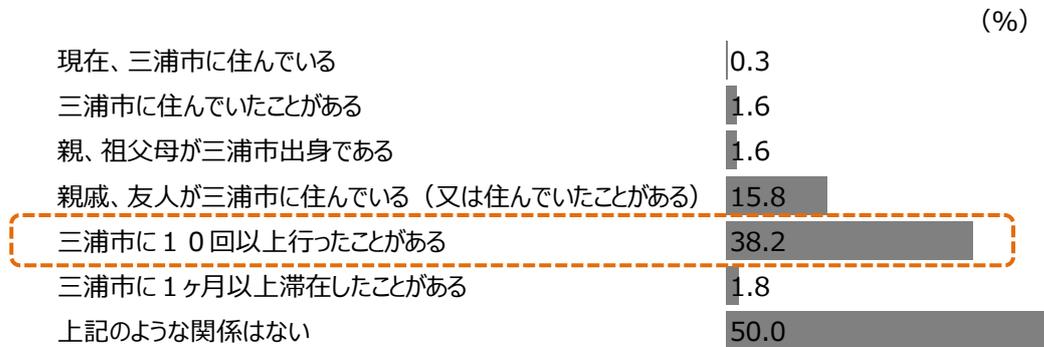


(アンケート総回答者 1,800 名)

問6 あなたと三浦市との関係について教えてください。当てはまるものをすべて選んで下さい。
(複数回答)

- 割付条件により三浦市に何らかのゆかりのある回答者(=「上記のような関係はない」以外の回答者)が半数となっているが、中でも「三浦市に10回以上行ったことがある」の回答者が38.2%と最も多い。

図表 12-6 三浦市との関係

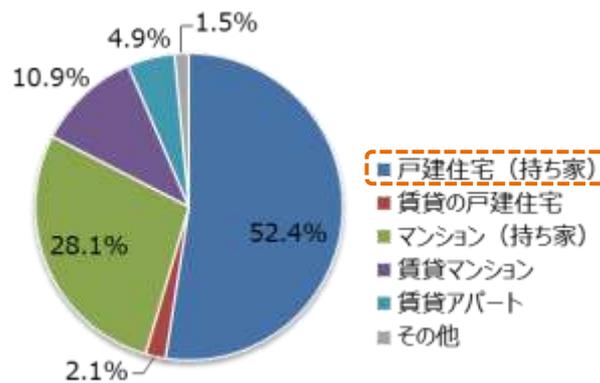


(アンケート総回答者 1,800 名)

問7 あなたご自身の現在のお住まいについて教えてください。当てはまるものを一つ選んで下さい。

- 現在の住まいを見ると、「戸建住宅(持ち家)」の回答が52.4%で最も多い。

図表 12-7 現在の住まい



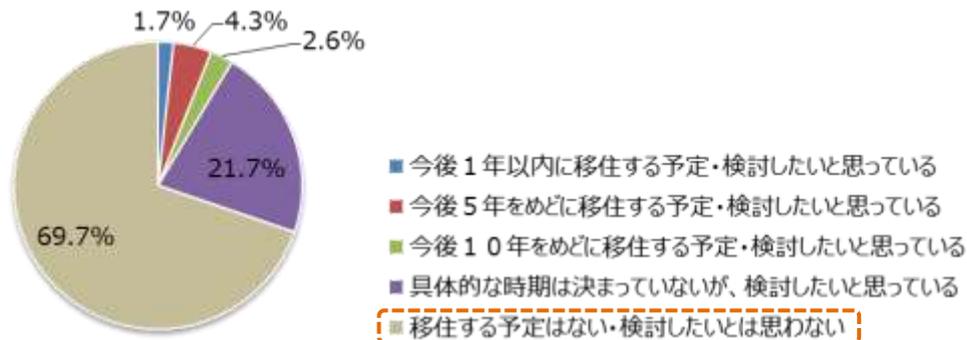
(アンケート総回答者 1,800 名)

12.1.3 移住可能性について

問8 (問6で「現在、三浦市に住んでいる」と回答した方以外に対して) 移住に関する希望について教えてください。当てはまるものを一つ選んで下さい。

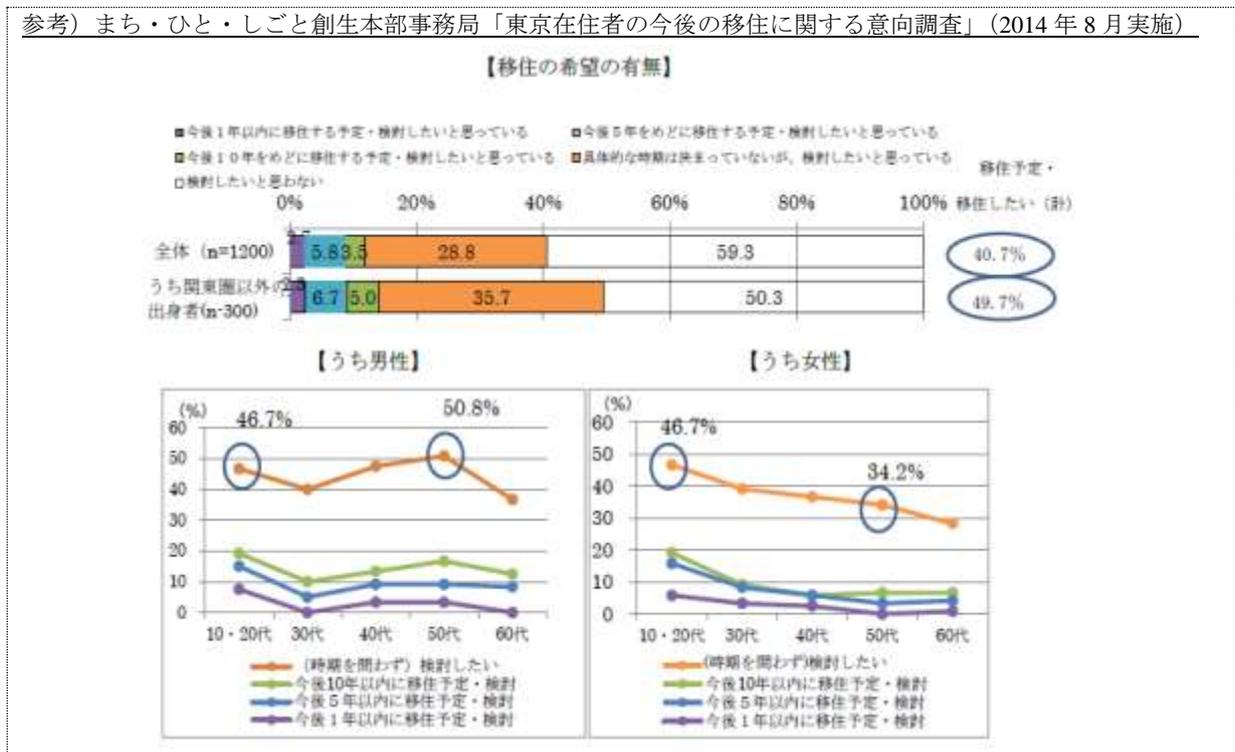
- 対象地や移住する時期を問わず、地方に移住を予定・検討したいと思っている回答者は30.3%に上る。
- 移住を予定・検討している3割ほどの中でも、「具体的な時期は決まっていない」と回答する人が21.7%と多数を占めており、具体的に移住を検討している人は少ない様子が伺える。
- これらの傾向は、2014年6月に実施された「東京在住者の今後の移住に関する意向調査(まち・ひと・しごと創生本部事務局)」のアンケート結果の傾向とほぼ一致する。
 - 東京在住者の約4割が地方への移住を予定・検討したいと回答している。
 - また、地方への移住を予定・検討したいと回答している中でも、半数以上が「具体的な時期は決まっていない」と回答する割合が最も高い。

図表 12-8 移住に関する希望



(三浦市外在住の回答者 1,794 名)

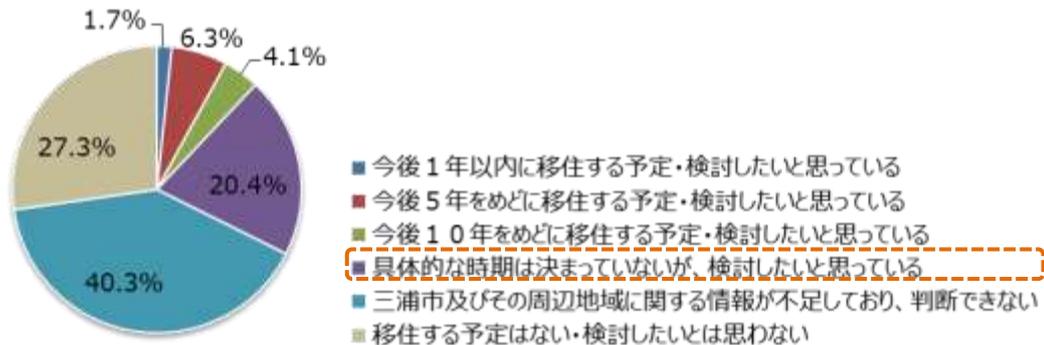
参考) まち・ひと・しごと創生本部事務局「東京在住者の今後の移住に関する意向調査」(2014年8月実施)



問9 (問8で移住を予定・検討したいと回答した方に対して)東京都心から電車で1時間半程度の三浦市周辺地域に対して、移住に関する希望について教えてください。当てはまるものを一つ選んで下さい。

- 地方への移住希望を持つ回答者543名に対し、特に三浦市への移住に関する希望を聞くと、**三浦市への移住を予定・検討したいと思っている回答者が32.4%**を占めている。
- 一方で、「**情報が不足しており判断できない**」と**40.3%**が回答しており、**積極的な情報提供によって移住希望を高めていく必要がある。**

図表 12-9 三浦市への移住に関する希望

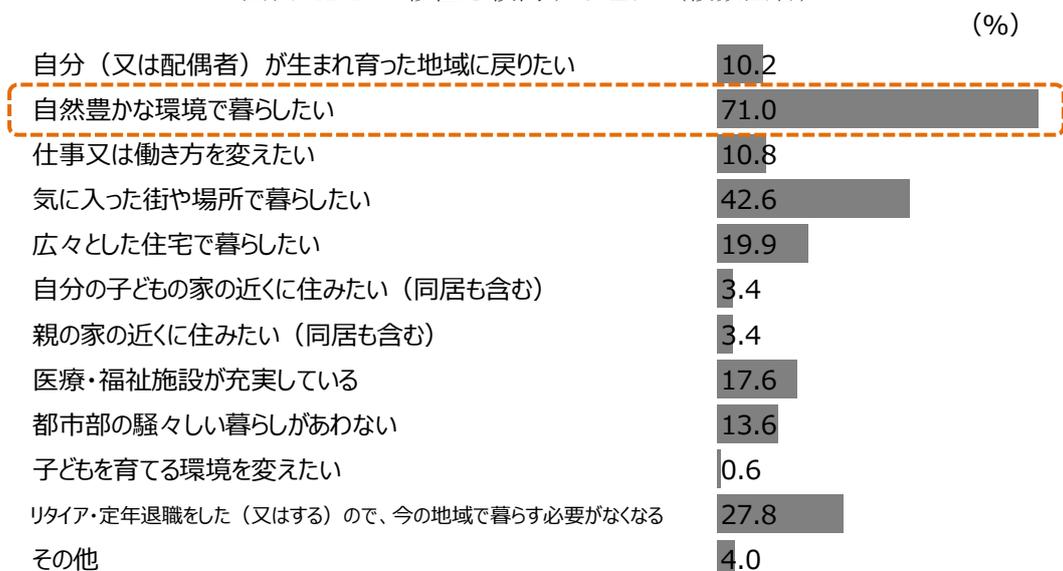


(地方への移住を希望する回答者 543 名)

問10 (問9で三浦市への移住を予定・検討したいと回答した方に対して) 移住を予定・検討したいと思う理由について教えてください。当てはまるものをすべて選んで下さい。その他の場合は、具体的な内容について記載ください。

- 三浦市への移住を検討する理由としては、「**自然豊かな環境で暮らしたい**」という回答が**71.0%**と**最も高い**。次いで、「気に入った町や場所で暮らしたい」が42.6%、「今の地域で暮らす必要がなくなる」が27.8%であった。

図表 12-10 移住を検討する理由 (複数回答)



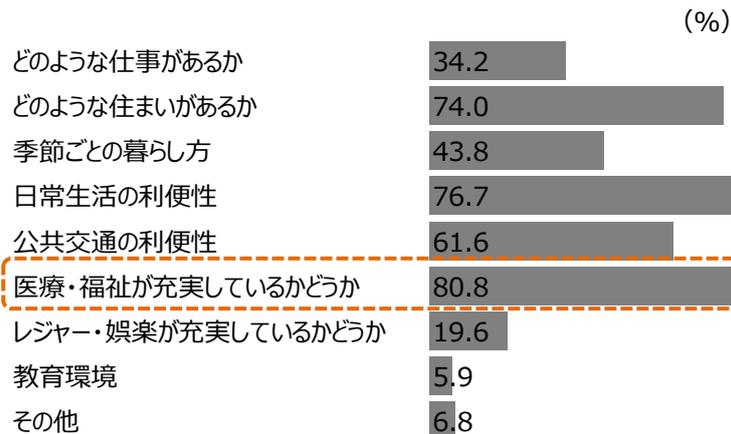
(三浦市への移住を希望する回答者 176 名)

問 11 問 9 で「三浦市周辺に対して情報が不足しており、判断できない。」とお答えした方にお尋ねします。

どのような情報があれば、都心から電車で 1 時間半程度の三浦市周辺地域に対して、移住を判断できそうですか。当てはまるものをすべて選んで下さい。その他の場合は、具体的な内容について記載ください。

- 移住の判断に必要な情報を見てみると、「医療・福祉が充実しているか」についての情報を取得したいと考える回答者が最も多く、80.8%が回答している。次いで、「日常生活の利便性」が76.7%、「どのような住まいがあるか」が74.0%と、回答した回答者の割合が高い。

図表 12-11 移住の判断に必要な情報（複数回答）



（三浦市周辺の情報が不足しているとした回答者 219 名）

問 12 （問 9 で三浦市への移住の予定はない・検討したいとは思わないと回答した方に対して）都心から電車で 1 時間半程度の三浦市周辺地域に対して、移住等を希望しない理由を教えてください。当てはまるものをすべて選んで下さい。その他の場合は、具体的な内容について記載ください。

- 移住を希望しない理由を見てみると、「公共交通の利便性が良くなさそう」の回答の割合が最も高く、34.5%であった。次に回答の割合が高いのは「日常生活の利便性が良くなさそう」の30.4%で、利便性に係る回答の割合が高いことがわかる。

図表 12-12 移住を希望しない理由（複数回答）

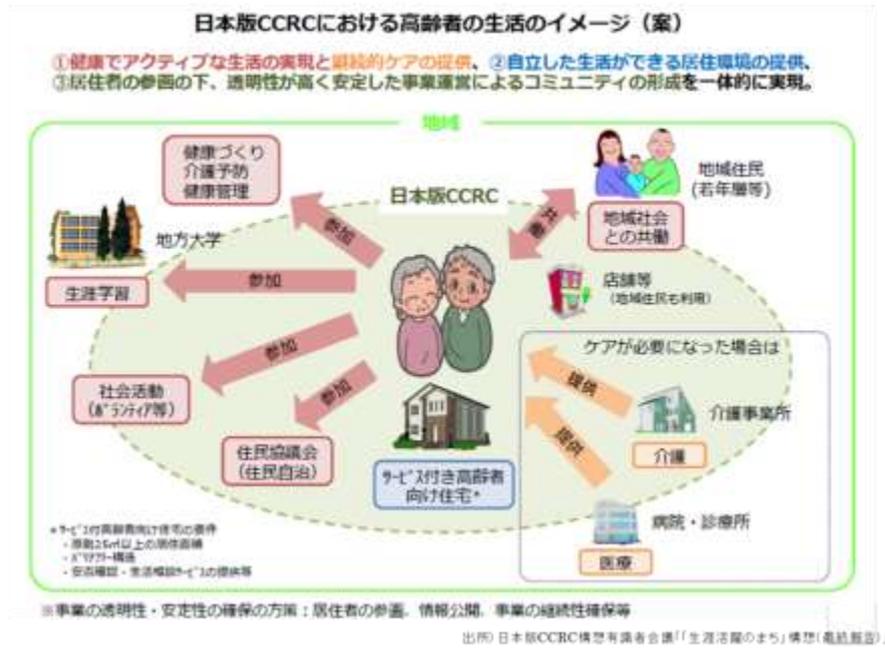


（三浦市への移住を希望しない回答者 148 名）

12.1.4 三浦版 CCRC について

問 13 もし、東京都心から電車で1時間半程度の三浦市周辺地域に、日本版 CCRC が実現した場合、あなたはどのような事項について関心を持たれますか。当てはまるものをすべて選んで下さい。

■日本版CCRCの説明



- 三浦市周辺でのCCRCが実現した場合に関心を持つこととしては、「高齢者が安心して暮らせること」の回答率が**55.5%**で、回答者の多くが関心を寄せているとわかる。
- 「子育て支援機能が充実していること」(**1.8%**)、「高齢世代と現役世代の家族が、同居あるいは近居できること」(**10.1%**)といった要素はあまり重視されていない。
- CCRCによる移住を考える人は、高齢者にとって住みやすい環境を望み、子供や孫の世話や子供家族との同居といった要素は重要視していない。

図表 12-13 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと (%)

医療、介護、介護予防・健康作り等のサポートのもと、高齢者が安心して暮らせること	55.5
仕事、ボランティア、生涯学習など、世代を問わず、多様な社会参加の機会が設けられていること	26.3
高齢者だけでなく、子どもやファミリー層など他世代が交流する機会、環境があること	19.9
居住者を中心としたコミュニティづくりの仕組みがあること	13.6
高齢世代と現役世代の家族が、同居あるいは近居できること	10.1
託児施設や遊び場など、子育て支援機能が充実していること	1.8
都心の近郊に位置することで、交通アクセスの利便性がよいこと	30.0
都心の近郊に位置することで、都心部の様々な施設にも訪れやすいこと	15.6
その他	1.3
日本版 CCRC というものに、関心は持てない	24.3
三浦市周辺地域以外であれば、日本版 CCRC に関心を持つ	4.1

(アンケート総回答者 1,800 名)

【男女別】

図表 12-14 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと（男女別）

	【男性】 (n=900)	【女性】 (n=900)
医療、介護、介護予防・健康作り等のサポートのもと、高齢者が安心して暮らせること	55.1	55.9
仕事、ボランティア、生涯学習など、世代を問わず、多様な社会参加の機会が設けられていること	26.7	25.9
高齢者だけではなく、子どもやファミリー層など他世代が交流する機会、環境があること	19.9	19.9
居住者を中心としたコミュニティづくりの仕組みがあること	14.9	12.3
高齢世代と現役世代の家族が、同居あるいは近居できること	10.3	9.8
託児施設や遊び場など、子育て支援機能が充実していること	1.7	2.0
都心の近郊に位置することで、交通アクセスの利便性がよいこと	25.7	34.3
都心の近郊に位置することで、都心部の様々な施設にも訪れやすいこと	12.6	18.7
その他	1.1	1.6
日本版 CCRC というものに、関心は持てない	25.7	22.9
三浦市周辺地域以外であれば、日本版 CCRC に関心を持つ	5.1	3.1

- 男女ともに、「高齢者が安心して暮らせること」(男性55.1%、女性55.9%)が最も重視されている。次いで、男性においては「多様な社会参加の機会が設けられていること」(26.7%)、女性においては「交通アクセスの利便性」(34.3%)が重視されている。

【年代別】

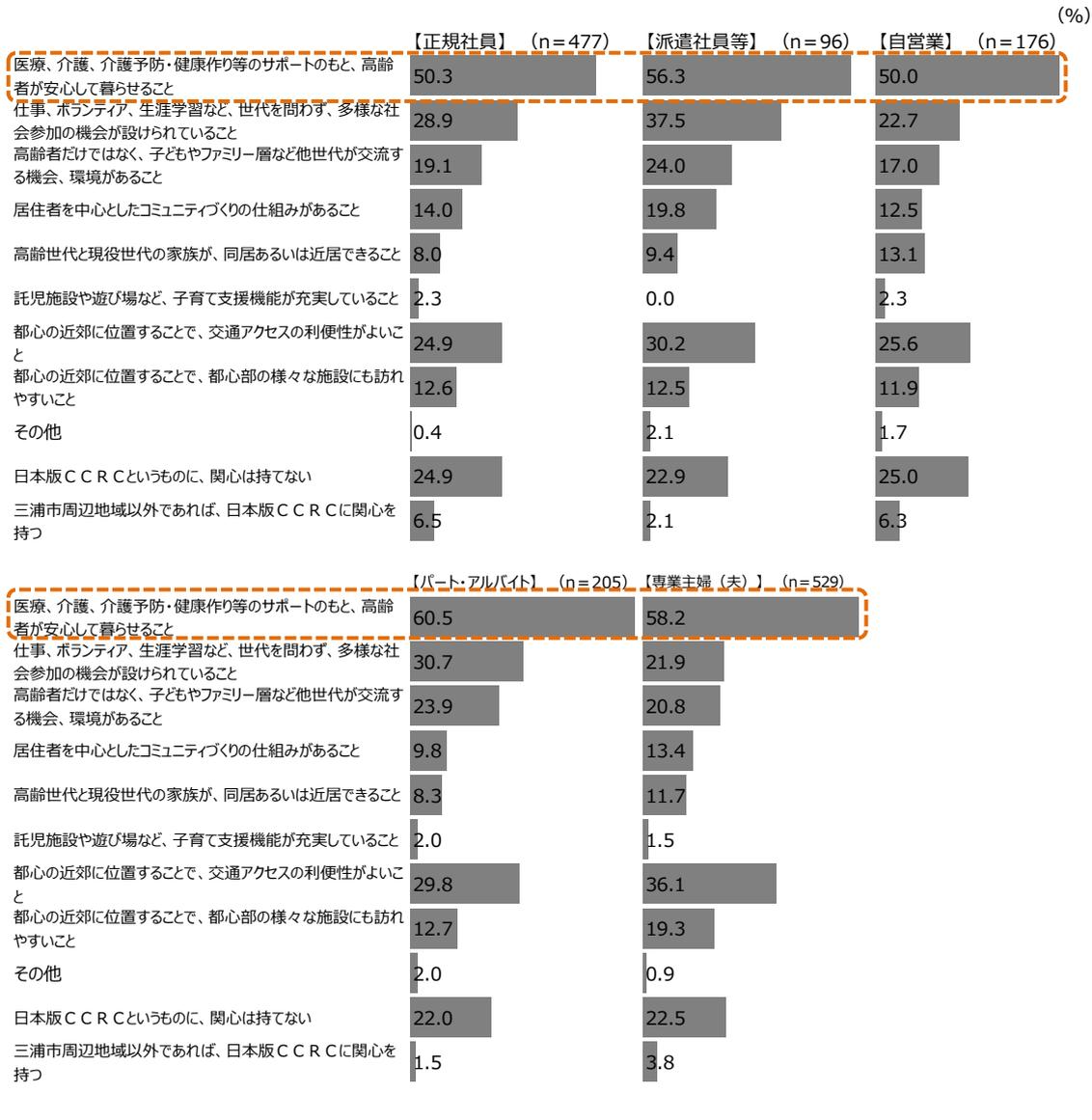
図表 12-15 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと（年代別）

	【50代】 (n=800)	【60代】 (n=800)	【70代】 (n=200)
医療、介護、介護予防・健康作り等のサポートのもと、高齢者が安心して暮らせること	52.3	57.4	61.0
仕事、ボランティア、生涯学習など、世代を問わず、多様な社会参加の機会が設けられていること	27.9	26.0	21.0
高齢者だけではなく、子どもやファミリー層など他世代が交流する機会、環境があること	17.6	19.6	30.0
居住者を中心としたコミュニティづくりの仕組みがあること	11.6	15.6	13.5
高齢世代と現役世代の家族が、同居あるいは近居できること	7.6	11.4	14.5
託児施設や遊び場など、子育て支援機能が充実していること	2.0	1.4	3.0
都心の近郊に位置することで、交通アクセスの利便性がよいこと	27.9	30.5	36.5
都心の近郊に位置することで、都心部の様々な施設にも訪れやすいこと	13.8	17.4	16.0
その他	0.6	1.6	3.0
日本版 CCRC というものに、関心は持てない	25.1	24.5	20.0
三浦市周辺地域以外であれば、日本版 CCRC に関心を持つ	5.3	3.1	3.5

- 各年代とも「高齢者が安心して暮らせること」(50代52.3%、60代57.4%、70代61.0%)が最も重視されており、次いで「交通アクセスの利便性」(40代27.9%、50代30.5%、60代36.5%)が重視されている。

【職業別】

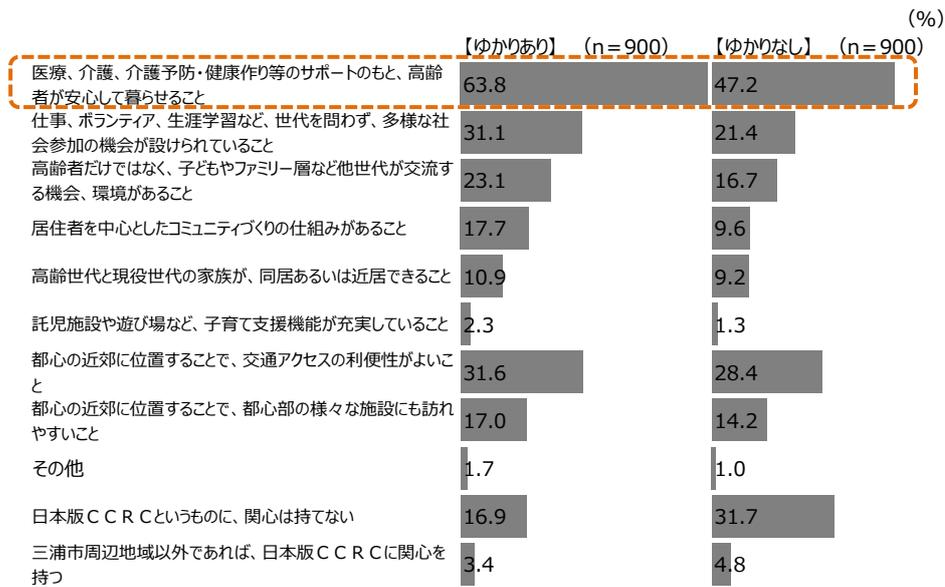
図表 12-16 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと（職業別）



- 職業に関わらず、「高齢者が安心して暮らせること」が最も重視されており、次いで「交通の利便性」や「多様な社会参加の機会が設けられていること」が重視されている。

【ゆかりの有無別】

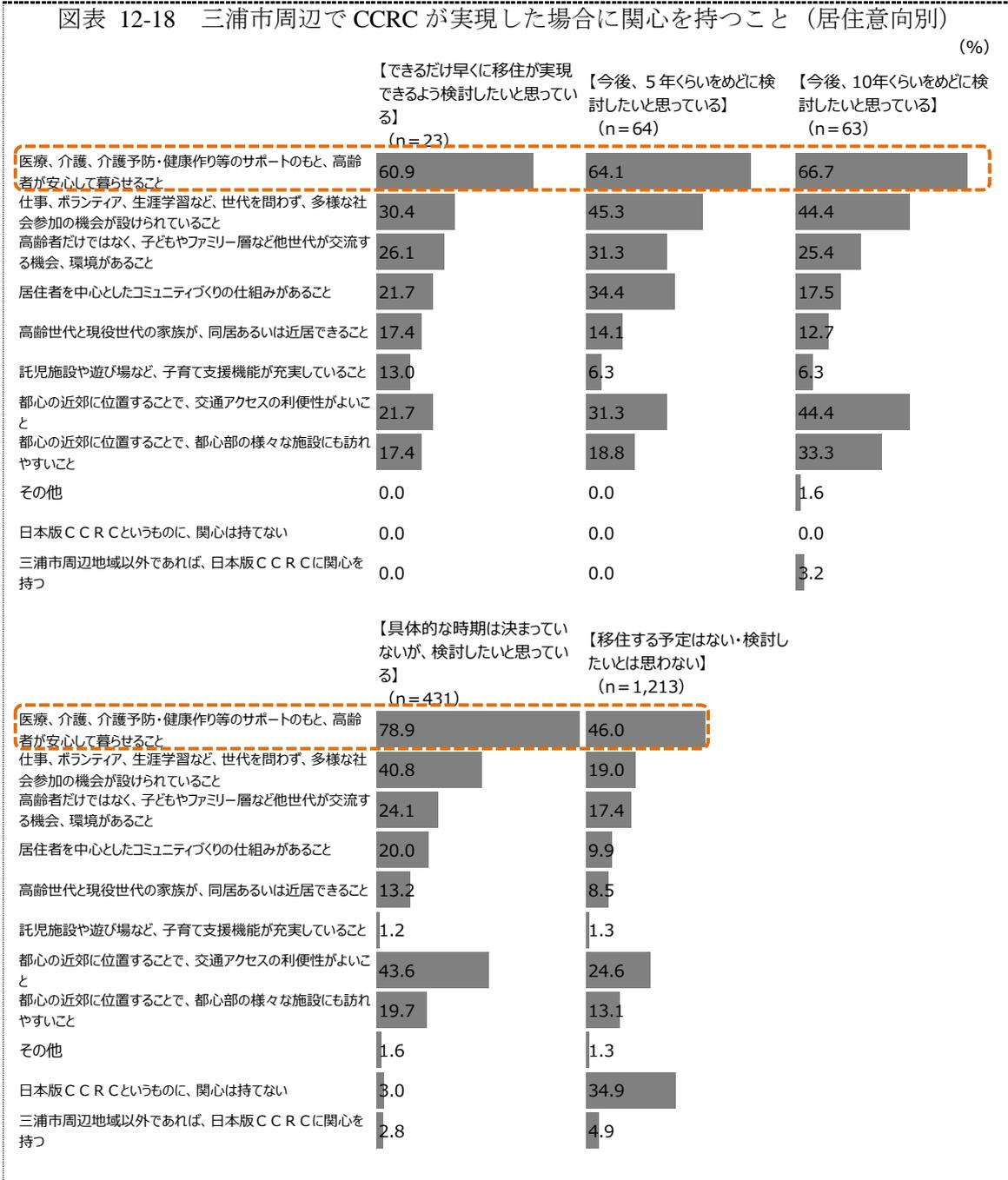
図表 12-17 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと（ゆかり有無別）



- ゆかりの有無に関わらず、「高齢者が安心して暮らせること」が最も重視されており、次いで「交通の利便性」が重視されている。
- 三浦市にゆかりのある回答者の方が、より「高齢者が安心して暮らせること」への関心が高い。

【居住意向別】

図表 12-18 三浦市周辺で CCRC が実現した場合に関心を持つこと（居住意向別）



- 地方への移住希望の有無に関わらず、「高齢者が安心して暮らせること」が最も重視されている。
- 具体的な時期が決まっていない移住希望者において「高齢者が安心して暮らせること」への関心が最も高く、CCRCの実現が移住の検討における大きな判断材料となる。

問 14 日本版 CCRC を実現する上で、望ましいと考えられる住居形態を教えてください。

■施設・住居形態のパターン



- CCRCにおける居住形態について、具体的な選択肢の中では「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答の割合が**21.0%**と最も多い。
- 「特にない」「わからない」という回答が49.5%に上っており、具体的なイメージが湧いていない回答者も多い。

図表 12-19 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態 (アンケート総回答者 1,800 名) (%)

施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する	21.0
施設・住宅を借りて「借家」とし、借家権を相続する	9.1
施設に入居する権利 (「利用権」) を購入するが、利用権は相続しない	17.6
施設・住宅を借りて「借家」とするが、借家権は相続しない	15.4
その他	0.3
望ましいと考えられる住居形態は特にない	18.8
わからない	30.7

【男女別】

図表 12-20 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（男女別）

	【男性】 (n=900)	【女性】 (n=900)
施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する	23.8	18.2
施設・住宅を借りて「借家」とし、借家権を相続する	9.7	8.4
施設に入居する権利（「利用権」）を購入するが、利用権は相続しない	19.7	15.4
施設・住宅を借りて「借家」とするが、借家権は相続しない	16.0	14.9
その他	0.3	0.2
望ましいと考えられる住居形態は特になし	17.4	20.1
わからない	27.2	34.1

- 男女とも、「わからない」「望ましいと考えられる形態はない」を除くと、「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答割合が最も高い。

【年代別】

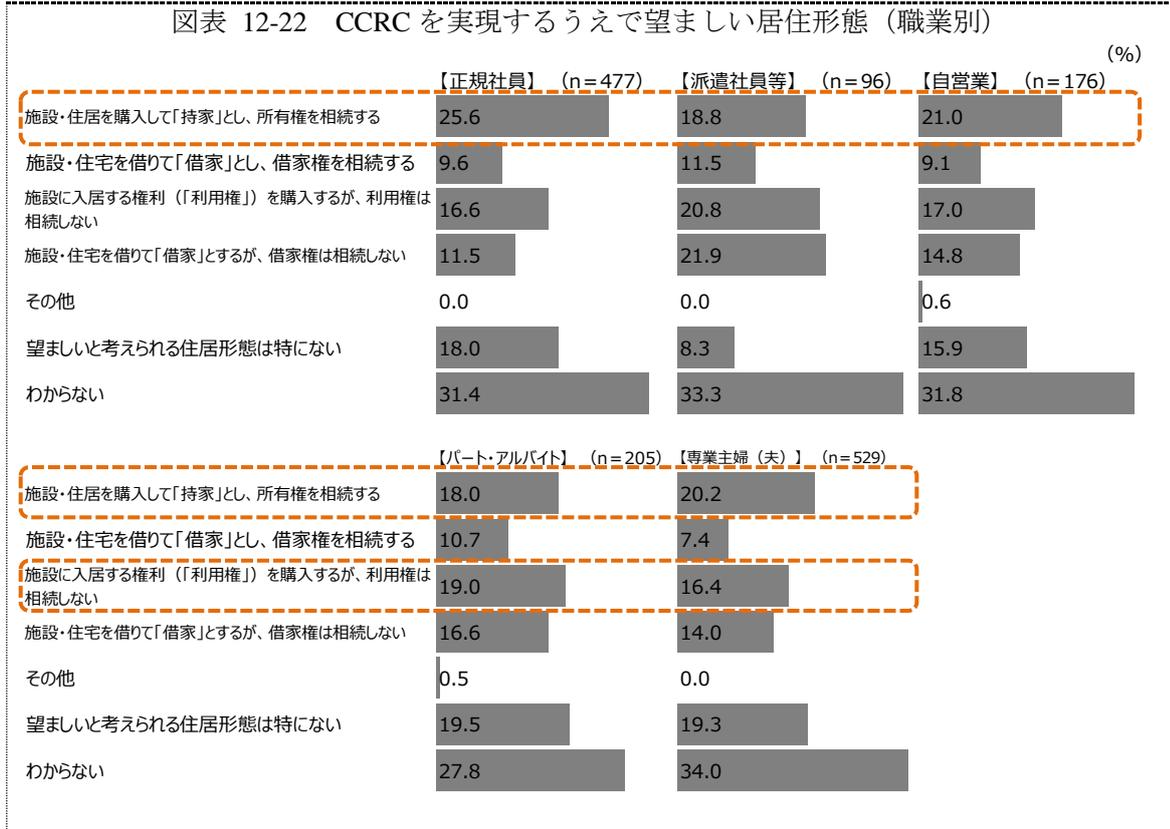
図表 12-21 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（年代別）

	【50代】 (n=800)	【60代】 (n=800)	【70代】 (n=200)
施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する	22.1	20.4	19.0
施設・住宅を借りて「借家」とし、借家権を相続する	10.4	7.5	10.0
施設に入居する権利（「利用権」）を購入するが、利用権は相続しない	16.4	18.0	20.5
施設・住宅を借りて「借家」とするが、借家権は相続しない	14.0	16.3	18.0
その他	0.3	0.1	1.0
望ましいと考えられる住居形態は特になし	17.0	19.6	22.5
わからない	34.5	29.3	21.0

- 「わからない」「望ましいと考えられる形態はない」を除くと、50代、60代においては、「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答の割合が最も高い。
- 一方、70代は「施設に入居する利用権を購入するが、利用権は相続しない」が望ましいとする回答の割合が最も高く、また、「わからない」と回答した割合が他の年代より低い。

【職業別】

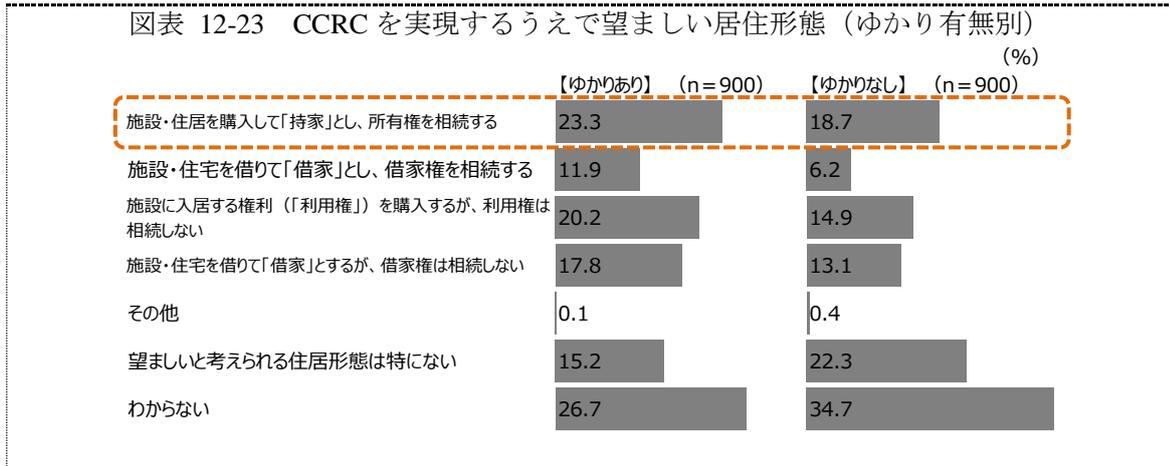
図表 12-22 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（職業別）



- 「わからない」を除くと、正規社員、自営業、専業主婦（夫）については、「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答の割合が最も高い。
- 一方で、派遣社員については、「施設・住宅を借りて「借家」とするが、借家権は相続しない」が望ましいとする回答の割合が最も高い。

【ゆかりの有無別】

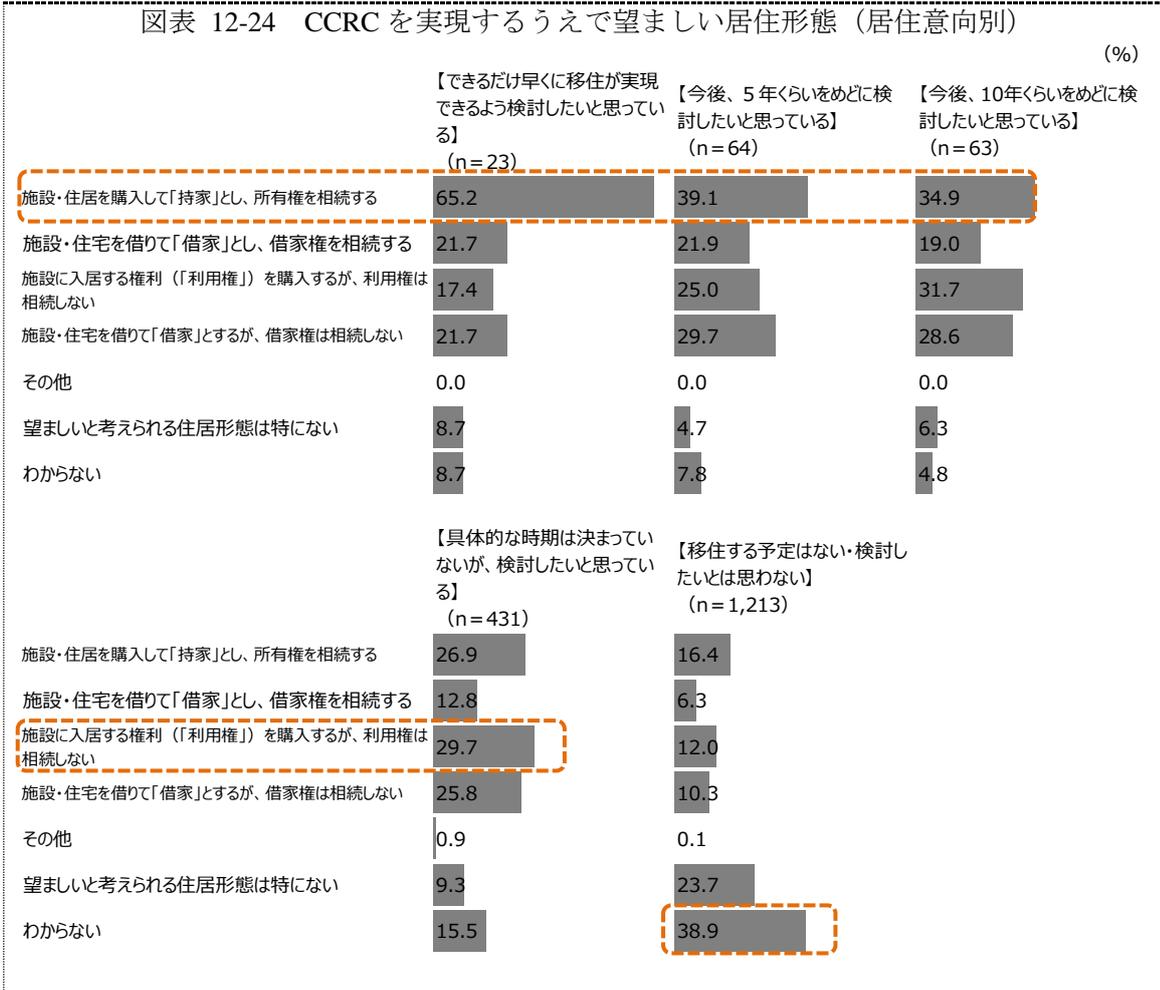
図表 12-23 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（ゆかりの有無別）



- 「わからない」を除くと、ゆかりの有無に関わらず、「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答の割合が最も高い。

【居住意向別】

図表 12-24 CCRC を実現するうえで望ましい居住形態（居住意向別）

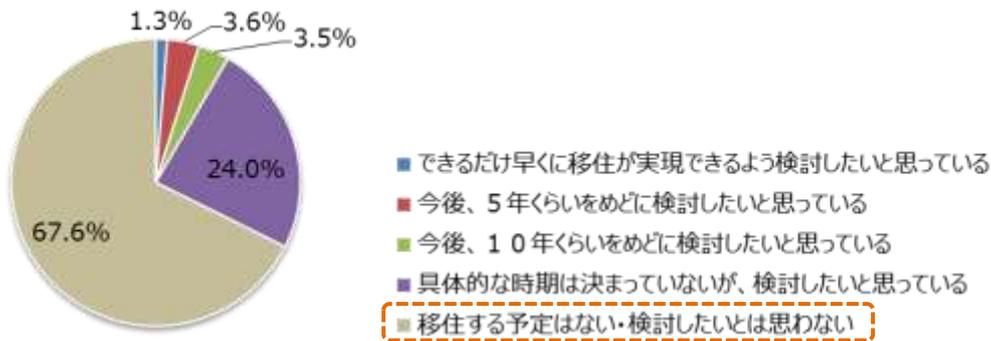


- 移住を検討しているグループは、「施設・住居を購入して「持家」とし、所有権を相続する」が望ましいとする回答の割合が高い。移住を検討しているものの時期は決めていないグループは、「施設に入居する利用権を購入するが、利用権は相続しない」が望ましいとする回答の割合が最も高い。

問 15 (問 6 で「現在、三浦市に住んでいる」と回答した方以外に対して) もし、三浦市に日本版 CCRC が実現した場合、移住に関する希望はありますか。(価格や、広さなど条件があう住居や問 6 でお答えになった関心項目が十分に満たされる場合を前提とします。)

- 三浦市に CCRC が実現した場合、**移住を予定・検討したいと思っている回答者は 32.4% に上る**。これは現在三浦市への移住を予定・検討している回答者の割合 (市外在住回答者の 9.8%) より高い。

図表 12-25 三浦市に CCRC が実現した場合に移住する希望があるか



(三浦市外在住の回答者 1,794 名)

【男女別】

図表 12-26 三浦市に CCRC が実現した場合に移住する希望があるか (男女別)

	【男性】 (n=900)	【女性】 (n=900)
できるだけ早くに移住が実現できるよう検討したいと思っている	1.4	1.1
今後、5年くらいをめどに検討したいと思っている	2.9	4.2
今後、10年くらいをめどに検討したいと思っている	4.2	2.8
具体的な時期は決まっていないが、検討したいと思っている	25.8	22.1
移住する予定はない・検討したいとは思わない	65.6	69.2

- 移住を予定・検討したいと思っている回答者の割合は、男性で 34.4%、女性で 30.8% と、**男性の方が若干高い**。

【年代別】

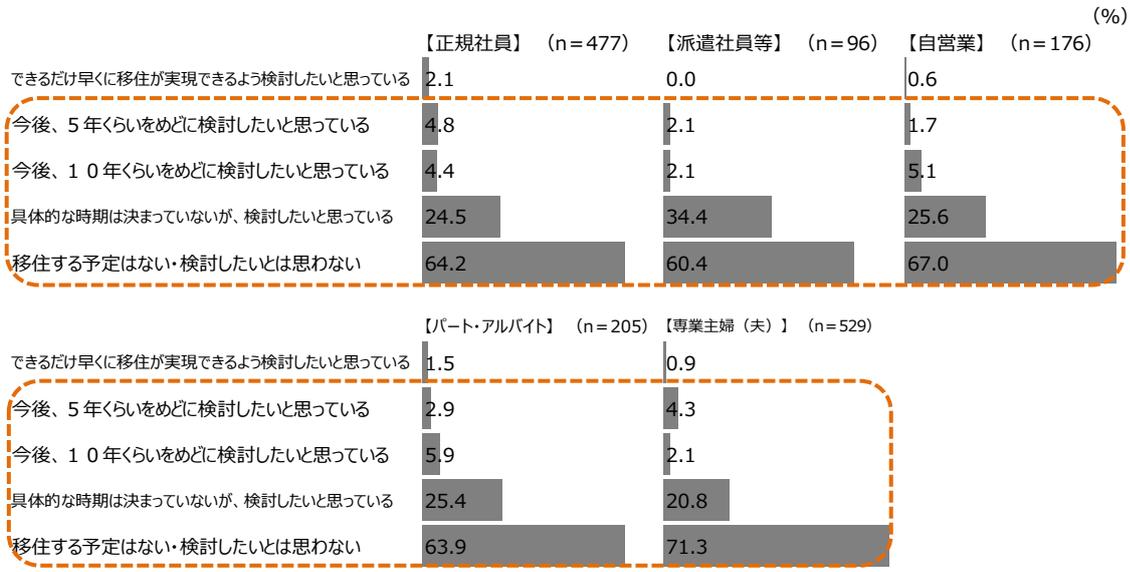
図表 12-27 三浦市に CCRC が実現した場合に移住する希望があるか (年代別)

	【50代】 (n=800)	【60代】 (n=800)	【70代】 (n=200)
できるだけ早くに移住が実現できるよう検討したいと思っている	1.4	1.3	1.0
今後、5年くらいをめどに検討したいと思っている	3.4	3.6	4.0
今後、10年くらいをめどに検討したいと思っている	4.0	2.9	4.0
具体的な時期は決まっていないが、検討したいと思っている	25.3	23.0	22.5
移住する予定はない・検討したいとは思わない	65.9	68.8	68.0

- 移住を予定・検討したいと思っている回答者の割合は、50代で 34.1%、60代で 31.2%、70代で 32.0% と、**50代で若干高くなっている**。

【職業別】

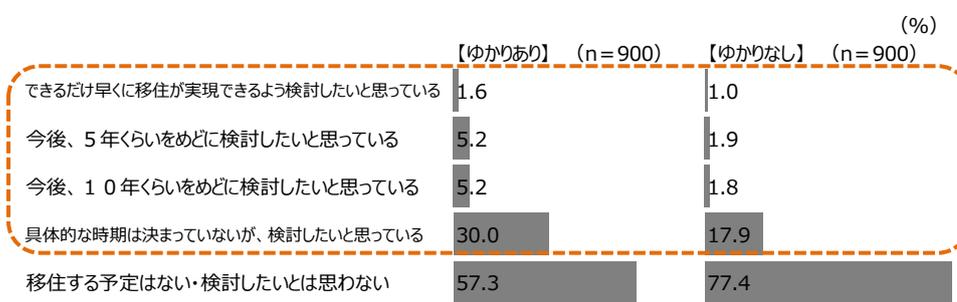
図表 12-28 三浦市に CCRC が実現した場合に移住する希望があるか（職業別）



- 職業別の移住を予定・検討したいと思っている回答者の割合は、派遣社員等で39.6%と比較的高く、移住希望が高い。
- 一方、専業主婦(夫)では28.7%と低くなっており、移住を考えていない割合が高い。

【ゆかりの有無別】

図表 12-29 三浦市に CCRC が実現した場合に移住する希望があるか（ゆかり有無別）



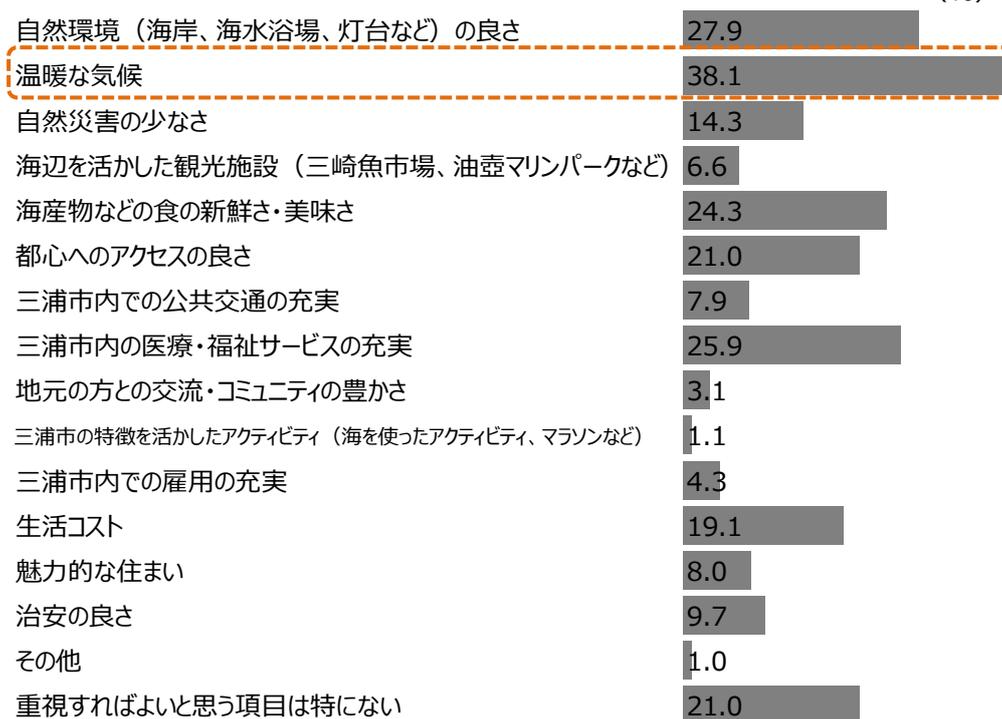
- 移住を予定・検討したいと思っている回答者の割合は、ゆかり有りが42.7%、ゆかり無しが22.6%と大きな差が見られ、ゆかりのある人ほど三浦市への移住に関心を抱いている傾向がわかる。

12.1.5 ターゲットに対する情報提供について

問 16 日本版 CCRC が三浦市に実現すると仮定して、あなた自身がより興味をもったり、あなたの知人や家族に PR するには、CCRC のまちづくりにおいて、どのような項目を重視すればよいと思いますか。当てはまるものを最大 3 つまで選んで下さい。

- CCRC が三浦市で実現すると仮定した場合、まちづくりにおいては「温暖な気候」を重視すべきであると回答した割合が 38.1% と最も高い。次いで、「自然環境の良さ」が 27.9%、「医療・福祉サービスの充実」が 25.9% であった。

図表 12-30 三浦市における CCRC のまちづくりにおいて、何を重視するか（複数回答）
(%)



(アンケート総回答者 1,800 名)

12.2 医療・介護負担や経済波及効果などのシミュレーション

12.2.1 シミュレーションのシナリオ3パターンの内容

三浦版 CCRC のターゲットとなる移住者の受入ケース（シミュレーションの前提条件）を、ターゲットとする移住者の特性や三浦版 CCRC の構想を踏まえて、以下の3つのパターンのシナリオ（インプット条件）を設定した。

シナリオ①：三浦版 CCRC 構想において想定する CCRC 展開モデル（施設型）を対象として、最大の開発規模、開発スピードを勘案して設定。

シナリオ②：シナリオ①と同様の開発スピードで、半分の開発規模を勘案して設定。

シナリオ③：「まち・ひと・しごと総合戦略」に準拠した、政策実施期間、施策効果による人口増加を見込んで設定。

以下に、シナリオごとの前提条件をまとめる。

図表 12-31 3 パターンのシナリオ設定（インプット条件）

項目	内容	シナリオ① 最大開発規模	シナリオ② 最大開発規模 の半分	シナリオ③ 人口ビジョン 準拠	設定の考え方
移住政策	政策実施期間	10年間	5年間	5年間	三浦市が目標とするCCRC実現に向け各種施設・環境を整備する期間 ①想定するCCRCモデル（施設型）を対象として、最大の開発規模・開発スピードを勘案した場合 ②①と同様の開発スピードで、半分の開発規模を勘案した場合 ③まち・ひと・しごと総合戦略に準拠した場合（政策実施期間、人口増加人数）
	年次移住者数	合計2,500人 (250人×10年間)	合計1,250人 (250人×5年間)	合計500人 (100人×5年間)	
	政策効果計算期間	50年間			・60歳の高齢者が移住してきた場合に、最も長寿命の方も死亡するとされる期間 ➢ 60歳の方が移住した場合、要介護となる割合が最も高い時期が25年後と想定されるため、政策効果計算期間を25年以上を前提した。
移住者 プロフィール	性別の分布	1:1			三浦版CCRC構想で想定するターゲット
	移住者の対象年齢幅	50～69歳			三浦版CCRC構想のターゲット層として、アクティブシニアを対象として設定
	移住者の最大ボリューム層の年齢	60歳			三浦版CCRC構想で想定するターゲット層の中間層
	移住時の健康状態	健常者 = 10割 / 要介護認定 = 0割			三浦版CCRC構想で想定するターゲット（アクティブシニアを対象）
	住所地特例適用割合 (サ高住入居者の割合で算出)	一般住宅居住者 = 10割 / サ高住入居者 = 0割			住所地特例適用割合をゼロとし、三浦市財政にとって最も厳しい条件として設定した。
	年間消費可能額	240万円/年			想定するアッパーミドルのアクティブシニアが月20万円消費すると仮定
	自市内消費割合	全国値77%（既定）			全国消費実態調査（品目及び購入先・購入地域に関する結果 単身世帯_表150_男女、年齢階級、購入地域、購入先、品目別1世帯当たり1か月間の支出）
	年齢別受診率、1人あたり医療費・介護費	全国値を使用（既定）			・「国民健康保険実態調査」第1表-1 都道府県別、保険者数、年齢階級別被保険者等数、所得（旧たし書き方式による課税標準額）の状況 ・「後期高齢者医療事業状況報告」第1表 都道府県別被保険者の状況 ・「医療給付実態調査」第7表-1 都道府県別、年齢階級別、診療種類別、件数、日数（回数）、点数（金額） 市町村国保・計、第7表-2 都道府県別、年齢階級別、診療種類別、件数、日数（回数）、点数（金額） 後期高齢者医療制度・計 ・「介護給付費実態調査」閲覧第2表 費用額、介護予防サービス種類・要支援状態区分・都道府県別（累計）、閲覧第2表 費用額、介護サービス種類・要介護状態区分・都道府県別（累計）
医療費・介護費の自己負担比率、市町村負担比率	全国地8.33%（既定）			公費約5割×市町村負担分1/6（国：都道府県：市町村 = 4：1：1）	

12.2.2 シナリオ3パターンのシミュレーション結果

各シナリオのシミュレーション結果を以下にまとめる。

図表 12-32 シナリオ3パターンのシミュレーション結果（50年間の累積額）

	シナリオ① 最大開発規模	シナリオ② 最大開発規模 の半分	シナリオ③ 人口ビジョン 準拠
平均移住者数のピーク(のべ)	2,424(2,500)	1,237(1,250)	498(500)
要介護3以上のピーク (90%値)	310人 [12%] (32年目)	166人 [13%] (30年目)	69人 [14%] (28-30年目)
三浦市の医療・介護費負担 累積額(50年間) (90%値)	52.7億円 (ピーク：30年目)	26.8億円 (ピーク：27年目)	10.8億円 (ピーク：28年目)
介護人材必要人員のピーク (90%値)	152人 (31年目)	81人 (28-29年目)	34人 (28、30年目)
経済波及効果累積額(50年間) (10%値)	12.4億円 (ピーク19年目)	6.2億円 (ピーク17年目)	2.4億円 (ピーク5年目)
社会保険料収入+市民税収入 累積額 (50年間) (10%値)	239.7億 (ピーク10年目)	119.3億円 (ピーク5、9年目)	47.1億円 (ピーク5、9年目)

注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値

10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

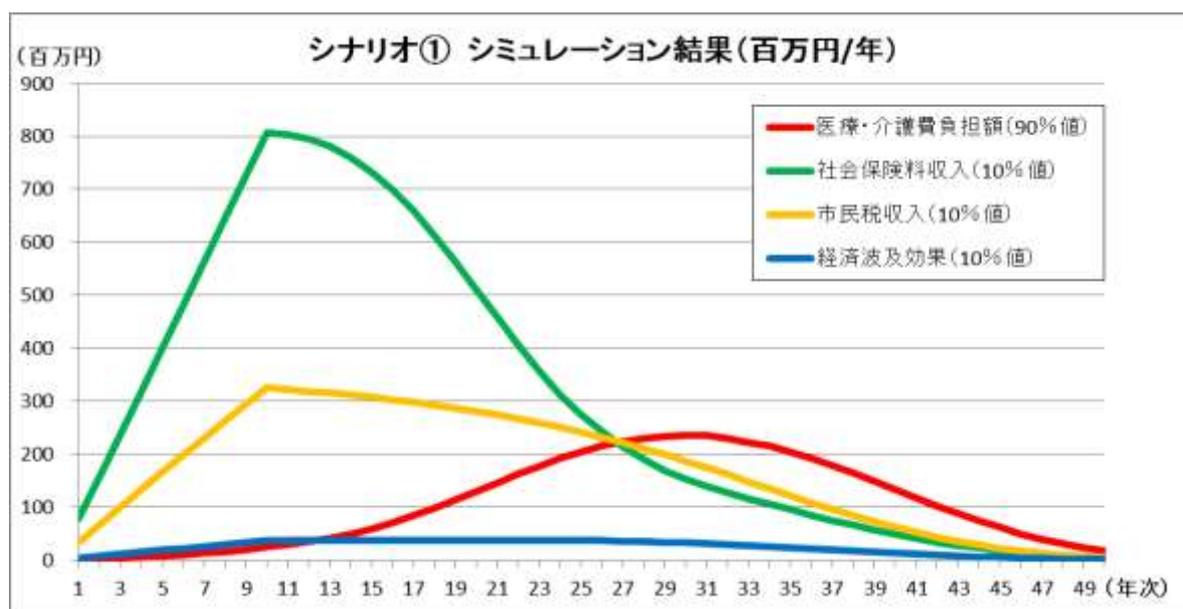
(1) シナリオ①：最大開発規模

1) シミュレーション結果のまとめ

図表 12-33 シナリオ①（最大開発規模）のシミュレーション結果（50年間の累積額）

項目	シミュレーション結果	項目	シミュレーション結果
移住者	・のべ2,500人 ・最大2,424人(10年目)	介護人材の必要人員数	(90%値)ピーク152人(31年目)
要支援・要介護者数	(90%値)ピーク575人 [23%] (31年目)	経済波及効果	・(10%値)ピーク38.0百万円/年(19年目) ・(10%値)累積12.4億円
要介護者	(90%値)ピーク493人 [20%] (31-32年目)	雇用誘発数	・(10%値)ピーク641人/年(26年目) ・(10%値)累積20,782人
要介護3以上	(90%値)ピーク310人 [12%] (32年目)	税収効果	・(10%値)ピーク1.0百万円/年(23年目) ・(10%値)累積32.9百万円
要介護5	(90%値)ピーク122人 [5%] (31年目)	社会保険料収入	・(10%値)ピーク806.2百万円/年(10年目) ・(10%値)累積153.2億円
医療介護費負担	・(90%値)ピーク235.7百万円/年(30年目) ・(90%値)累積52.7億円	市民税収入	・(10%値)ピーク325.2百万円/年(10年目) ・(10%値)累積86.5億円

図表 12-34 シナリオ①（最大開発規模）のシミュレーション結果（50年間の金額推移）

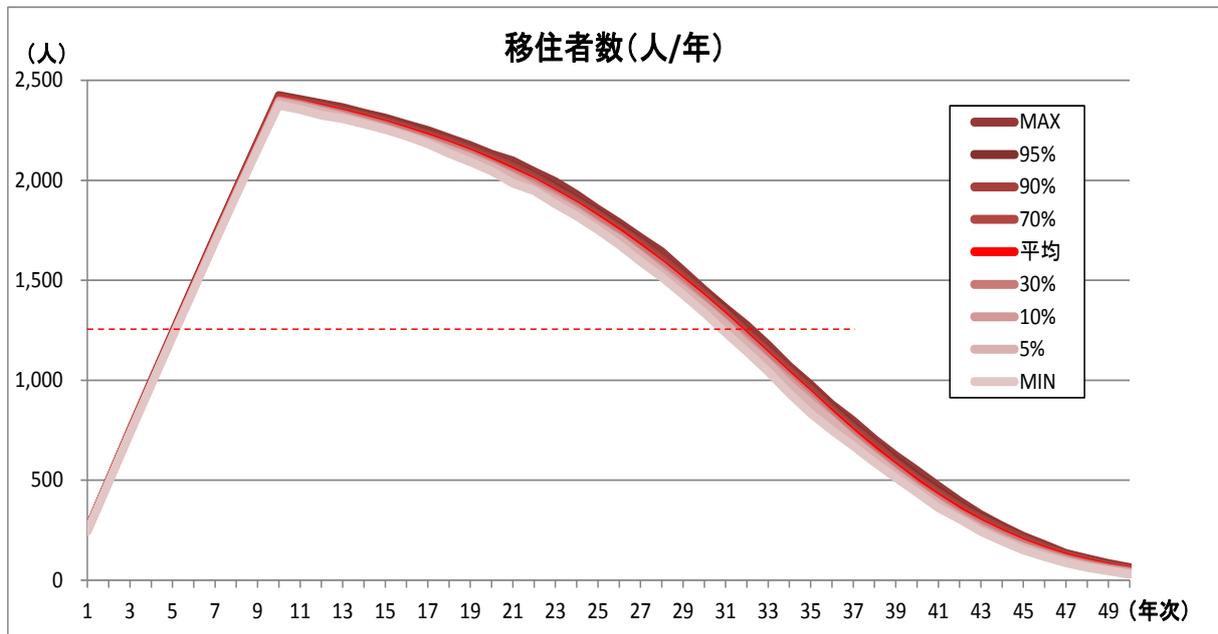


注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値

10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

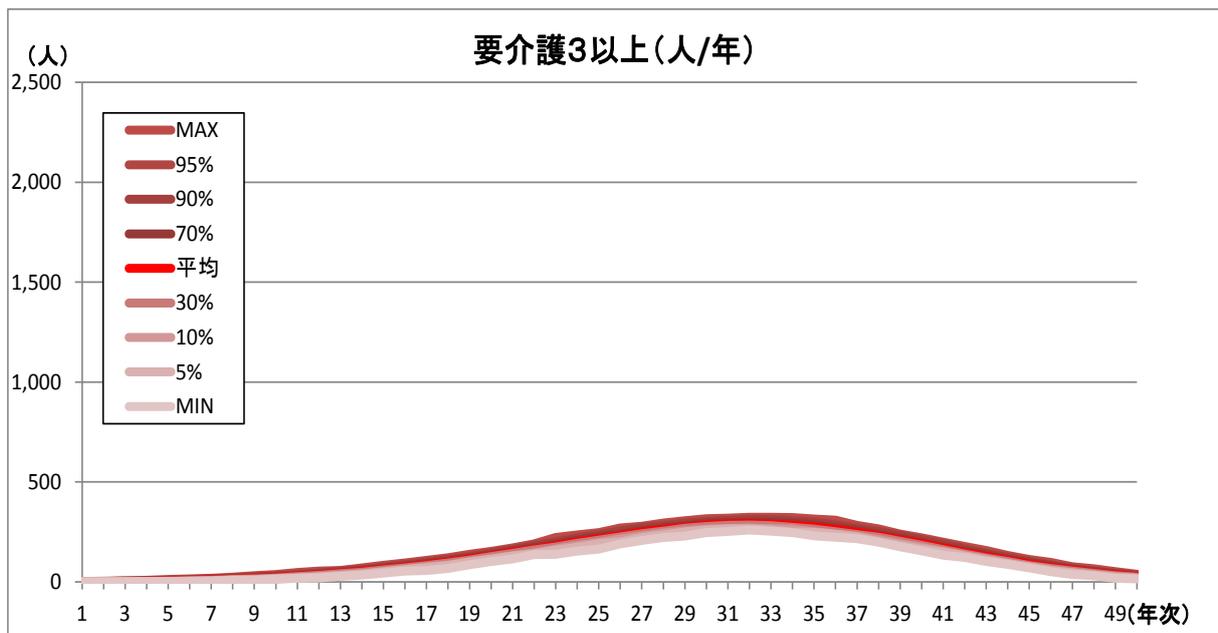
2) 移住者数の推移

- ・ 移住者と呼び込む 10 年間、移住者数は増加 (のべ 2,500 人)
- ・ ピーク移住者数 : 最大 2,424 人、最小 2,377 人、平均 2,404 人 (いずれも 10 年目)
- ・ 移住者が 1,250 人に半減する期間 : 最短 31 年、最長 33 年、平均 32 年



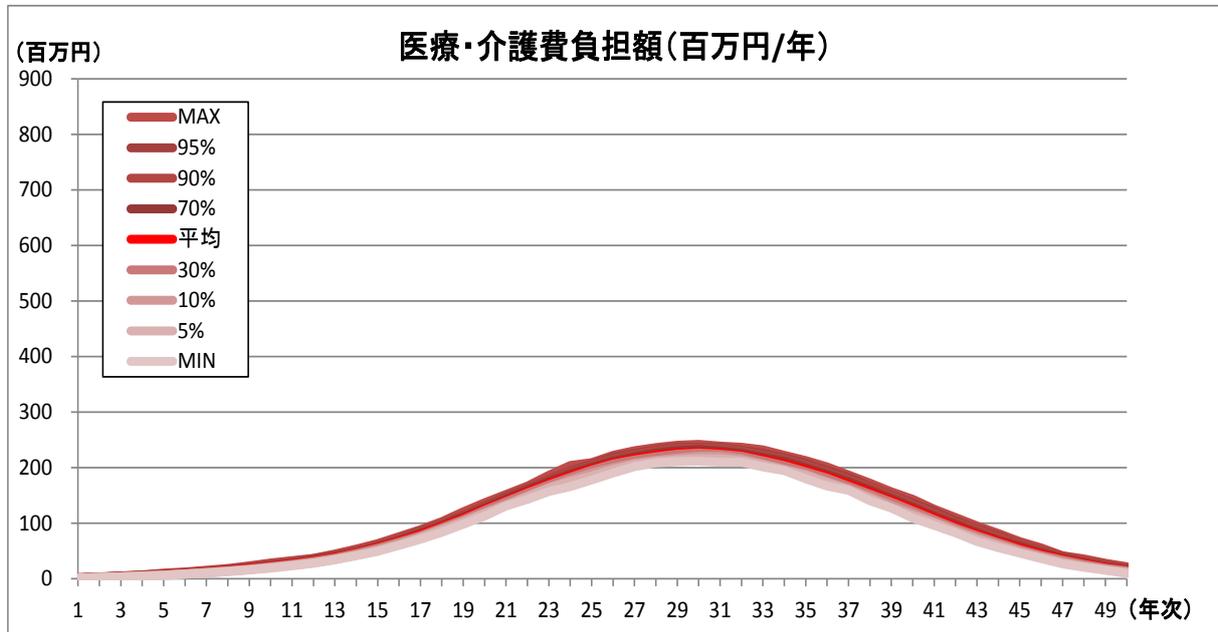
3) 要介護3以上の推移

- ・ 90%値のピーク : 310 人(32 年目)
- ・ ワorstケースのピーク : 323 人(32-33 年目)
- ・ 平均のピーク : 291 人(32 年目)



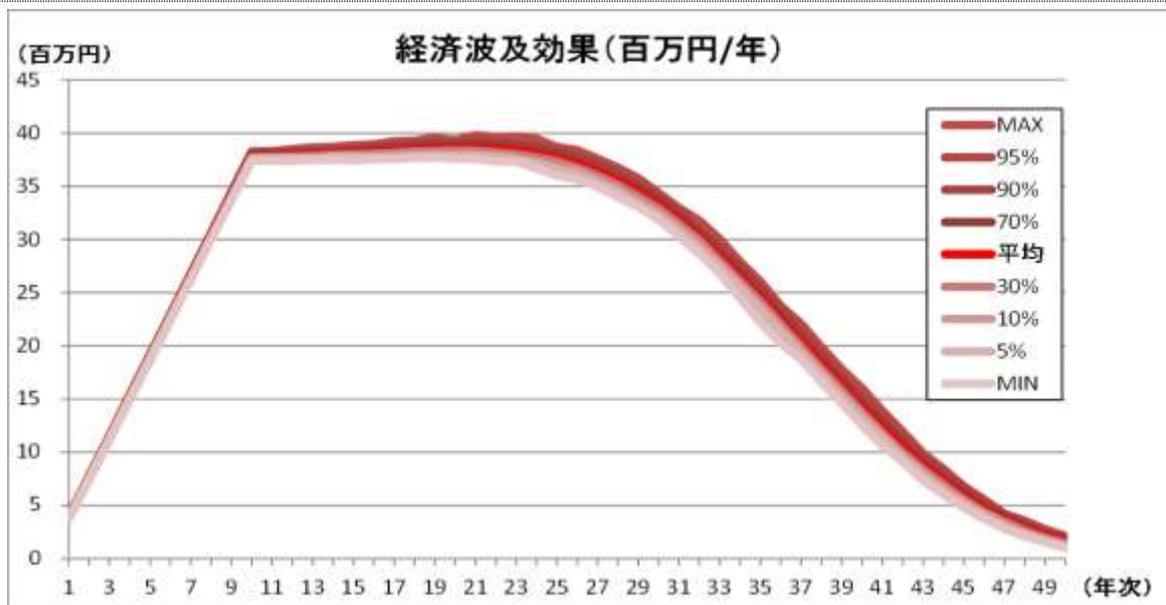
4) 三浦市の医療・介護費負担額

- ・ 90%値のピーク： 235.7 百万円/年(30 年目)
- ・ ワーストケースのピーク： 241.7 百万円/年(30 年目)
- ・ 平均のピーク： 228.5 百万円/年程度(30 年目)



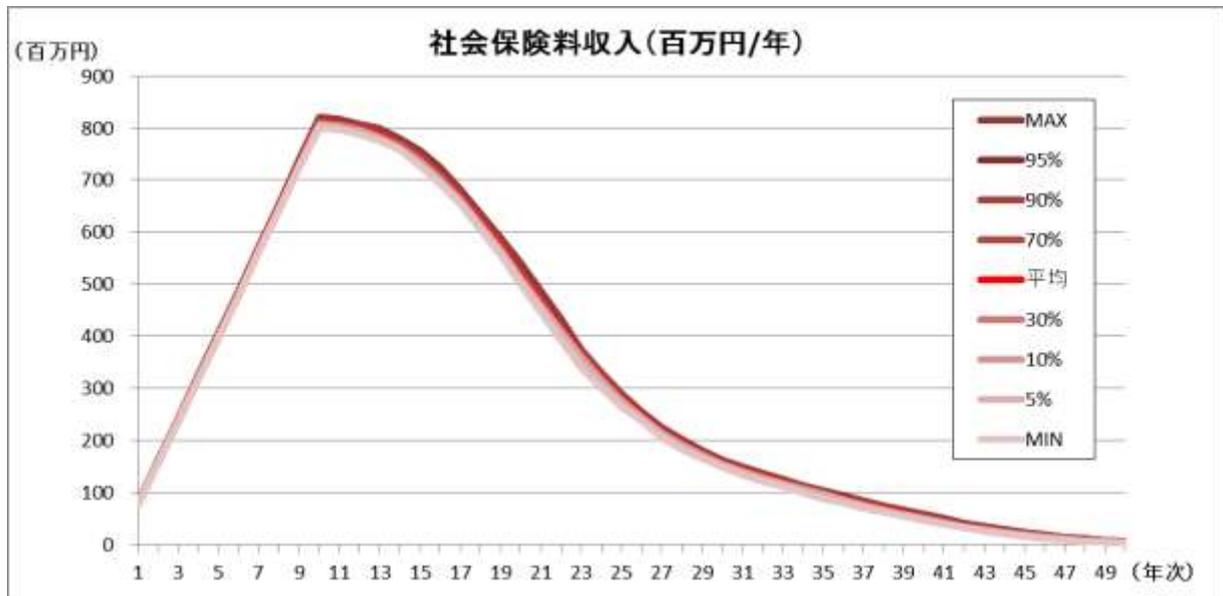
5) 経済波及効果

- ・ 19～21 年目がピーク：ピークで 37.7～39.8 百万円/年
 ※最大値、95%値、90%値は 21 年目
 70%値、平均、30%値は 20 年目
 10%値、5%値、最小値は 19 年目
- ・ その後は減少：10%値で 27 年目まで 35.0 百万円/年超。
- ・ 20.0 百万円未満/年まで減少する年次：最短 37 年、最長 38 年、平均 38 年



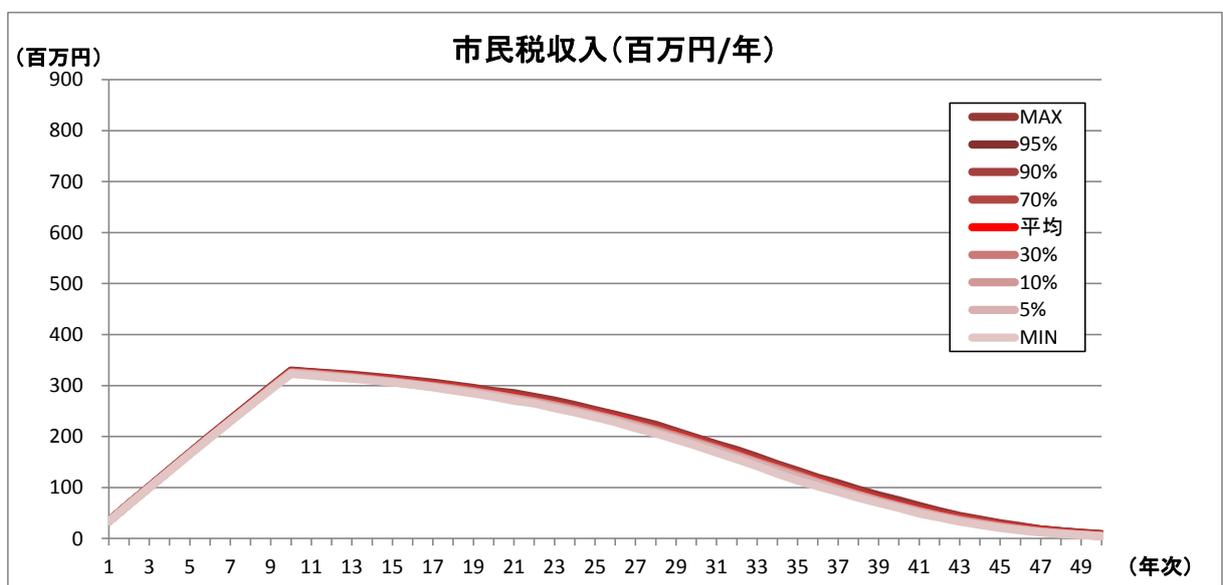
6) 社会保険料収入

- ・移住者が最も多い10年目がピーク：799.5～820.5百万円/年
- ・その後、後期高齢者の増加に伴い急減：10%値で22年目まで400.0百万円/年超



7) 市民税収入

- ・移住者が最も多い10年目がピーク：322.9～329.3百万円/年
- ・その後は減少：10%値で32年目まで150百万円/年超



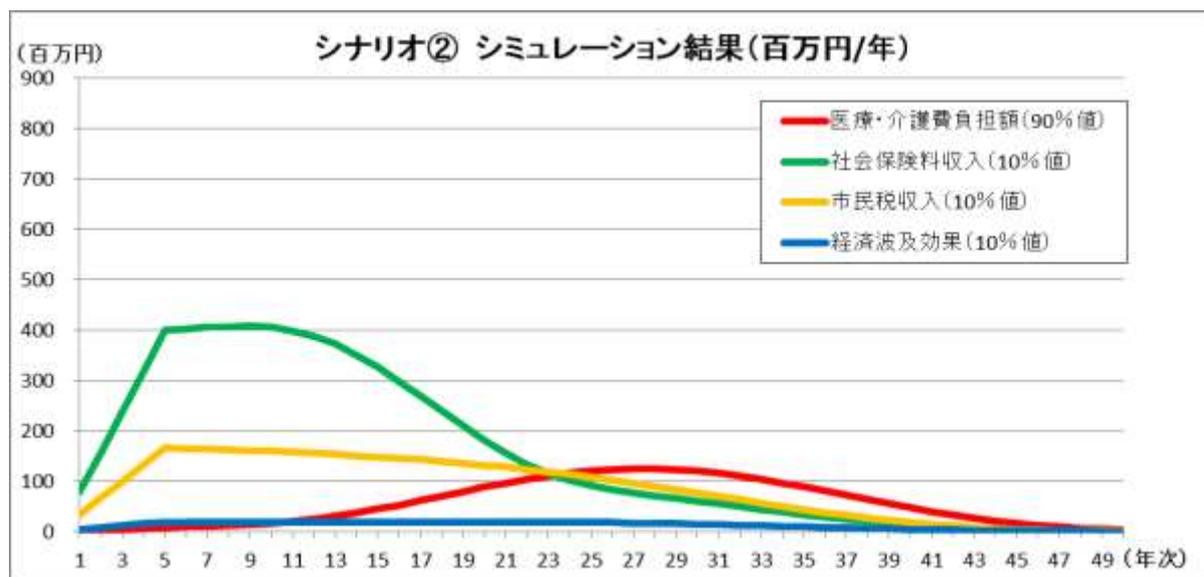
(2) シナリオ②：最大開発規模の半分

1) シミュレーション結果のまとめ

図表 12-35 シナリオ②（最大開発規模の半分）のシミュレーション結果（50年間の累積額）

項目	シミュレーション結果	項目	シミュレーション結果
移住者	・のべ1,250人 ・最大1,237人(5年目)	介護人材の必要人員数	(90%値)ピーク81人(28-29年目)
要支援・要介護者数	(90%値)ピーク306人 [24%] (29年目)	経済波及効果	・(10%値)ピーク18.9百万円/年(17年目) ・(10%値)累積615.0百万円
要介護者	(90%値)ピーク261人 [21%] (29-30年目)	雇用誘発数	・(10%値)ピーク320人/年(23年目) ・(10%値)累積10,346人
要介護3以上	(90%値)ピーク166人 [13%] (30年目)	税収効果	・(10%値)ピーク500.6千円/年(20年目) ・(10%値)累積16.4百万円
要介護5	(90%値)ピーク66人 [5%] (29-31年目)	社会保険料収入	・(10%値)ピーク407.5百万円/年(9年目) ・(10%値)累積76.2億円
医療介護費負担	・(90%値)ピーク124.1百万円/年(27年目) ・(90%値)累積26.8億円	市民税収入	・(10%値)ピーク165.9百万円/年(5年目) ・(10%値)累積43.1億円

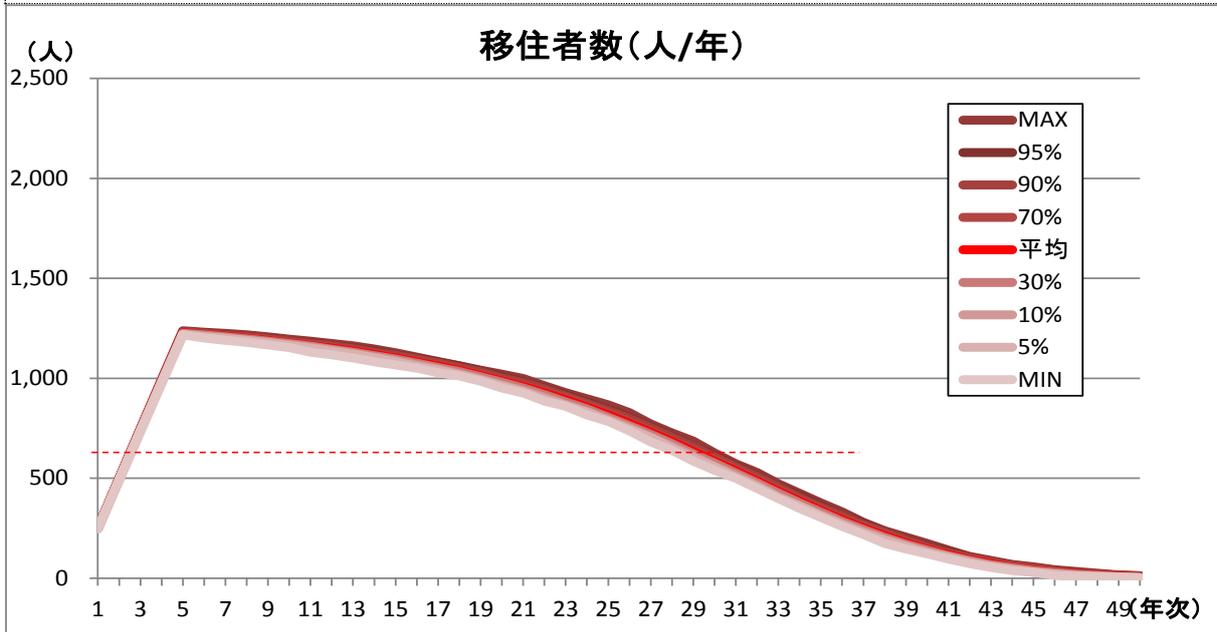
図表 12-36 シナリオ②（最大開発規模の半分）のシミュレーション結果（50年間の金額推移）



注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値
10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

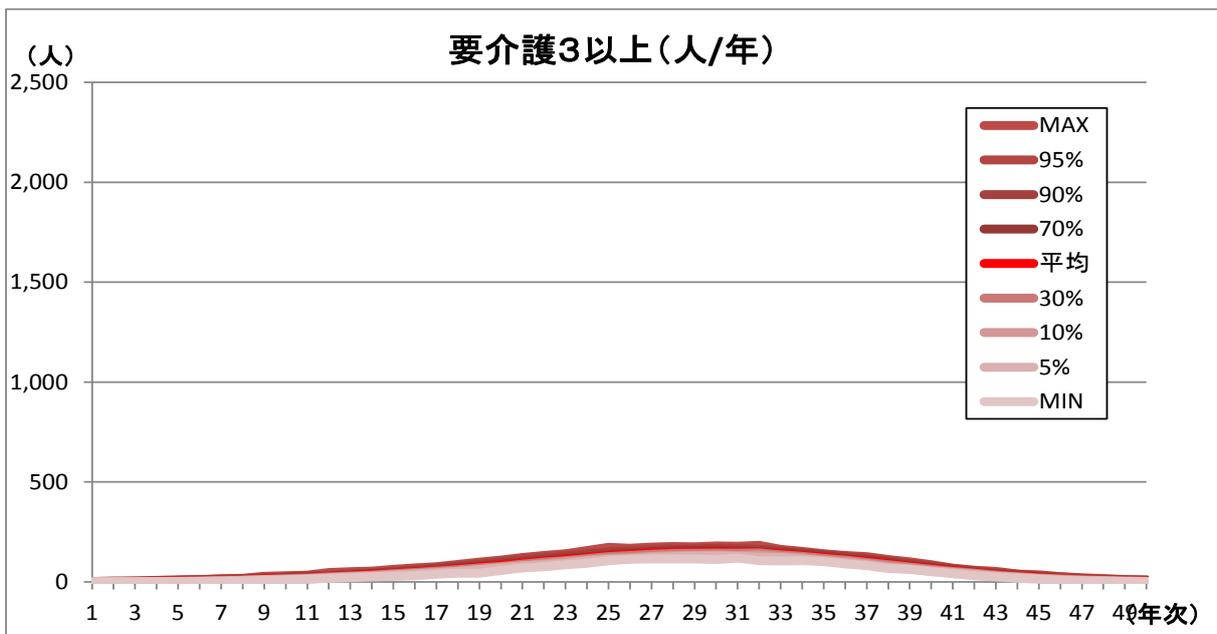
2) 移住者数の推移

- ・ 移住者と呼び込む 5 年間で、移住者数は増加 (のべ 1,250 人)
- ・ ピーク移住者数 : 最大 1,237 人、最小 1,217 人、平均 1,227 人 (いずれも 5 年目)
- ・ 移住者が 600 人に半減する期間 : 最短 29 年、最長 31 年、平均 30 年



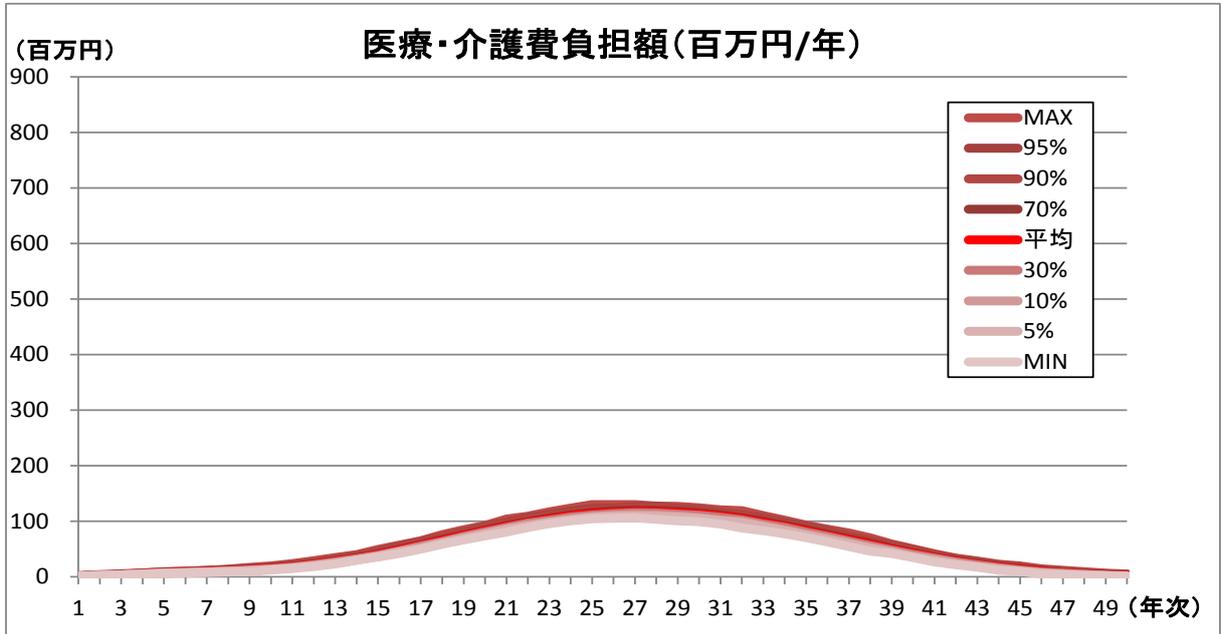
3) 要介護3以上の推移

- ・ 90%値のピーク : 166 人(30 年目)
- ・ ワorstケースのピーク : 182 人(32 年目)
- ・ 平均のピーク : 151 人(30 年目)



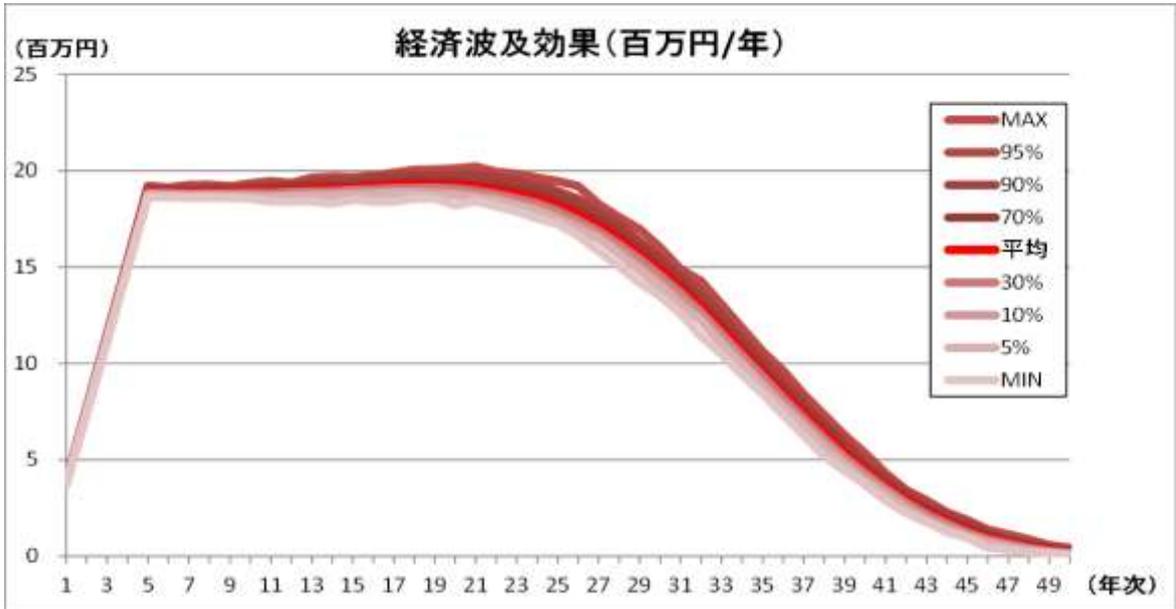
4) 三浦市の医療・介護費負担額

- ・90%値のピーク：124.1百万円/年(27年目)
- ・ワーストケースのピーク：129.7百万円/年(25年目)
- ・平均のピーク：117.7百万円/年程度(27年目)



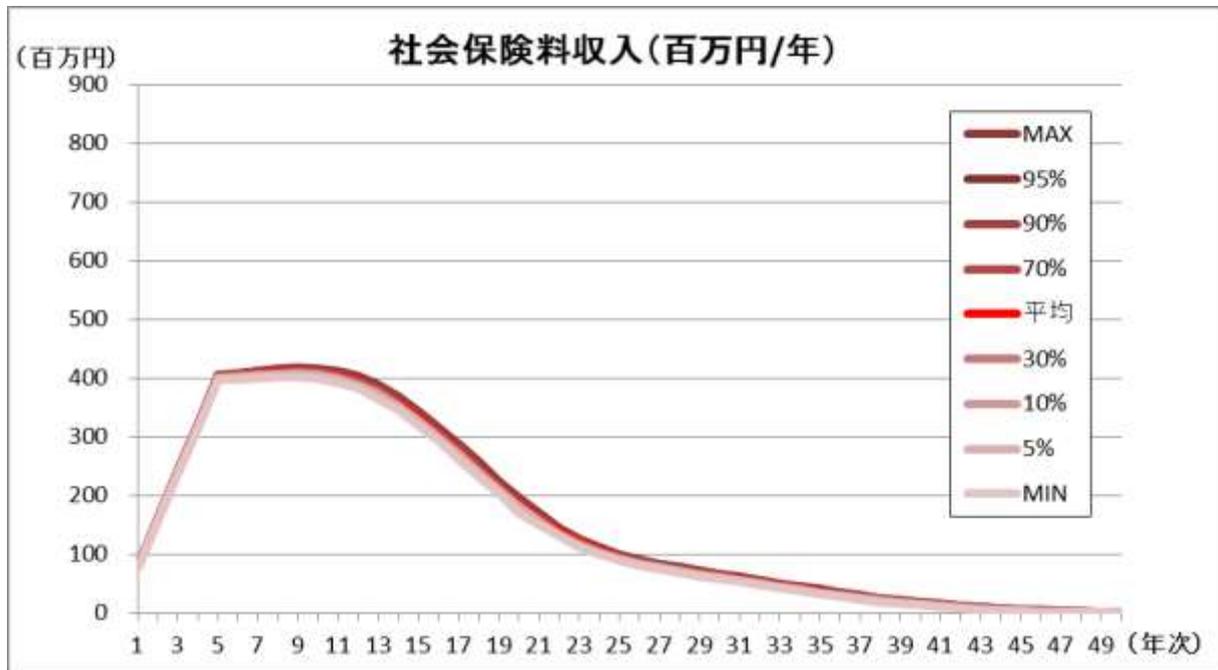
5) 経済波及効果

- ・17～21年目がピーク：ピークで18.6～20.2百万円/年
 ※最大値、90%値が21年目、95%値、70%値、
 平均、5%値は18年目、30%値は19年目、
 10%値は17年目、最小値は5年目
- ・その後は減少：10%値で29年目まで15.0百万円/年超。
- ・10.0百万円未満/年まで減少する年次：最短34年、最長36年、平均35年



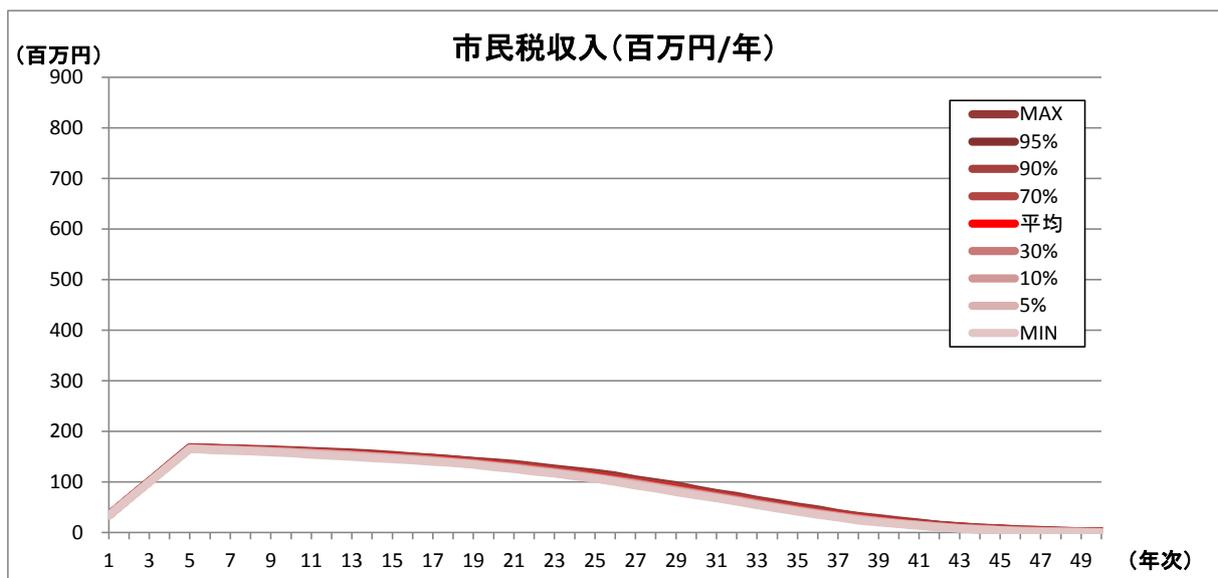
6) 社会保険料収入

- ・ 9年目がピーク： 402.0～418.1 百万円/年
※最小値のみ 8年目
- ・ その後、後期高齢者の増加に伴い急減：10%値で19年目まで200.0 百万円/年超



7) 市民税収入

- ・ 移住者が最も多い5年目がピーク： 165.3～168.0 百万円/年
- ・ その後は減少：10%値で29年目まで80.0 百万円/年超



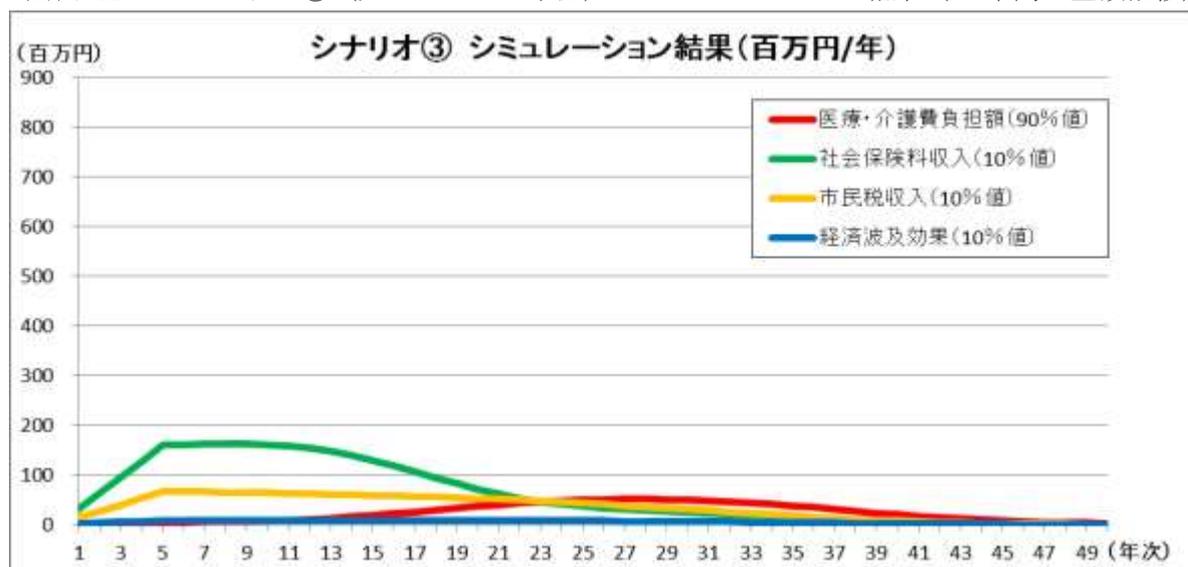
(3) シナリオ③：人口ビジョン準拠

1) シミュレーション結果のまとめ

図表 12-37 シナリオ③（人口ビジョン準拠）のシミュレーション結果（50年間の累積額）

項目	シミュレーション結果	項目	シミュレーション結果
移住者	・のべ500人 ・最大498人(5年目)	介護人材の 必要人員数	(90%値)ピーク34人(28、30年目)
要支援・要 介護者数	(90%値)ピーク129人 〔26%〕(30年目)	経済波及 効果	・(10%値)ピーク7.5百万円/年(5年目) ・(10%値)累積243.0百万円
要介護者	(90%値)ピーク110人 〔22%〕(30年目)	雇用誘発数	・(10%値)ピーク127人/年(24年目) ・(10%値)累積4,081人
要介護3 以上	(90%値)ピーク69人 〔14%〕(28-30年目)	税収効果	・(10%値)ピーク197.9千円/年(21年目) ・(10%値)累積6.5百万円
要介護5	(90%値)ピーク29人 〔6%〕(30-31年目)	社会保険料 収入	・(10%値)ピーク161.8百万円/年(9年目) ・(10%値)累積30.1億円
医療介護 費負担	・(90%値)ピーク50.9百万円/年(28年目) ・(90%値)累積10.8億円	市民税収入	・(10%値)ピーク66.2百万円/年(5年目) ・(10%値)累積17.0億円

図表 12-38 シナリオ③（人口ビジョン準拠）のシミュレーション結果（50年間の金額推移）

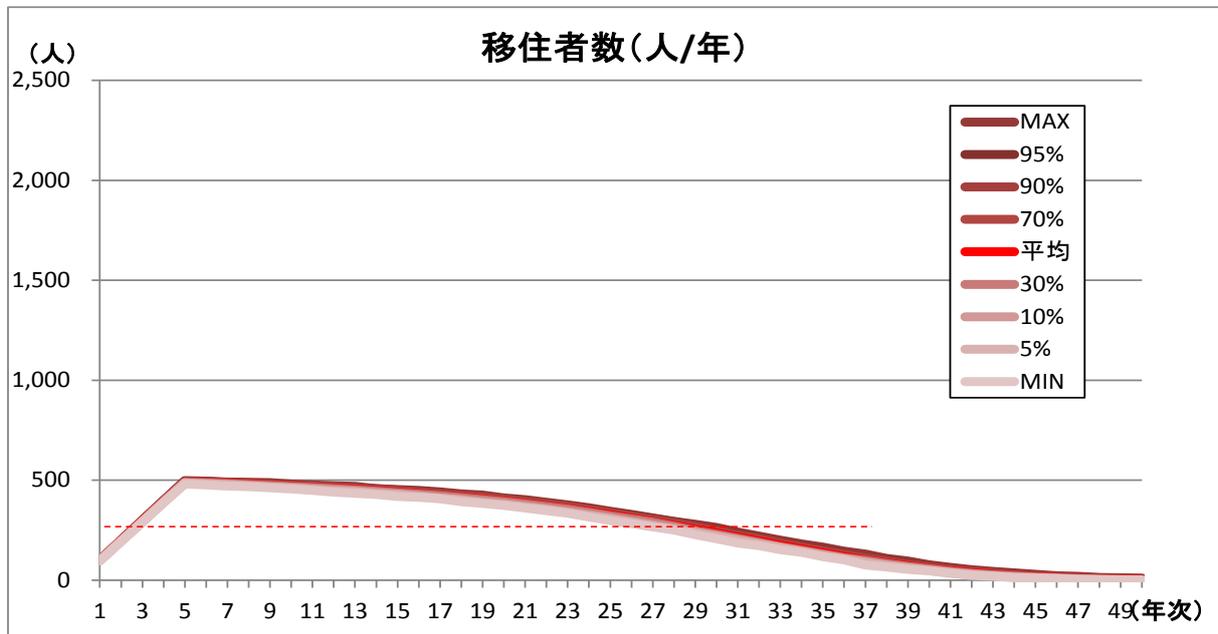


注) 90%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に大きい値

10%値：100回のシミュレーション結果から得られた値のうち、10番目に小さい値

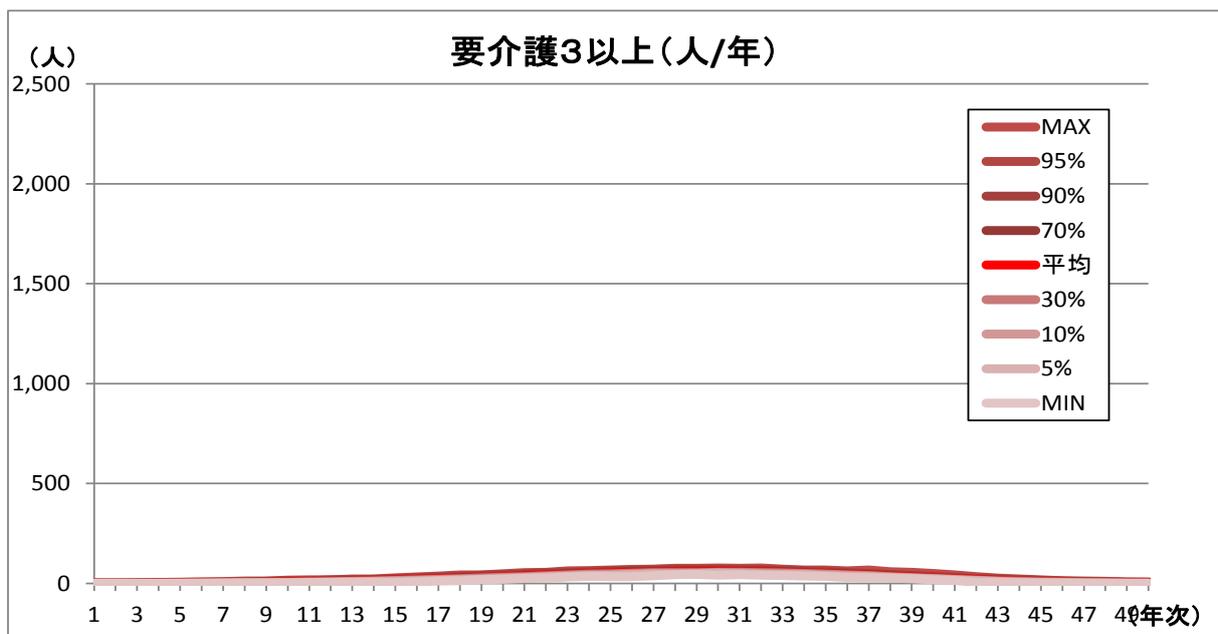
2) 移住者数の推移

- ・移住者と呼び込む5年間、移住者数は増加（のべ500人）
- ・ピーク移住者数：最大498人、最小480人、平均491人（いずれも5年目）
- ・移住者が250人に半減する期間：最短29年、最長31年、平均30年



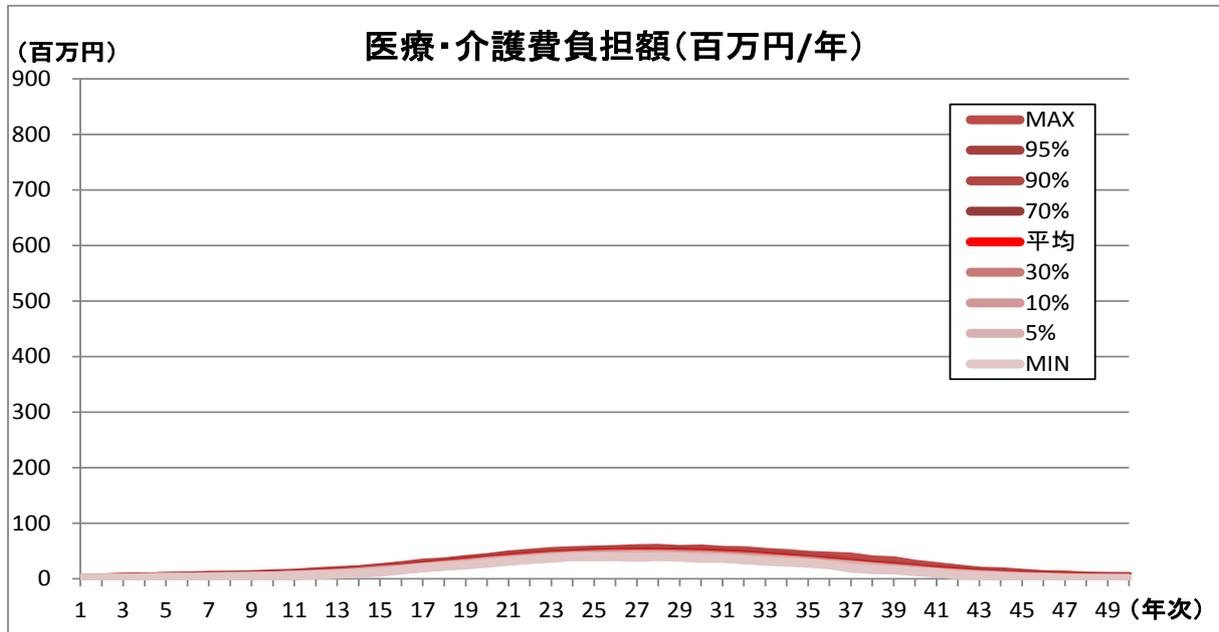
3) 要介護3以上の推移

- ・90%値のピーク：69人(28-30年目)
- ・ワーストケースのピーク：77人(30、32年目)
- ・平均のピーク：60人(30年目)



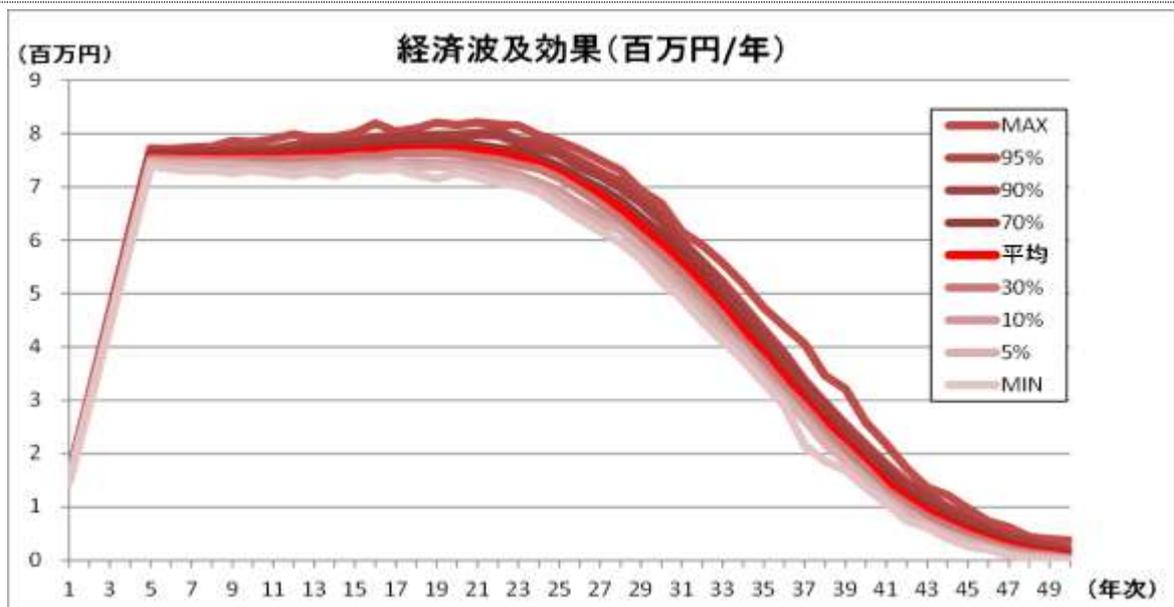
4) 三浦市の医療・介護費負担額

- ・90%値のピーク： 50.9 百万円/年(28 年目)
- ・ワーストケースのピーク： 54.5 百万円/年(28 年目)
- ・平均のピーク： 46.8 百万円/年程度(28 年目)



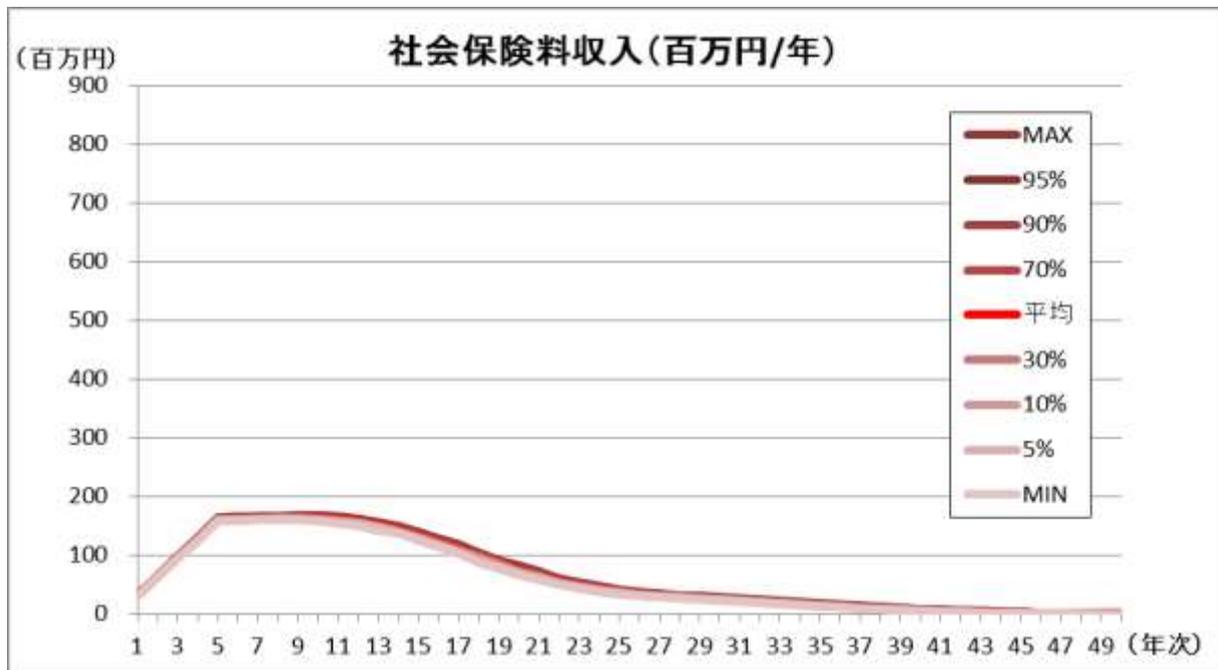
5) 経済波及効果

- ・18～22 年目がピーク：ピークで 7.4～8.2 百万円/年
 ※最大値、90%値は 21 年目、95%値は 22 年目、
 70%値、30%値は 19 年目、平均は 18 年目、
 10%値、5%値、最小値は 5 年目
- ・その後は減少：10%値で 28 年目まで 6.0 百万円/年超。
- ・4.0 百万円未満/年まで減少する年次：最短 34 年、最長 38 年、平均 35 年



6) 社会保険料収入

- ・8～9年目がピーク：160.2～168.7百万円/年
 ※最大値、95%値、90%値、70%値、平均、30%値、10%値は9年目、
 5%値、最小値は8年目
- ・その後、後期高齢者の増加に伴い急減：10%値で19年目まで80.0百万円/年超



7) 市民税収入

- ・移住者が最も多い5年目がピーク：65.2～67.7百万円/年
- ・その後は減少：10%値で30年目まで30.0百万円/年超

